

講 義 概 要

(シ ラ バ ス)

2025

看護学研究科

看護学専攻（修士課程）

新潟青陵大学大学院

GURADUATE SCHOOL OF NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY

ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表

看護学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2025(R7)年度入学生)

■看護学研究科

教育理念・目的					教育目的				
生命尊厳・人間尊重 キーワード:「ケアの心」「実践知」					①高度な専門的知識と技術を持った教育研究者育成 ②学際的かつ国際的な視点をもった指導者の育成 ③人間性豊かな感性を持ち、地域の健康支援に取り組む指導者の育成				
科目区分	授業科目名	配当学年	必修	選択	DP1 看護実践・教育・研究を通して、生涯学習できる高度な専門的能力を身につけている	DP2 専門分野における実践知を学問的に意味づける能力を身につけている	DP3 エビデンスに基づいてケアの質向上をはかる能力を身につけている	DP4 文化の多様性を理解し、高い倫理観をもって総合的に調整する能力を身につけている	DP5 専門領域における課題に取り組み、学術的視点で研究活動ができる能力を身につけている
共通科目	看護教育学	2前	2		○			○	
	看護政策論	1後		2	○			○	
	看護倫理	1後	2		○			○	
	看護心理学	1前		2	○			○	
	看護研究法	1前	2		○	○	○		○
	看護情報統計学	1前		2	○	○			○
	原著講読	1前	2		○			○	
	看護理論	1前		2	○	○		○	
	ケアリング論	1後	2		○	○		○	
	教育心理学特論	1前		2	○			○	
	教育学特論	1前		2	○	○			
	国際保健看護学	1後		2	○			○	
	家族看護学	1後		2	○	○		○	
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		母子看護学特論Ⅱ	1前		2	○	○		
		母子看護学特論Ⅲ	1前		2	○	○		
		母子看護学演習Ⅰ	1後		2	○	○		○
		母子看護学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		母子看護学実習	1後		2	○	○		
		学校保健学特論	1前		2	○	○		
		学校保健学実践演習	1後		2	○	○		
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	1前		2	○	○		
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	1後		2	○	○		○
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		ヒューマンケア看護学実習	1後		2	○	○		
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		看護管理学特論Ⅱ	1後		2	○	○		
		看護管理学演習Ⅰ	1前		2	○	○		○
		看護管理学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		看護管理学実習	1後		2	○	○		
	特別研究	看護学特別研究	1通・2通	8		○	○	○	○

看護学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2024(R6)年度入学生)

■看護学研究科

教育理念・目的					教育目的				
生命尊厳・人間尊重 キーワード:「ケアの心」「実践知」					①高度な専門的知識と技術を持った教育研究者育成 ②学際的かつ国際的な視点をもった指導者の育成 ③人間性豊かな感性を持ち、地域の健康支援に取り組む指導者の育成				
科目区分	授業科目名	配当学年	必修	選択	DP1 看護実践・教育・研究を通して、生涯学習できる高度な専門的能力を身につけている	DP2 専門分野における実践知を学問的に意味づける能力を身につけている	DP3 エビデンスに基づいてケアの質向上をはかる能力を身につけている	DP4 文化の多様性を理解し、高い倫理観をもって総合的に調整する能力を身につけている	DP5 専門領域における課題に取り組み、学術的視点で研究活動ができる能力を身につけている
共通科目	看護教育学	2前	2		○			○	
	看護政策論	1後		2	○			○	
	看護倫理	1後	2		○			○	
	看護心理学	1前		2	○			○	
	看護研究法	1前	2		○	○	○		○
	看護情報統計学	1前		2	○	○			○
	原著講読	1前	2		○			○	
	看護理論	1前		2	○	○		○	
	ケアリング論	1後	2		○	○		○	
	教育心理学特論	1前		2	○			○	
	教育学特論	1前		2	○	○			
	国際保健看護学	1後		2	○			○	
	家族看護学	1後		2	○	○		○	
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		母子看護学特論Ⅱ	1前		2	○	○		
		母子看護学特論Ⅲ	1前		2	○	○		
		母子看護学演習Ⅰ	1後		2	○	○		○
		母子看護学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		母子看護学実習	1後		2	○	○		
		学校保健学特論	1前		2	○	○		
		学校保健学実践演習	1後		2	○	○		
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	1前		2	○	○		
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	1後		2	○	○		○
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		ヒューマンケア看護学実習	1後		2	○	○		
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		看護管理学特論Ⅱ	1後		2	○	○		
		看護管理学演習Ⅰ	1前		2	○	○		○
		看護管理学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		看護管理学実習	1後		2	○	○		
	特別研究	看護学特別研究	1通・2通	8		○	○	○	○

看護学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2023(R5)年度入学生)

■看護学研究科

教育理念・目的					教育目的				
生命尊厳・人間尊重 キーワード:「ケアの心」「実践知」					①高度な専門的知識と技術を持った教育研究者育成 ②学際的かつ国際的な視点をもった指導者の育成 ③人間性豊かな感性を持ち、地域の健康支援に取り組む指導者の育成				
科目区分	授業科目名	配当学年	必修	選択	DP1 看護実践・教育・研究を通して、生涯学習できる高度な専門的能力を身につけている	DP2 専門分野における実践知を学問的に意味づける能力を身につけている	DP3 エビデンスに基づいてケアの質向上をはかる能力を身につけている	DP4 文化の多様性を理解し、高い倫理観をもって総合的に調整する能力を身につけている	DP5 専門領域における課題に取り組み、学術的視点で研究活動ができる能力を身につけている
共通科目	看護教育学	2前	2		○			○	
	看護政策論	1後		2	○			○	
	看護倫理	1後	2		○			○	
	看護心理学	1前		2	○			○	
	看護研究法	1前	2		○	○	○		○
	看護情報統計学	1前		2	○	○			○
	原著講読	1前	2		○			○	
	看護理論	1前		2	○	○		○	
	ケアリング論	1後	2		○	○		○	
	教育心理学特論	1前		2	○			○	
	教育学特論	1前		2	○	○			
	国際保健看護学	1後		2	○			○	
	家族看護学	1後		2	○	○		○	
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		母子看護学特論Ⅱ	1前		2	○	○		
		母子看護学特論Ⅲ	1前		2	○	○		
		母子看護学演習Ⅰ	1後		2	○	○		○
		母子看護学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		母子看護学実習	1後		2	○	○		
		学校保健学特論	1前		2	○	○		
		学校保健学実践演習	1後		2	○	○		
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	1前		2	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	1前		2	○	○		
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	1後		2	○	○		○
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		ヒューマンケア看護学実習	1後		2	○	○		
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	1前		2	○	○	○	
		看護管理学特論Ⅱ	1後		2	○	○		
		看護管理学演習Ⅰ	1前		2	○	○		○
		看護管理学演習Ⅱ	1後		2	○	○		○
		看護管理学実習	1後		2	○	○		
	特別研究	看護学特別研究	1通・2通	8		○	○	○	○

看護学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2022(R4)年度入学生)

■看護学研究科

教育理念・目的					教育目的				
生命尊厳・人間尊重 キーワード:「ケアの心」「実践知」					①高度な専門的知識と技術を持った教育研究者育成 ②学際的かつ国際的な視点をもった指導者の育成 ③人間性豊かな感性を持ち、地域の健康支援に取り組む指導者の育成				
科目区分	授業科目名	配当学年	必修	選択	DP1 看護実践・教育・研究を通して、生涯学習できる高度な専門的能力を身につけている	DP2 専門分野における実践知を学問的に意味づける能力を身につけている	DP3 エビデンスに基づいてケアの質向上をはかる能力を身につけている	DP4 文化の多様性を理解し、高い倫理観をもって総合的に調整する能力を身につけている	DP5 専門領域における課題に取り組み、学術的視点で研究活動ができる能力を身につけている
共通科目	看護教育学	2前	2		○			○	
	看護政策論	1後		2	○			○	
	看護倫理	1後	2		○			○	
	看護心理学	1前		2	○			○	
	看護研究法	1前	2		○	○	○		○
	看護情報統計学	1前		2	○	○			○
	原著講読	1前	2		○			○	
	看護理論	1前		2	○	○		○	
	ケアリング論	1後	2		○	○		○	
	教育心理学特論	1前		2	○			○	
	教育学特論	1前		2	○	○			
	国際保健看護学	1後		2	○			○	
	家族看護学	1後		2	○	○		○	
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	1前	2	○	○	○	○	
		母子看護学特論Ⅱ	1前	2	○	○	○		
		母子看護学特論Ⅲ	1前	2	○	○	○		
		母子看護学演習Ⅰ	1後	2	○	○	○		○
		母子看護学演習Ⅱ	1後	2	○	○	○		○
		母子看護学実習	1後	2	○	○	○		
		学校保健学特論	1前	2	○	○			
		学校保健学実践演習	1後	2	○	○			
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	1前	2	○	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	1前	2	○	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	1前	2	○	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	1前	2	○	○	○		
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	1後	2	○	○	○		○
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	1後	2	○	○	○		○
		ヒューマンケア看護学実習	1後	2	○	○	○		
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	1前	2	○	○	○	○	
		看護管理学特論Ⅱ	1後	2	○	○	○		
		看護管理学演習Ⅰ	1前	2	○	○	○		○
		看護管理学演習Ⅱ	1後	2	○	○	○		○
		看護管理学実習	1後	2	○	○	○		
	特別研究	看護学特別研究	1通・2通	8	○	○	○		○

看護学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2021(R3)年度入学生)

■看護学研究科

教育理念・目的					教育目的				
生命尊厳・人間尊重 キーワード:「ケアの心」「実践知」					①高度な専門的知識と技術を持った教育研究者育成 ②学際的かつ国際的な視点をもった指導者の育成 ③人間性豊かな感性を持ち、地域の健康支援に取り組む指導者の育成				
科目区分	授業科目名	配当学年	必修	選択	DP1 看護実践・教育・研究を通して、生涯学習できる高度な専門的能力を身につけている	DP2 専門分野における実践知を学問的に意味づける能力を身につけている	DP3 エビデンスに基づいてケアの質向上をはかる能力を身につけている	DP4 文化の多様性を理解し、高い倫理観をもって総合的に調整する能力を身につけている	DP5 専門領域における課題に取り組み、学術的視点で研究活動ができる能力を身につけている
共通科目	看護教育学	2前	2		○			○	
	看護政策論	1後		2	○			○	
	看護倫理	1後	2		○			○	
	看護心理学	1前		2	○			○	
	看護研究法	1前	2		○	○	○		○
	看護情報統計学	1前		2	○	○			○
	原著講読	1前	2		○			○	
	看護理論	1前		2	○	○		○	
	ケアリング論	1後	2		○	○		○	
	教育心理学特論	1前		2	○			○	
	教育課程行政特論	1前		2	○	○			
	教育学特論	1前		2	○	○			
	国際保健看護学	1後		2	○			○	
	家族看護学	1後		2	○	○		○	
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	1前	2	○	○	○	○	
		母子看護学特論Ⅱ	1前	2	○	○	○		
		母子看護学特論Ⅲ	1前	2	○	○	○		
		母子看護学演習Ⅰ	1後	2	○	○	○		○
		母子看護学演習Ⅱ	1後	2	○	○	○		○
		母子看護学実習	1後	2	○	○	○		
		学校保健学特論	1前	2	○	○			
		学校保健学実践演習	1後	2	○	○			
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	1前	2	○	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	1前	2	○	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	1前	2	○	○	○	○	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	1前	2	○	○	○		
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	1後	2	○	○	○		○
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	1後	2	○	○	○		○
		ヒューマンケア看護学実習	1後	2	○	○	○		
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	1前	2	○	○	○	○	
		看護管理学特論Ⅱ	1後	2	○	○	○		
		看護管理学演習Ⅰ	1前	2	○	○	○		○
		看護管理学演習Ⅱ	1後	2	○	○	○		○
		看護管理学実習	1後	2	○	○	○		
	特別研究	看護学特別研究	1通・2通	8	○	○	○		○

教育課程表

教育課程表(2025年度入学生適用)

科目 区分	授業科目の名称	講義 番号	配当 年次	単位数			1年		2年		担当教員	備考
				必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期		
共通 科目	看護教育学	101	2前	2					2		中根薫・柄澤清美・☆中村恵子	隔年開講(2025年度開講せず)
	看護政策論	102	1後		2			2			坪川トモ子	隔年開講(2025年度開講)
	看護倫理	103	1後	2				2			菅原真優美・藤野清美・☆宮坂道夫	隔年開講(2025年度開講)
	看護心理学	104	1前		2		2				○本間恵美子	隔年開講(2025年度開講)
	看護研究法	105	1前	2			2				渡邊典子・中平浩人・桐原更織	
	看護情報統計学	106	1前		2		2				中平浩人	
	原著講読	107	1前	2			2				菅原真優美	隔年開講(2025年度開講)
	看護理論	108	1前		2		2				柄澤清美	隔年開講(2025年度開講)
	ケアリング論	109	1後	2				2			佐々木祐子・○中野啓明	隔年開講(2025年度開講せず)
	教育心理学特論	110	1前		2		2				☆中村恵子	隔年開講(2025年度開講せず)
	教育学特論	111	1前		2		2				○中野啓明	隔年開講(2025年度開講)
	国際保健看護学	112	1後		2			2			☆中村勝・☆藤野康之	隔年開講(2025年度開講せず)
	家族看護学	113	1後		2			2			柄澤清美	隔年開講(2025年度開講)
専門 科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	201	1前		2		2			渡邊典子・☆本間昭子	
		母子看護学特論Ⅱ	202	1前		2		2			渡邊典子・小林正子・久保田美雪	
		母子看護学特論Ⅲ	203	1前		2		2			桐原更織・○真壁あさみ・☆本間昭子・ ☆斎藤まさ子	
		母子看護学演習Ⅰ	204	1後		2		2			渡邊典子・桐原更織・小島さやか	
		母子看護学演習Ⅱ	205	1後		2		2			塚原加寿子・小林正子・桐原更織	
		母子看護学実習	206	1後		2		2			渡邊典子・塚原加寿子・小林正子・桐原更織・ 久保田美雪・小島さやか	
		学校保健学特論	207	1前		2		2			塚原加寿子・○花澤佳代	隔年開講(2025年度開講せず)
		学校保健学実践演習	208	1後		2		2			塚原加寿子・●堀田雄大・☆中村恵子	隔年開講(2025年度開講)
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	301	1前		2		2			坪川トモ子・中平浩人・上原喜美子・ 佐々木祐子・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	302	1前		2		2			上原喜美子・佐々木祐子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	303	1前		2		2			佐々木祐子・上原喜美子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	304	1前		2		2			坪川トモ子・中平浩人・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	305	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子・ 清水理恵・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	306	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子・ 清水理恵・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学実習	307	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子・ 清水理恵・田中瞳	
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	401	1前		2		2			中根薫・池睦美・和田由紀子・○浅田剛正・ ☆佐藤富貴子	
		看護管理学特論Ⅱ	402	1後		2		2			中根薫・和田由紀子・☆佐藤富貴子・☆伊藤孝憲	
		看護管理学演習Ⅰ	403	1前		2		2			池睦美・中根薫・和田由紀子	
		看護管理学演習Ⅱ	404	1後		2		2			和田由紀子・中根薫・池睦美	
		看護管理学実習	405	1後		2		2			中根薫・池睦美・和田由紀子	
	特別 看護学 研究	看護学特別研究	501	1通・2通	8			2	2	2	中根薫・渡邊典子・坪川トモ子・中平浩人・池睦美・ 上原喜美子・塚原加寿子・佐々木祐子・小林正子・ 和田由紀子・桐原更織・田中瞳	

○福祉心理子ども学部教員 ●看護学部教員
☆学外非常勤講師

教育課程表(2024年度入学生適用)

科目 区分	授業科目の名称	講義 番号	配当 年次	単位数			1年		2年		担当教員	備考
				必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期		
共通科目	看護教育学	101	2前	2					2		中根薫・中村恵子・柄澤清美	隔年開講(2024年度開講)
	看護政策論	102	1後		2			2			坪川トモ子	隔年開講(2024年度開講せず)
	看護倫理	103	1後	2				2			菅原真優美・藤野清美・☆宮坂道夫	隔年開講(2024年度開講せず)
	看護心理学	104	1前		2		2				○本間恵美子	隔年開講(2024年度開講せず)
	看護研究法	105	1前	2			2				渡邊典子・中平浩人・☆斎藤まさ子	
	看護情報統計学	106	1前		2		2				中平浩人	
	原著講読	107	1前	2			2				菅原真優美	隔年開講(2024年度開講せず)
	看護理論	108	1前		2		2				柄澤清美	隔年開講(2024年度開講せず)
	ケアリング論	109	1後	2				2			佐々木祐子・○中野啓明	隔年開講(2024年度開講)
	教育心理学特論	110	1前		2		2				中村恵子	隔年開講(2024年度開講)
	教育学特論	111	1前		2		2				○中野啓明	隔年開講(2024年度開講せず)
	国際保健看護学	112	1後		2			2			☆中村勝・☆藤野康之	隔年開講(2024年度開講)
	家族看護学	113	1後		2			2			柄澤清美	隔年開講(2024年度開講せず)
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	201	1前		2		2			渡邊典子・☆本間昭子	
		母子看護学特論Ⅱ	202	1前		2		2			渡邊典子・小林正子・久保田美雪	
		母子看護学特論Ⅲ	203	1前		2		2			桐原更織・○真壁あさみ・☆本間昭子・ ☆斎藤まさ子	
		母子看護学演習Ⅰ	204	1後		2		2			渡邊典子・小林正子・桐原更織	
		母子看護学演習Ⅱ	205	1後		2		2			塚原加寿子・渡邊典子・桐原更織	
		母子看護学実習	206	1後		2		2			渡邊典子・塚原加寿子・小林正子・桐原更織・久保 田美雪	
		学校保健学特論	207	1前		2		2			塚原加寿子・○花澤佳代	隔年開講(2024年度開講)
		学校保健学実践演習	208	1後		2		2			塚原加寿子・中村恵子	隔年開講(2024年度開講せず)
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	301	1前		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	302	1前		2		2			上原喜美子・佐々木祐子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	303	1前		2		2			佐々木祐子・上原喜美子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	304	1前		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	305	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・清水理恵・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	306	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・清水理恵・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学実習	307	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・清水理恵・田中瞳	
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	401	1前		2		2			中根薫・池睦美・和田由紀子・○浅田剛正・ ☆佐藤富貴子	
		看護管理学特論Ⅱ	402	1後		2		2			中根薫・和田由紀子・☆佐藤富貴子・☆伊藤孝憲	
		看護管理学演習Ⅰ	403	1前		2		2			池睦美・中根薫・和田由紀子	
		看護管理学演習Ⅱ	404	1後		2		2			和田由紀子・中根薫・池睦美	
		看護管理学実習	405	1後		2		2			中根薫・池睦美・和田由紀子	
	看護学特別科目	看護学特別研究	501	1通・2通	8			2	2	2	2	中根薫・渡邊典子・坪川トモ子・中平浩人・中村恵 子・池睦美・上原喜美子・塚原加寿子・佐々木祐 子・和田由紀子・田中瞳

○他学部専任教員
☆学外非常勤講師

教育課程表(2023年度入学生適用)

科目 区分	授業科目の名称	講義 番号	配当 年次	単位数			1年		2年		担当教員	備考
				必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期		
共通科目	看護教育学	101	2前	2					2		中根薫・中村恵子・柄澤清美	隔年開講(2023年度開講せず)
	看護政策論	102	1後		2			2			坪川トモ子・☆室岡真樹	隔年開講(2023年度開講)
	看護倫理	103	1後	2				2			池田かよ子・菅原真優美・藤野清美・☆宮坂道夫	
	看護心理学	104	1前		2		2				○本間恵美子	隔年開講(2023年度開講)
	看護研究法	105	1前	2			2				渡邊典子・中平浩人・☆斎藤まさ子	
	看護情報統計学	106	1前		2		2				中平浩人	
	原著講読	107	1前	2			2				菅原真優美	隔年開講(2023年度開講)
	看護理論	108	1前		2		2				柄澤清美	隔年開講(2023年度開講)
	ケアリング論	109	1後	2				2			佐々木祐子・○中野啓明	隔年開講(2023年度開講せず)
	教育心理学特論	110	1前		2		2				中村恵子	隔年開講(2023年度開講せず)
	教育学特論	111	1前		2		2				○中野啓明	隔年開講(2023年度開講)
	国際保健看護学	112	1後		2			2			☆中村勝・☆藤野康之	隔年開講(2023年度開講せず)
	家族看護学	113	1後		2			2			柄澤清美	隔年開講(2023年度開講)
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	201	1前		2	2				池田かよ子・渡邊典子・☆本間昭子	
		母子看護学特論Ⅱ	202	1前		2	2				渡邊典子・池田かよ子・小林正子	
		母子看護学特論Ⅲ	203	1前		2	2				桐原更織・○真壁あさみ・☆本間昭子・☆斎藤まさ子	
		母子看護学演習Ⅰ	204	1後		2		2			渡邊典子・小林正子・桐原更織	
		母子看護学演習Ⅱ	205	1後		2		2			池田かよ子・塚原加寿子・☆本間昭子	
		母子看護学実習	206	1後		2		2			池田かよ子・渡邊典子・小林正子・桐原更織	
		学校保健学特論	207	1前		2	2				塚原加寿子・○花澤佳代	隔年開講(2023年度開講せず)
		学校保健学実践演習	208	1後		2		2			塚原加寿子・中村恵子	隔年開講(2023年度開講)
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	301	1前		2	2				坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・佐々木祐子・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	302	1前		2	2				上原喜美子・佐々木祐子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	303	1前		2	2				佐々木祐子・上原喜美子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	304	1前		2	2				坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	305	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・佐々木祐子・清水理恵・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	306	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・佐々木祐子・清水理恵・田中瞳	
		ヒューマンケア看護学実習	307	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・佐々木祐子・清水理恵・田中瞳	
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	401	1前		2	2				中根薫・池睦美・和田由紀子・○浅田剛正・☆佐藤富貴子	
		看護管理学特論Ⅱ	402	1後		2		2			中根薫・和田由紀子・☆佐藤富貴子・☆伊藤孝憲	
		看護管理学演習Ⅰ	403	1前		2	2				池睦美・中根薫・和田由紀子	
		看護管理学演習Ⅱ	404	1後		2		2			和田由紀子・中根薫・池睦美	
		看護管理学実習	405	1後		2		2			中根薫・池睦美・和田由紀子	
	特別研究 看護学	看護学特別研究	501	1通・2通	8		2	2	2	2	池田かよ子・渡邊典子・坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・塚原加寿子・中根薫・佐々木祐子・池睦美・和田由紀子・田中瞳	

○他学部専任教員

☆学外非常勤講師

教育課程表(2022年度入学生適用)

科目 区分	授業科目の名称	講義 番号	配当 年次	単位数			1年		2年		担当教員	備考
				必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期		
共通科目	看護教育学	101	2前	2					2		本間昭子・中村恵子・柄澤清美・中根薫	隔年開講(2022年度開講)
	看護政策論	102	1後		2			2			坪川トモ子・☆室岡真樹	隔年開講(2022年度開講せず)
	看護倫理	103	1後	2				2			池田かよ子・菅原真優美・☆宮坂道夫	
	看護心理学	104	1前		2		2				○本間恵美子	
	看護研究法	105	1前	2			2				渡邊典子・中平浩人・☆斎藤まさ子	
	看護情報統計学	106	1前		2		2				中平浩人	
	原著講読	107	1前	2			2				菅原真優美	隔年開講(2022年度開講せず)
	看護理論	108	1前		2		2				柄澤清美	隔年開講(2022年度開講せず)
	ケアリング論	109	1後	2				2			佐々木祐子・○中野啓明	隔年開講(2022年度開講)
	教育心理学特論	110	1前		2		2				中村恵子	隔年開講(2022年度開講)
	教育学特論	111	1前		2		2				○中野啓明	隔年開講(2022年度開講せず)
	国際保健看護学	112	1後		2			2			☆中村勝・☆藤野康之	隔年開講(2022年度開講)
	家族看護学	113	1後		2			2			柄澤清美	隔年開講(2022年度開講せず)
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	201	1前		2		2			池田かよ子・渡邊典子・☆渡邊タミ子	
		母子看護学特論Ⅱ	202	1前		2		2			渡邊典子・池田かよ子・小林正子	
		母子看護学特論Ⅲ	203	1前		2		2			本間昭子・○真壁あさみ・☆渡邊タミ子 ☆斎藤まさ子	
		母子看護学演習Ⅰ	204	1後		2		2			渡邊典子・小林正子・☆渡邊タミ子	
		母子看護学演習Ⅱ	205	1後		2		2			本間昭子・池田かよ子・塚原加寿子	
		母子看護学実習	206	1後		2		2			本間昭子・池田かよ子・渡邊典子・小林正子	
		学校保健学特論	207	1前		2		2			塚原加寿子・○花澤佳代	隔年開講(2022年度開講)
		学校保健学実践演習	208	1後		2		2			塚原加寿子・中村恵子	隔年開講(2022年度開講せず)
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	301	1前		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・田中瞳・渡邊路子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	302	1前		2		2			上原喜美子・佐々木祐子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	303	1前		2		2			佐々木祐子・上原喜美子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	304	1前		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・田中瞳・渡邊 路子	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	305	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・清水理恵・田中瞳・渡邊路子	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	306	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・清水理恵・田中瞳・渡邊路子	
		ヒューマンケア看護学実習	307	1後		2		2			坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・上原喜美子・ 佐々木祐子・清水理恵・田中瞳・渡邊路子	
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	401	1前		2		2			中根薫・佐藤富貴子・池睦美・和田由紀子・ ○浅田剛正	
		看護管理学特論Ⅱ	402	1後		2		2			佐藤富貴子・中根薫・和田由紀子・☆伊藤孝憲	
		看護管理学演習Ⅰ	403	1前		2		2			中根薫・佐藤富貴子・池睦美・和田由紀子	
		看護管理学演習Ⅱ	404	1後		2		2			和田由紀子・佐藤富貴子・中根薫・池睦美	
		看護管理学実習	405	1後		2		2			佐藤富貴子・中根薫・池睦美・和田由紀子	
	特別研究 看護学	看護学特別研究	501	1通・2通	8			2	2	2	2	池田かよ子・本間昭子・渡邊典子・坪川トモ子・ 中平浩人・中村恵子・上原喜美子・塚原加寿子・ 中根薫・佐々木祐子・和田由紀子・田中瞳

○他学部専任教員

☆学外非常勤講師

教育課程表(2021年度入学生適用)

科目 区分	授業科目の名称	講義 番号	配当 年次	単位数			1年		2年		担当教員	備考
				必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期		
共通科目	看護教育学	101	2前	2					2		本間昭子・中村恵子・柄澤清美・中根薫	隔年開講(2021年度開講せず)
	看護政策論	102	1後		2			2			坪川トモ子・☆小林恵子・☆大戸奈穂子	隔年開講(2021年度開講)
	看護倫理	103	1後	2				2			池田かよ子・菅原真優美・☆宮坂道夫	
	看護心理学	104	1前		2		2				○本間恵美子	
	看護研究法	105	1前	2			2				渡邊典子・中平浩人　・☆斎藤まさ子	
	看護情報統計学	106	1前		2		2				中平浩人	
	原著講読	107	1前	2			2				菅原真優美	隔年開講(2021年度開講)
	看護理論	108	1前		2		2				柄澤清美	
	ケアリング論	109	1後	2				2			佐々木祐子・○中野啓明	隔年開講(2021年度開講せず)
	教育心理学特論	110	1前		2		2				中村恵子	隔年開講(2021年度開講せず)
	教育課程行政特論	111	1前		2		2				☆岩崎保之	隔年開講(2021年度開講せず)
	教育学特論	112	1前		2		2				○中野啓明	隔年開講(2021年度開講)
	国際保健看護学	113	1後		2			2			☆中村勝	隔年開講(2021年度開講せず)
	家族看護学	114	1後		2						柄澤清美	隔年開講(2021年度開講)
専門科目	母子看護学分野	母子看護学特論Ⅰ	201	1前		2		2			池田かよ子・渡邊典子・☆渡邊タミ子	
		母子看護学特論Ⅱ	202	1前		2		2			渡邊典子・池田かよ子	
		母子看護学特論Ⅲ	203	1前		2		2			本間昭子・○真壁あさみ・☆渡邊タミ子 ☆斎藤まさ子	
		母子看護学演習Ⅰ	204	1後		2		2			渡邊典子・本間昭子・塚原加寿子・☆渡邊タミ子	
		母子看護学演習Ⅱ	205	1後		2		2			本間昭子・池田かよ子・塚原加寿子	
		母子看護学実習	206	1後		2		2			本間昭子・池田かよ子・渡邊典子・☆渡邊タミ子	
		学校保健学特論	207	1前		2		2			塚原加寿子・○花澤佳代	隔年開講(2021年度開講せず)
		学校保健学実践演習	208	1後		2		2			塚原加寿子・中村恵子	隔年開講(2021年度開講)
	ヒューマンケア看護学分野	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ	301	1前		2		2			坪川トモ子・中村恵子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅱ	302	1前		2		2			上原喜美子・佐々木祐子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅲ	303	1前		2		2			佐々木祐子・上原喜美子	
		ヒューマンケア看護学特論Ⅳ	304	1前		2		2			坪川トモ子・中村恵子・中平浩人	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅰ	305	1後		2		2			坪川トモ子・中村恵子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子・清水理恵	
		ヒューマンケア看護学演習Ⅱ	306	1後		2		2			坪川トモ子・中村恵子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子・清水理恵	
		ヒューマンケア看護学実習	307	1後		2		2			坪川トモ子・中村恵子・中平浩人・上原喜美子・佐々木祐子・清水理恵	
	看護管理学分野	看護管理学特論Ⅰ	401	1前		2		2			中根薫・佐藤富貴子・池睦美・和田由紀子・○浅田剛正	
		看護管理学特論Ⅱ	402	1後		2		2			佐藤富貴子・中根薫・和田由紀子・☆伊藤孝憲	
		看護管理学演習Ⅰ	403	1前		2		2			中根薫・佐藤富貴子・池睦美・和田由紀子	
		看護管理学演習Ⅱ	404	1後		2		2			和田由紀子・佐藤富貴子・中根薫・池睦美	
		看護管理学実習	405	1後		2		2			佐藤富貴子・中根薫・池睦美・和田由紀子	
	特別看護学研究	看護学特別研究	501	1通・2通	8			2	2	2	2	池田かよ子・本間昭子・渡邊典子・坪川トモ子・中平浩人・中村恵子・中根薫・佐々木祐子・上原喜美子・塚原加寿子・和田由紀子

○他学部専任教員

☆学外非常勤講師

講義概要

研究科・学 年		看護学研究科		2年											
講義番号		101		教科名		看護教育学									
単位数		2		必・選		必修		開講時期		前期		担当者		中根 薫、柄澤 清美、☆中村 恵子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連				「別途N-COMPASS上に示されている「DPとカリキュラムとの対照表」を参照のこと。											
講義の概要 (教育目標を含む)				日本の看護教育の歴史の変遷と特徴を踏まえて、現代の看護教育における課題について理解する。また看護専門職者のキャリア開発について考察する。											
学生の学習 (行動)目標				1. 日本の看護教育における歴史の変遷を通して今日的課題を説明できる。 2. それぞれの学習観、学習方法の違いを理解し、成人の学習について説明できる。 3. 看護教育における教育課程のあり方、教育内容・教育方法・教育評価について説明できる。 4. 看護継続教育の概念と看護専門職者のキャリア開発における課題について説明できる。											
授業計画(シラバス)															
回	内 容					キーワード			準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間			
1回	ガイダンス (中根 薫)					看護教育の課題			＜予習＞看護教育における課題について自分の考えを整理しておく。			4			
2回	学習観・学習理論 ―教授・学習方法― (中村 恵子)					構成主義、アクティブラーニング			＜予習＞指示した資料、文献を事前に読んでおく。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
3回	成人の学習理論 ―動機づけ―					自己決定理論			＜予習＞指示した資料、文献を事前に読んでおく。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
4回	看護基礎教育における教育課程1 ―カリキュラム編成の基礎― (柄澤 清美)					カリキュラムの哲学的基盤 カリキュラムデザイン 学習体験の選択			＜予習＞指示した資料事前に読んで課題提出。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
5回	看護基礎教育における教育課程2 ―看護教育カリキュラムの変遷―					カリキュラム改訂の背景 モデルコアカリキュラム コンピテンシー コンセプト			＜予習＞指示した資料事前に読んで課題提出。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
6回	看護基礎教育における教育方法と評価1 ―経験型実習教育―					経験型実習 反省的实践家			＜予習＞指示した資料事前に読んで課題提出。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
7回	看護基礎教育における教育方法と評価2 ―実習場面の教材化―					臨床知 場面の教材化 学生-教員関係			＜予習＞指示した資料事前に読んで課題提出。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
8回	ケアリングカリキュラム1 ―ケアリングの概念―					ケアリング			＜予習＞指示した資料事前に読んで課題提出。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
9回	ケアリングカリキュラム2 ―ケアリングカリキュラムによる教育実践―					ケアリングカリキュラム 実践知の伝承			＜予習＞指示した資料事前に読んで課題提出。 ＜復習＞提示された課題を提出する。			4			
10回	看護継続教育の概念と看護専門職者のキャリア開発 (中根 薫)					看護継続教育 キャリア開発			＜予習＞指示した資料、文献を事前に読んで課題を提出する。			4			
11回	看護職の生涯学習ガイドライン					生涯学習ガイドライン			＜予習＞指示した資料、文献を事前に読んで課題を提出する。			4			
12回	看護継続教育の課題1 ―新人看護職員研修―					新人看護職員研修ガイドライン			＜予習＞指示した資料、文献を事前に読んで課題を提出する。			4			
13回	看護継続教育の課題2 ―ジェネラリストの教育―					クリニカルラダー			＜予習＞指示した資料、文献を事前に読んで課題を提出する。			4			
14回	組織の生涯学習支援の現状と課題1					組織 生涯学習支援			＜予習＞課題について発表資料を作成する。			4			
15回	組織の生涯学習支援の現状と課題2					組織 生涯学習支援			＜予習＞課題について発表資料を作成する。			4			
計													60		
成績評価		小テスト		0%		学習成果のフィードバック		課題やレポートは添削の上、評価によりフィードバックする。							
		試験		0%											
		レポート		50%											
		学習態度		0%		備考		各教員毎に、初回の授業で提示された課題やレポートにより評価する。(50%) その他では、課題準備と授業への参加度により評価する。(50%)							
		その他		50%											
		計		100%											
テキスト		履修内容に応じて、資料を配布する。													
テキスト以外の参考書		1. 「看護教育学第8版」、杉森みど里、舟島なをみ著、医学書院、2024 2. 「ケアリングカリキュラム」、Jean Watson著 安酸史子監訳、医学書院、1999 3. 「経験型実習教育」、安酸史子著、医学書院、2015 4. 「ケアの意味をみつめる事例研究-看護実践の知を探索する研究方法論-」、山本則子・柄澤清美編、医学書院、2025 5. 「ケアリングの視座」、立山善康編、晃洋書房、2023、(10章「看護教育におけるケアリングの位置づけ 柄澤清美」) 6. 「看護学教育における授業展開―質の高い講義・演習・実習の実現に向けて」、舟島なをみ著、医学書院、2013 7. 「看護学教育評価の基礎と実際―看護実践能力育成の充実に向けて」、田島桂子著、医学書院、2009 8. 『臨床の場で効果的に教える―「教育」というコミュニケーション』、Neal Whitman, Thomas L.Schwenk著 伴 信太郎、佐野 潔 (訳)、南山堂、2002 9. 看護管理学習テキスト第3版第3巻人材管理論 2025年版、井部俊子監修、日本看護協会出版会、2025													
履修上の注意事項や学習上の助言など		・参加型の学習になります。 ・課題にそって資料を作成していただきます。													

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	102	教科名	看護政策論				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	坪川 トモ子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		わが国における看護制度・看護政策・看護教育の変遷を学び、戦後の保健師助産師看護師法の成立過程と看護諸政策のプロセスを理解する。また、看護政策決定過程と関連諸団体との連携・協働のあり方について学修し、地方行政レベルの看護行政をめぐる諸課題、政策決定過程への看護職者の関与のあり方について探究する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 日本の看護制度や保健・医療政策の変遷を理解することができる。 2. 保健師助産師看護師法成立過程と看護諸政策のプロセスを理解することができる。 3. 看護政策決定過程と関連諸団体との連携・協働について考察することができる。 4. 看護行政をめぐる諸課題、政策決定への看護職者の関与のあり方を探究することができる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	政策とは何か (坪川)				政策、施策	【事前学習】参考書などで自己学習する。	2
2回	看護政策の概念と策定過程 (坪川)				看護政策、概念、策定	【事前学習】参考書などで自己学習する。	2
3回	看護政策と看護行政 (外部講師)				看護政策、看護行政	【事前学習】参考書などで自己学習する。	2
4回	看護法令、医療法、保健・医療・福祉関係の法令 (坪川)				看護法令、保健医療福祉関係法令	【事前学習】各自提示された課題についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	4
5回	保健師助産師看護師法の成立過程と課題 (坪川)				保健師助産師看護師法の成立過程と課題	【事前学習】各自提示された課題についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	4
6回	看護師等の人材確保の促進に関する法律と課題 (坪川)				看護師、保健師、助産師、人材確保	【事前学習】各自提示された課題についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	4
7回	看護職員の就業構造と課題 (坪川)				看護職員、就業構造	【事前学習】各自提示された課題についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	4
8回	看護政策と課題(演習)(1) (坪川)				看護政策、看護行政、策定、課題	【事前学習】各自が関心のある看護政策および課題についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	6
9回	看護政策と課題(演習)(2) (坪川)				看護政策、看護行政、策定、課題	【事前学習】グループワークに使用する資料の準備をしてくる。	4
10回	看護政策の企画立案(演習)(1) (坪川)				看護政策、看護行政、企画、策定	【事前学習】各自が看護政策の企画書を立案し、プレゼン資料として持参する。	6
11回	看護政策の企画立案(演習)(2) (坪川)				看護政策、看護行政、企画、策定	【事前学習】グループワークに使用する資料の準備をしてくる。	4
12回	看護政策の企画発表とディスカッション(演習)(1) (坪川)				看護政策、看護行政、企画、策定	【事前学習】グループワークに使用する資料の準備をしてくる。	4
13回	看護政策の企画発表とディスカッション(演習)(2) (坪川)				看護政策、看護行政、企画、策定	【事前学習】全体発表の準備をしてくる。	6
14回	看護政策・施策に必要な能力 (坪川)				看護政策、看護行政、能力	【事前学習】各自が看護政策能力についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	4
15回	看護職者の政策関与のあり方と課題 (坪川)				看護政策、看護行政、能力、課題	【事前学習】各自が看護政策への関与のあり方と課題についてまとめ、プレゼン資料として持参する。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	・毎回のディスカッションを通してフィードバックする。		
		試験	0%				
		レポート	70%				
		学習態度	30%	備考	課題レポート70%:プレゼン資料をレポートとして評価する。プレゼンの前の授業回でテーマを指定する。 学習態度30%は、ディスカッションやプレゼンテーションなど参加度で評価する。		
		その他	0%				
		計	100%				
テキスト		不要(随時、資料を配布します。)					
テキスト以外の参考書		1. 看護職のための政策過程入門 第2版、見藤隆子他、日本看護協会出版会、2017。 2. ヘルスケアシステム論、看護管理学習テキスト第3版 第1巻、2025年版、井部俊子監修、日本看護協会出版会、2025。 3. 看護法令要覧、令和7年版(毎年3月発行予定)、勝又浜子他 編集、日本看護協会出版会、2025。					
履修上の注意事項や 学習上の助言など		日ごろから、社会情勢に関心をもつとともに、必要な看護政策を提言していくには何が必要かを考え続けながら受講していただきたい。 適時、グループワークを取り入れますので、欠席しないようにしてください。 参考情報:全国知事会提言 https://www.nga.gr.jp/committee_pt/item/20240808_syakaihosvoteigen.pdf <検索日.2025.3.5> 厚生労働省「看護師等(看護職員)の確保を巡る状況」 https://www.mhlw.go.jp/content/11601000_001140978.pdf <検索日.2025.3.5>					

研究科・学 年		看護学研究科		1年			
講義番号		103		教科名		看護倫理	
単位数		2		必・選		必修	
開講時期		後期		担当者		菅原 真優美、藤野 清美、☆宮坂 道夫	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		看護倫理の歴史的背景及び看護倫理を探究する上で基盤となる重要な概念や理論を学修し、看護実践上で遭遇する倫理的諸問題の解決に向けた分析の方法論を理解する。看護実践上の倫理的問題事例を取り上げ、事例に応じた最適な方法論を活用し、倫理的意思決定アプローチについて学修する。また、看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について考査する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 看護倫理の歴史的背景と現状の問題・課題について説明できる。 2. 倫理的問題分析の方法論について説明できる。 3. 看護の実践上で生じる倫理的諸問題を分析し意思決定アプローチについて説明できる。 4. 看護の実践者、教育者、研究者としての責任と役割について説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容			キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量	
1回	医療倫理の歴史：(1)職業倫理の夜明け、(2)負の遺産と新しい時代 (宮坂 道夫)			古代、中世、近代の医療倫理の変化、医療従事者が人命を奪った悲劇とその断罪、被験者の権利から患者の権利へ		＜予習＞教科書第1・2章を読んで講義に臨むこと。	
2回	医療倫理の理論：(3)倫理、規範、法、(4)倫理理論と原則的アプローチ			倫理・規範・法、倫理理論と原則的アプローチによる倫理的推論		＜予習＞教科書第3・4章を読んで講義に臨むこと。	
3回	医療倫理の理論：(5)対話的アプローチ、(6)臨床倫理のツール			対話・ナラティブ、対話的アプローチによる倫理的推論、臨床倫理のツール		＜予習＞教科書第5・6章を読んで講義に臨むこと。	
4回	性と生殖についての医療倫理：(7)性についての医療倫理、(8)生殖についての医療倫理			性と生殖の健康、性と生殖の権利、性分化疾患、性同一性障害、セクシュアリティへの関与、女性・子ども・障害者・性的マイノリティの権利、避妊、人工妊娠中絶、出生前診断、不妊治療		＜予習＞教科書第7・8章を読んで講義に臨むこと。	
5回	死についての医療倫理：(9)死についての医療倫理[1]（死について、死と医療）			死生観・死を前にした人の心理、死の判定、尊厳死・ホスピス・緩和ケア、自己決定支援・事前指示・ACP・共同意思決定		＜予習＞教科書第9章を読んで講義に臨むこと。	
6回	死についての医療倫理：(10)死についての医療倫理[2]（告知、死を早める結果をもたらす処置）			告知、結果として死を早めることになる処置・死に至るまで患者の意識を失わせる処置		＜予習＞教科書第10章を読んで講義に臨むこと。	
7回	患者の権利、公衆衛生、研究など：(11)患者の権利についての医療倫理			リスボン宣言の患者の権利、日本の法制度の課題、意識のない患者・法的無能力の患者・小児患者、患者の意思に反する処置、判断能力、自己決定と代理決定		＜予習＞教科書第11章を読んで講義に臨むこと。	
8回	患者の権利、公衆衛生、研究など：(12)公衆衛生、資源、情報、研究についての医療倫理			公衆衛生における倫理原則、感染症政策、医療資源、臓器移植、再生医療技術、資源配分、情報倫理、個人情報、遺伝情報、研究倫理・研究不正		＜予習＞教科書第12章を読んで講義に臨むこと。	
9回	臨床における看護倫理（藤野清美）			看護倫理 倫理的感受性 倫理的アプローチ		＜予習＞指定の文献を読んで講義に臨むこと。	
10回	看護における倫理的意思決定の方法論			倫理的意思決定 倫理的推論		＜復習＞講義の復習をしておくこと。	
11回	講義で学んだモデル用いて事例検討（1）			看護倫理 意思決定 事例検討		＜予習＞事例の倫理的課題について検討資料を作成してくること。	
12回	講義で学んだモデルを用いて事例検討（2）			看護倫理 意思決定 事例検討 まとめ		＜復習＞事例検討の振り返りをする事。	
13回	看護倫理と研究(1)（菅原真優美）			看護倫理 研究倫理 患者の権利		＜予習＞前半の講義の復習をしておくこと。	
14回	看護倫理と研究(2)			看護倫理 倫理的配慮 クリティーク		＜予習＞前半の講義の復習をしておくこと。	
15回	看護の実践者、教育者、研究者としての倫理的責任についての検討する			看護者の倫理的責任、研究、対象者の人権		＜予習＞今までの講義で学んだことを復習してくること。	
計						60	
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポート課題、プレゼンテーションについては、各担当教員がレポートおよび講義の中でコメントを行う。		
		試験	0%				
		レポート	30%				
		学習態度	30%	備考	・レポート課題は各担当教員の講義の中で指示し、理解度を評価する。 ・学習態度は授業の準備・参加状況で評価する。 ・その他はプレゼンテーションの内容や方法で評価する。 ・各担当教員の評価点は宮坂:50点、藤野:30点、菅原:20点とし、3人の教員の合計点を教科の評点とする。		
		その他	40%				
		計	100%				
テキスト		宮坂道夫:原則と対話で解決に導く医療倫理、医学書院、2024年、2,900円(税別)。					
テキスト以外の参考書		1. 医療倫理1 よりよい決定のための事例分析、グレゴリー・E・ペンス、宮坂道夫・長岡成夫共訳、みすず書房、2000。 2. 医療倫理2 よりよい決定のための事例分析、グレゴリー・E・ペンス、宮坂道夫・長岡成夫共訳、みすず書房、2001。 3. 看護倫理 見ているものが違うから起こること 第2版、吉田みつ子、医学書院、2024。 4. 看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド、サラ T.フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン、片田範子・山本あい子訳、日本看護協会出版会、2010。 5. 看護倫理のための意思決定10のステップ、ジョイス E・トンプソン、ベンジー O・トンプソン、ケイコ・イマイ・キン他訳、日本看護協会出版会、2004。 6. 臨床実践のための看護倫理 倫理的意思決定へのアプローチ、グラディス L. ハステッド、ジェームス H. ハステッド、藤村龍子・梅井正義監訳、医学書院、2009。 7. 看護倫理を教える・学ぶ 倫理教育の視点と方法、Anne J. Davis、Verena Tschudin、Louise de Raeve編集、小西恵美子監訳、日本看護協会出版会、2008。 8. 医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学、清水哲郎、医学書院、2022。 9.看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方、吉武久美子、医学書院、2017。					
履修上の注意事項や学習上の助言など		理論的な学習と看護実践をうまくリンクさせることが非常に重要です。どちらかに偏らないように注意して、常に理論と実践とを往復しながら学習して下さい。（宮坂） 事例検討については担当教員が指示します。（藤野）					

研究科・学 年		看護学研究科		1 年				
講義番号	104	教科名	看護心理学					
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	○本間 恵美子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		看護における人間関係および健康に問題を抱える人へのアプローチを心理学的な視点から捉えなおし再検討する。そのために、特に社会心理学的な視点、臨床心理学的視点を中心に、関連する諸理論について教授する。さらに、これらの考え方を看護の場面に実際に適用できるよう、ディスカッションやロールプレイを用いて考察を深める。						
学生の学習 (行動)目標		1. 看護に関連する人間関係について心理学的アプローチから理解し、対処を検討できる。 2. 健康に問題を抱える人について心理学的視点から考察し、その問題点について対処を検討できる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	ガイダンス、看護心理学とは					看護心理学、健康	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
2回	ストレスとソーシャルサポート(1) ストレスのプロセス					ストレスサー、ストレス反応	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
3回	ストレスとソーシャルサポート(2) ソーシャル・サポートの種類と効果					ソーシャル・サポート	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
4回	ストレスとソーシャルサポート(3) ストレスとソーシャルサポートの関連					自己効力感、コーピング	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
5回	小集団における人間の行動					社会的アイデンティティ	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
6回	小集団行動の心理					集団規範	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
7回	健康と病気の理解の仕方についてのモデル					社会モデル、医学モデル	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
8回	コミュニケーションとヘルスケア(1) カウンセリングについての基本的な考え方					カウンセリング、クライアント中心療法	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
9回	コミュニケーションとヘルスケア(2) カウンセリングについての技法					傾聴	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
10回	コミュニケーションとヘルスケア(3) ロールプレイ					ロールプレイ	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
11回	家族関係からの理解					家族システム	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
12回	家族関係へのアプローチ					家族のライフサイクル	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
13回	発達段階についての理解とアプローチ(1) 乳・幼児期					乳児期・幼児期	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
14回	発達段階についての理解とアプローチ(2) 児童期・青年期					児童期・青年期	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
15回	まとめ					ウェルビーイング	<復習> 配布プリントと討論された内容の理解	4
計								60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		プレゼンテーションについてのフィードバックは授業時に行なう。		
		試験	0%					
		レポート	0%					
		学習態度	50%	備考		学習態度は、参加状況、発表態度による。 その他は、授業時に行なわれたプレゼンテーションによる。		
		その他	50%					
		計	100%					
テキスト		プリントを適宜配布する。						
テキスト以外の参考書		「看護に活かすカウンセリングⅡ」伊藤まゆみ編 ナカニシヤ出版 2016年 「臨床ストレス心理学」津田彰、他編 東京大学出版会 2013年 「人格発達心理学」西川隆蔵・大石史博編 ナカニシヤ出版 2004年 「リラクゼーション」成瀬悟策 講談社 2001年 「家族心理学特論」亀口憲司著 放送大学出版会 2002年 「臨床動作法への招待」鶴光代著 金剛出版 2007年 「ベーシック 健康心理学」山脇圭輔著 ナカニシヤ出版 2015年						
履修上の注意事項や 学習上の助言など								

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	105	教科名	看護研究法				
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	渡邊 典子、中平 浩人、桐原 更織
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	看護研究は看護の効果的な発展に寄与するものである。本科目では、看護研究に重要な科学的・論理的思考と倫理的視点を養い、研究方法の種類と概要、研究プロセス、データの特性と分析方法について教授する						
学生の学習 (行動)目標	1. 研究方法とプロセスを学び、研究の倫理(研究者の責任や倫理的配慮)について説明できる。 2. 質的研究デザインと方法について説明できる。 3. 量的研究デザインと方法について説明できる。 4. 文献検討の意義と方法について説明できる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	研究プロセスの概観 (渡邊 典子)				看護研究の種類 研究プロセス 研究の倫理指針	＜予習＞提示した資料を読み、研究プロセスについて整理してくること。	4
2回	研究の種類と各概要				研究の種類・枠組み 研究デザイン	＜予習＞今までに取り組んだ研究を振り返り、研究デザインを整理してくること。	4
3回	文献検索方法と活用				文献検索 情報の吟味 研究課題の絞り込み	＜復習＞文献検索の方法を復習すること。	4
4回	データ収集・分析				サンプリング データの形と種類 面接法と質問紙法	＜予習＞提示した資料を読み、整理をしてくこと。	4
5回	研究計画書と研究の倫理審査				研究計画書 倫理審査申請書	＜予習＞事前課題についてプレゼンの準備をしてくこと。	4
6回	質的研究方法論(1):質的研究法の特徴、研究デザインと方法 (桐原 更織)				質的研究とは リサーチクエストン対象 データ収集方法	＜復習＞提示された文献から質的研究法の特徴を整理して臨むこと。	4
7回	質的研究方法論(2):さまざまな質的研究方法の特徴、真実性と質の確保				さまざまな質的研究法の特徴 真実性と質の確保	＜予習＞課題(質的記述的研究、KJ法(質的統合法)、グラウンデッド・セオリー、エスノグラフィー等)の整理をしておく。	4
8回	質的研究方法論(3):分析方法;コード化・カテゴリー化				コード化・カテゴリー化	＜予習＞提示した資料をよく読みこんでおく。	4
9回	質的研究方法論(4):分析方法;質的記述的研究 KJ法(質的統合法)				分析方法 質的記述的研究 KJ法(質的統合法)	＜予習＞担当課題を整理し、プレゼンの準備をしておく。	4
10回	質的研究方法論(5):分析方法;グラウンデッド・セオリー ナラティブ・リサーチ 等				分析方法 グラウンデッド・セオリー ナラティブ・リサーチ 等	＜予習＞担当課題を整理し、プレゼンの準備をしておく。	4
11回	量的研究方法論:量的研究方法の分類とエビデンスレベル (中平 浩人)				観察研究 介入研究 記述疫学 分析疫学 EBM EBN	＜予習＞量的研究方法の分類及びエビデンスレベルの関係を予習する。	4
12回	量的研究方法論:記述的研究 横断的研究				生態学的研究 横断研究 相関関係 有病調査	＜予習＞横断的研究と症例対照研究の特徴を調べる。	4
13回	量的研究方法論:横断研究 症例対照研究				有病調査 後ろ向き研究 オッズ比 バイアス マッチング	＜復習＞症例対照研究のデザイン及び特徴を理解する。	4
14回	量的研究方法論:コホート研究				縦断研究即向き研究 相対危険 寄与危険	＜予習＞コホート研究の特徴を調べる。	4
15回	量的研究方法論:介入研究 サンプルサイズ				RCT 無作為化 マスキング プラセボ	＜復習＞介入研究のデザイン及び特徴を理解する。	4
計							60
成績評価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	・課題レポートは添削し、評価する。N-COMPASSのレポート機能を使って評価を伝える。 ・学んだことについて発言を求める。必要に応じ、補足説明をする。 ・プレゼンテーションでは内容の理解と達成度について評価し、助言する。			
	試験	0%					
	レポート	50%					
	学習態度	20%	備考	・課題レポート50%(適宜授業時に提示する) ・学習態度は討議への参加(発言)の状況20% ・プレゼンテーション30% ・最終的には教員毎に100%で評価する。3人の教員による評価点の平均点で教科の成績評点とする。			
	その他	30%					
	計	100%					
テキスト	必要時、指示する。						
テキスト以外の参考書	1. 看護研究ガイドマップ;川口孝泰著、医学書院、2002。(¥3024) 2. ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版;石井京子、多尾清子著、医学書院、2004。(¥2940) 3. 質的研究と量的研究のエビデンスの統合;キャサリン・ホープ、ニコラス・メイズ、ジェニー・ボベイ(伊藤景一監訳)、医学書院 2009 4. 質的研究の実践と評価のためのサブストラクション;北素子、谷津裕子、医学書院 2009 5. グラウンデッド・セオリーアプローチのすべて;木下康二、弘文堂、2007 6. ナースのための質問紙調査とデータ分析 第2版;石井京子他、医学書院、2002 7. ナースのための質的研究入門 第2版;ホロウエイ、ウイラー(野口美和子監訳)、医学書院、2006 8. 質的統合法入門;山浦晴男、医学書院、2012 9. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方;浦上昌則、脇田貴文著、東京図書、2010 10. 新版 質的研究入門(人間の科学)のための方法論;ウヴェ・フリック(小田 博志他 翻訳)、春秋社、2011.						
履修上の注意事項や 学習上の助言など							

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	106	教科名	看護情報統計学				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	中平 浩人
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		なぜ看護研究に統計解析が必要なのか、統計解析が有効となるための調査研究プロトコルがいかに重要かを教授し、よりエビデンスレベルの高い知見を得るための調査研究計画の基本を学ぶ。次に、統計の基礎を学び、続いて頻用される統計学的検定法および高度な統計学的検定法を教授する。そのうえで、多変量データ解析の最新の動向について学び、実際の看護学/医療に関する研究論文を読み、その研究計画、方法論、バイアス・交絡などについて文献を各学生がクリティークし、その内容をプレゼンテーションする。 また、IBM SPSS Statistics等の統計ソフトを用いて、各自が自分自身で統計的データ解析ができるようになることを目標とする。					
学生の学習 (行動)目標		1. エビデンスを生む調査研究プロトコルを理解することができる。 2. 情報収集および処理と活用ができる。 3. 既存の医療情報・論文を正しく理解し、活用できる統計学を説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習)の内容と分量 (Textページ)	準備学習に要する時間
1回	看護研究における統計解析の必要性、調査研究計画の重要性				エビデンス EBM EBN 母集団 標本	1. EBMについて学習してくる。(p.104,112左列,100左列) 2. 母集団と標本の関係を学習してくる。(p.20左列,84)	2
2回	統計の基礎(1) データの種類				量的変数 質的変数	1. データの種類を学習してくる。(p.2-9)	3
3回	統計の基礎(2) 相関と回帰 代表値 散布度Ⅰ				相関係数 平均 中央値 分散 標準偏差	1. 相関係数を学習してくる。(p.61,62,64,65) 2. 平均値、中央値と偏差を学習してくる。(p.10〜13,18,19)	3
4回	統計の基礎(3) 散布度Ⅱ 正規分布 標準化				不偏分散 正規分布 標準化 標準正規分布	1. 不偏分散を学習する。(p.12) 2. 標準化を理解してくる。(p.15)	5
5回	統計の基礎(4) 標本平均の分布				標本平均 中心極限定理 t分布	1. 標本平均の分布を学習する。(p.14-17,88左上) 2. 中心極限定理を理解してくる。(p.20右列,21)	5
6回	統計の基礎(5) 標本割合の分布 その他の分布 信頼区間Ⅰ				二項分布 ポアソン分布 95%信頼区間 99%信頼区間	1. 95%信頼区間の意味を理解してくる。(p.22-23)	5
7回	統計の基礎(6) 信頼区間Ⅱ 仮説検定Ⅰ				割合の信頼区間 帰無仮説 有意水準 統計量	1. 仮説検定の手順を学習してくる。(p.38左列,42) 2. 有意水準を説明できるようにしてくる。(p.38右列)	5
8回	統計の基礎(7) 仮説検定Ⅱ				有意確率 第1種の過誤 第2種の過誤 検出力	1. 有意確率と統計量の大小関係を理解してくる。 (p.38右,94右) 2. 2つの過誤を理解してくる。(p.40左列,91-93)	5
9回	頻用される統計学的検定法(1) 2群の平均値の比較Ⅰ				F検定 Studentのt検定 Welchのt検定	1. F検定の必要性を学習してくる。(p.88左下) 2. t検定の使い分けを学習してくる。(p.44-49,89)	5
10回	頻用される統計学的検定法(2) 2群の平均値の比較Ⅱ				マンホイットニーU検定 ウィルコクソン符号順位検定	1. ノンパラメトリック検定を学習する。(p.38,89)	4
11回	頻用される統計学的検定法(3) 分散分析、多重比較 2群の比率の検定Ⅰ				一元配置分散分析 多重比較 カイ2乗分布 独立性の検定	1. 分散分析を学習してくる。(p.50-52) 2. 期待度数を計算できるようにしてくる。(p.56例1)	5
12回	頻用される統計学的検定法(4) 2群の比率の検定Ⅱ				イエーツの補正 直接確率法 マクネマー検定	1. 直接確率法の使用条件を学習してくる。(p.55右列) 2. マクネマー法を学習してくる。(p.56,57)	4
13回	高度な統計学的検定法Excel演習				重回帰分析 ロジスティック回帰 Excelによる分析演習	1. 多変量解析に目を通してくる。(p.66-83)	3
14回	高度な統計演習、記述統計、平均、分散、効果量、2群の差の検定 分散分析				SPSS演習	1. 事前配布の操作マニュアルを読み込んでくる。	3
15回	高度な統計演習、重回帰分析 ロジスティック回帰				SPSS演習	1. 事前配布の操作マニュアルを読み込んでくる。	3
計							60
成績評価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	授業中の質疑応答で、予習および復習した内容を確認していく。 毎回、授業資料を事前に配布(送信)する。		
		試験	0%				
		レポート	90%				
		学習態度	10%	備考	レポートは問題形式で最終授業日に課題(詳細)を提示する。レポートは指定する締め切り日までに提出する。 学習態度は、授業への取り組み姿勢を評価する。		
		その他	0%				
		計	100%				
テキスト		テキスト 臨床研究マスターへの道 医学統計学が身につくテキスト A. Petrie, C. Sabin著、杉森裕樹訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2019 3,600円+税					
テキスト以外の参考書		1. 臨床研究マスターブック 福井次矢編 医学書院 2008 4,104円税込 2. エビデンスのための看護研究の読み方・進め方 高木廣文・林邦彦 中山書店 2006 2,916円税込 3. SPSSによる統計データ解析 柳井晴夫・緒柳井晴夫・緒方裕光編 現代数学社 2006 3,024円税込 4. 基礎医学統計学 加納克己 高橋秀人共著 南江堂 2011 2,300円税抜					
履修上の注意事項や 学習上の助言など		例年、授業のみの学習では、内容を理解するまでの時間が不十分のようです。準備学習(予習及び復習)が重要ですので、その時間を確保するよう努めてください。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	107	教科名	原著講読				
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	菅原 真優美
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		英文読解のための知識や技術を学修し、英文読解能力を涵養する。また、医療・保健・看護分野の英文資料の講読を通して、それらの内容を説明できるように教授する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 英語論文の形式について説明できる。 2. 英語の看護・医学用語に慣れ、使うことができる。 3. 英文による看護・医療・保健分野の研究論文の検索方法がわかる。 4. 英文による研究論文を読み、概要を説明することができる。 5. 海外の保健・医療・看護分野の動向について英文資料の講読を踏まえて説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション、英語文献の読み方				英文講読、WEB翻訳	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
2回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (1)				英文講読、文献検索	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
3回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (2)				英文講読、要約	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
4回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (3)				英文講読、序論、目的	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
5回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (4)				英文講読、方法	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
6回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (5)				英文講読、結果	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
7回	プレゼンテーション1				プレゼンテーションとディスカッション	<予習>発表準備をして授業に臨む。	4
8回	プレゼンテーション2				プレゼンテーションとディスカッション	<予習>発表準備をして授業に臨む。	4
9回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (6)				文献検索、サーチエンジン	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
10回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (7)				文献検索、サーチエンジン	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
11回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (8)				研究論文の精読1、選択の基準	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
12回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (9)				講読演習	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
13回	看護領域の英文資料を用いての講読演習 (10)				講読演習	<復習> 自分に割り当てられた課題に取り組む	4
14回	プレゼンテーション3				プレゼンテーションとディスカッション	<予習>発表準備をして授業に臨む。	4
15回	プレゼンテーション4				プレゼンテーションとディスカッション	<予習>発表準備をして授業に臨む。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	プレゼンテーションの内容についてコメントをします。		
		試験	0%				
		レポート	0%				
		学習態度	0%	備考	その他:プレゼンテーションの状況、発表を聞く態度、発言を評価します。 評価項目については、第1回の授業で提示します。		
		その他	100%				
		計	100%				
テキスト		なし					
テキスト以外の参考書							
履修上の注意事項や 学習上の助言など		海外の文献に接することは、新たな着想を得たり、発見を得るきっかけとなります。是非楽しんで英文に親しんでください。 毎回パソコンを使用します。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年						
講義番号	108	教科名	看護理論					
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	柄澤 清美	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		看護実践の基盤となる看護理論と看護現象との関係について、看護の科学的解釈、論理的枠組みの探求を通して理解を深める。看護の諸理論の歴史と動向、理論開発のレベルを学ぶとともに、看護実践及び調査における理論の役割を理解し、自らの考えを発展させ、看護実践への活用を探究する。						
学生の学習 (行動)目標		1. 看護理論の科学的解釈、論理的枠組みを説明できる。 2. 看護の諸理論の歴史と動向、理論開発のレベルを説明できる。 3. 自らの看護実践を事例研究方法を用いて整理し看護の意味を説明できる。						
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	看護理論の発展過程と概要				看護理論、歴史、用語、理論の構成要素	＜予習＞ 図書を参考に看護理論の歴史的背景について予備的に知っておく。		4
2回	ナイチンゲール				看護覚え書き、統計、環境、帰納的	＜予習＞ 自分に合った図書を用いて予習する		4
3回	ヘンダーソン				ニーズ、14の構成要素	＜予習＞ 自分に合った図書を用いて予習する		4
4回	トラベルビー				人間対人間、共感、同感	＜予習＞ 自分に合った図書を用いて予習する		4
5回	ロイ				適応、ヒューマニズム	＜予習＞ 自分に合った図書を用いて予習する		4
6回	ワトソン				ケアリング、トランスパーソナル	＜予習＞ 自分に合った図書を用いて予習する		4
7回	ベナー				解釈的理論、現象学、達人	＜予習＞ 自分に合った図書を用いて予習する		4
8回	事例研究方法の概説				ケアの意味をみつめる事例研究 現象学	＜予習＞ 事前に配布する資料を読んでくる(参考図書6で解説されている内容)。		4
9回	事例についての対話から実践の掘り起こし(1)				キャッチコピー、対話、看護実践	＜予習＞ワークシートに実践を記述してくる ＜復習＞対話によって想起された実践の記述		4
10回	事例についての対話から実践の掘り起こし(2)				キャッチコピー、対話、看護実践	＜予習・復習＞ワークシートの修正追加		4
11回	実践を意図ごとにまとめる				看護の意味、テーマへの焦点化	＜予習＞実践を意図ごとにまとめてタイトルをつける		4
12回	実践を表で構造化する				対象論、方法論、概念	＜予習＞実践の意味・意図・コツについて考える		4
13回	実践について考察する:実践と理論の照合				対象論、方法論、概念	＜予習＞どの理論で説明可能かを考える		4
14回	プレゼンテーション(1)				看護の個性、看護理論	＜予習＞発表準備		4
15回	プレゼンテーション(2)				看護の個性、看護理論	＜予習＞発表準備		4
計								60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	事例の整理の仕方について、進度に合わせて指導する。 プレゼンテーションについては講評する。			
		試験	0%					
		レポート	30%					
		学習態度	40%	備考	レポートとは、自分の実践を整理した「ワークシート」である。 学習態度は、授業の参加度(発言)とする。 その他は、プレゼンテーションの内容とアピール力である。			
		その他	30%					
		計	100%					
テキスト		指定のテキストはなし						
テキスト以外の参考書		1. 筒井真由美編集:看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2015 2. 野川道子編著:看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社、2014 3. 城ヶ端初子:実践に生かす看護理論19、サイオ出版、2013 4. 黒田裕子:やさしく学ぶ看護理論改訂4版、日総研、2016 5. 太田喜久子ほか訳:フォーセット看護理論の分析と評価 新訂版、医学書院、2008 6. 山本則子・柄澤清美編:ケアの意味をみつめる事例研究-看護実践の知を探究する研究方法論-、医学書院、2025						
履修上の注意事項や 学習上の助言など		「看護理論を学ぶこと」と「自分の実践を理論枠組みで捉えること」をするので、授業時間外の学習が必要になります。 授業の後半は、自分の実践を省察するワークが含まれます。						

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	109	教科名	ケアリング論				
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	佐々木 祐子、○中野 啓明
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	看護学が注目するケア・ケアリングについて省察する。ここでいうケアとは、意識状態を指し示し、ケアリングは、ケアに対して、実際の行為や行動を強調している。本講義においては、ケアリング概念の理論的な枠組みと諸課題を省察するとともに、ケアの専門家として看護に必要なケア、ケアリングについて探究する。						
学生の学習 (行動)目標	1. ケアリング概念を実存現象学の方法論上の特徴から説明できる。 2. M.メイヤロフ及びN.ノディングズのケアリング論の相違点を指摘することができる。 3. ケアの専門家として看護に必要なケア、ケアリングについて説明できる。 4. ケア・ケアリングの意味を看護学における理論、そして実践を通して説明できる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	ケアリング概念の理論的な枠組				cure, care, nursing	＜予習＞シラバスを読み込んでおくとともに、『ケアリングの視座』序章を通読しておくこと。	4
2回	ケアリングの実践―教育・保育の視点から①―				ケアする人、ケアされる人、教育的ケアリング、教育学的ケアリング、ケアリング教育	＜予習＞『ケアリングの視座』第1章を読み、論点と疑問点をまとめておくこと。	4
3回	ケアリングの実践―教育・保育の視点から②―				スクールカウンセリング、心のケア	＜予習＞『ケアリングの視座』第2章を読み、論点と疑問点をまとめておくこと。	4
4回	ケアリングの実践―教育・保育の視点から③―				難病の子どもとその家族へのケア	＜予習＞『ケアリングの視座』第3章を読み、論点と疑問点をまとめておくこと。	4
5回	ケアリングの実践―教育・保育の視点から④―				子ども相互のケアリング、自然に対するケアリング、メルロ＝ぶんティ	＜予習＞『ケアリングの視座』第4章を読み、論点と疑問点をまとめておくこと。	4
6回	ケア・コミュニティの形成				地域包括ケア、ケアリング・コミュニティ	＜予習＞『ケアリングの視座』第5章を読み、論点と疑問点をまとめておくこと。	4
7回	看護教育におけるケアリング				ケアリングの専門職、看護教育カリキュラム、ケアリングの学習	＜予習＞『ケアリングの視座』第10章を読み、論点と疑問点をまとめておくこと。	4
8回	ケアリングと看護学における理論①ワトソンのヒューマンケアリング理論				ワトソン、トランスパーソナル、カリタス・プロセス、ヒーリング、尊重	＜予習＞ワトソンに関する事前配布資料を読み、論点をまとめておくこと。	4
9回	ケアリングと看護学における理論②レイニンガーの「文化ケア論」				サンライズ・モデル、文化ケア、ヒューマンケアリング	＜予習＞レイニンガーに関する事前配布資料を読み、論点をまとめておくこと。	4
10回	ケアリングと看護学における理論③ローチの「ケアする存在としての人間」				人間の存在様式、信頼、看護実践、5つのC、ノンケアリング	＜予習＞ローチに関する事前配布資料を読み、論点をまとめておくこと。	4
11回	地域でのケアを考える				発達段階、地域課題	＜予習＞『ケアリングの視座』第5章を読み、論点をまとめておくこと。	4
12回	対人援助におけるケアの相互性				ケアの相互性、ケアの主体性	＜予習＞「いのちの生成とケアリング」第4章三 ケアの相互を読み、論点をまとめておくこと。	4
13回	ヒューマンケアリングとしての看護				自明性、看護の核としてのケアリング	＜予習＞「いのちの生成とケアリング」四 ケアリングーケアのケアを読み、論点をまとめておくこと。	4
14回	グリーフにおけるケアリング				グリーフ、苦しみの構造	＜予習＞「いのちの生成とケアリング」第3章 セルフケアの現象学 三悲しみを読み、論点をまとめておくこと。	4
15回	対人援助職としてのケアリング (8回から15回 佐々木祐子)				応答、成長、バーンアウト	＜予習＞『ケアリングの視座』第8章を読み、論点をまとめておくこと。	4
計							60
成績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポートの課題は授業の前に提示する。レポートに対する評価はその視点を授業中に明示し、それに基づいてコメントしフィードバックする。			
	試験	0%					
	レポート	40%					
	学習態度	30%	備 考	学習態度は準備と発言とする。 その他は、プレゼンテーションとする。 授業時には、PCを持参すること。			
	その他	30%					
	計	100%					
テキスト	『ケアリングの視座』、立山善康編、晃洋書房、2023、2,970円						
テキスト以外の参考書	1. 『ケアリングの現在』、中野啓明・立山善康・伊藤博美編著、晃洋書房、2006、2,970円 2. 中野啓明著：教育的ケアリングの研究、樹村房、2002、2,000円 3. 丹木博一：いのちの生成とケアリング、ナカニシヤ出版、2016、3,800円 4. 筒井真由美編集：看護理論家の業績と理論評価第2版、医学書院、2020、7,040円 5. ジーン・ワトソン：ワトソン看護論第2版、医学書院、2016、2,970円 6. マーリン M. レイニンガー：レイニンガー看護論、医学書院、2016、5,390円 7. 佐藤泰子：苦しみと緩和の臨床人間学、晃洋書房、2016、2,970円 8. 神谷美恵子：生きがいについて、みすず書房、2018、1,760円 9. シスター・M・シモーヌ・ローチ：アクト・オブ・ケアリング、ゆるみ出版、2007、2,310円						
履修上の注意事項や学習上の助言など	文献検討、ディスカッション、演習により内容を深める。 授業で読む文献は図書館にある本を使います。						

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	110	教科名	教育心理学特論				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	☆中村 恵子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		発達や学習の過程、学校不応や発達障害、人間関係などへの教育的配慮について、心理学的側面から学修する。人間理解を深め、個や集団に応じた実践を行うために、教育現場で生じる現象について、様々な領域の心理学的知見をもとに情報収集や分析を行い、論理的・科学的に探求する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 発達や学習、個と集団の理解、カウンセリングの理論について説明することができる。 2. 学習方法や対象者理解の方法、カウンセリングにおける技法を用いることができる。 3. 教育心理学における理論や技法をどのように実践に活かすことができるか、自分の考えを述べることができる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	ガイダンス～教育心理学とは～				発達、学習、教え手のピリーフ	<予習>テキスト:pp.2～3、196～199を読んでくこと。	4
2回	発達と学習(1)成熟論的アプローチ、構成主義的アプローチ				成熟、経験、レディネス	<予習>テキスト:pp.4～5、8～9を読んでくこと。	4
3回	発達と学習(2)社会文化的アプローチ～発達の最近接領域、活動理論～				段階、順序、方向、課題	<予習>テキスト:pp.12～15を読んでくこと。	4
4回	発達と学習(3)行動主義的アプローチ～経験による学習～				行動主義、レスポナデント条件づけ、オペラント条件づけ	<予習>テキスト:pp.6～7を読んでくこと。	4
5回	発達と学習(4)認知主義的アプローチ～知識獲得としての学習～				構成主義、正統的周辺参加	<予習>テキスト:pp.10～11を読んでくこと。	4
6回	発達と学習(5)教授・学習方法				プログラム学習、有意味受容学習、発見学習、適性処遇交互作用	<予習>テキスト:pp.90～93、102～103、110～111を読んでくこと。	4
7回	発達と学習(6)動機づけ				内発的動機づけ、自己効力感	<予習>テキスト:pp.34～45を読んでくこと。	4
8回	個と集団の理解(1)学校不応～いじめ、不登校など～				いじめ、不登校	<予習>テキスト:pp.146～149を読んでくこと。	4
9回	個と集団の理解(2)発達障害				自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害	<予習>テキスト:pp.154～159を読んでくこと。	4
10回	個と集団の理解(3)集団と人間関係				グループダイナミクス、職場の風土	<予習>テキスト:pp.136～139を読んでくこと。	4
11回	個と集団の理解(4)教育評価				絶対評価、相対評価、PDCAサイクル、ポートフォリオ	<予習>テキスト:pp.174～185を読んでくこと。	4
12回	現場に活かすカウンセリング(1)ヘルスカウンセリングによる教育的支援				自己一致、肯定的配慮、共感的理解	<予習>テキスト:pp.160～163を読んでくこと。	4
13回	現場に活かすカウンセリング(2)アセスメント、チームによる支援				アセスメント、チームによる支援	<予習>テキスト:pp.164～167を読んでくこと。	4
14回	現場に活かすカウンセリング(3)キャリア発達のための生涯発達支援				適性とニーズ、バーンアウト、キャリアパス	<予習>テキスト:pp.26～33を読んでくこと。	4
15回	まとめとプレゼンテーション					<復習>これまでの学習内容を整理し、プレゼンテーションを構成しておくこと。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	グループワークおよびディスカッションを通してコメントする。		
		試験	0%				
		レポート	0%				
		学習態度	40%	備考	学習態度40%は準備・参加状況で評価する。 その他60%はプレゼンテーションで評価する。		
		その他	60%				
		計	100%				
テキスト		中澤潤編、『よくわかる教育心理学』、ミネルヴァ書房、2008、2500円＋税					
テキスト以外の参考書		参考文献は、講義開始時に提示する。 参考資料は、プリントにて適宜配布する。					
履修上の注意事項や学習上の助言など		理論を看護実践やこれまでの経験とを関連させながら、学習してください。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	111	教科名	教育学特論				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	○中野 啓明
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		J.デューイの『経験と教育』の検討を通じて、伝統的教育と進歩主義教育双方の問題点を探るとともに、現代の学校教育を取り巻く社会状況の変化を鑑みて、学習活動の組織化等のこれからの教育実践上の諸課題と対応策を考察する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 本質主義と進歩主義の特徴と問題を述べることができる。 2. 現代の学校教育を取り巻く社会状況の変化を指摘することができる。 3. 現代の学校教育における教育実践上の課題を捉えることができる。					
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション:授業の概要と目標				J.デューイの生涯	＜予習＞シラバスを読み、デューイの生涯について調べておく。	4
2回	デューイの教育理論の諸特徴1				デューイの経験概念	＜予習＞第1回の授業時に配布された資料をよみ、まとめておく。	4
3回	デューイの教育理論の諸特徴2				デューイの成長概念	＜予習＞第1回の授業時に配布された資料をよみ、まとめておく。	4
4回	『経験と教育』の検討1:伝統的教育対進歩主義教育				進歩主義、本質主義、二元論	＜予習＞テキストの第1章を読み、質問を考えておく。	4
5回	『経験と教育』の検討2:経験についての理論の必要性				デューイの経験論	＜予習＞テキストの第2章を読み、質問を考えておく。	4
6回	『経験と教育』の検討3:経験の基準				相互作用、連続性の原理	＜予習＞テキストの第3章を読み、質問を考えておく。	4
7回	『経験と教育』の検討4:デューイにおける「教育的経験」				教育的経験、非教育的経験	＜予習＞デューイの経験論の問題点を考えておく。	4
8回	『経験と教育』の検討5:社会的統制				教育計画、個人の自由、社会的統制	＜予習＞テキストの第4章を読み、質問を考えておく。	4
9回	『経験と教育』の検討6:自由の本性				衝動、省察	＜予習＞テキストの第5章を読み、質問を考えておく。	4
10回	『経験と教育』の検討7:目的の意味				目的、目標	＜予習＞テキストの第6章を読み、質問を考えておく。	4
11回	『経験と教育』の検討8:教材の進歩主義的組織化				教材、カリキュラム	＜予習＞テキストの第7・8章を読み、質問を考えておく。	4
12回	現代の学校教育を取り巻く社会状況の変化1:発達障害への対応				発達障害者支援法、特別支援教育	＜予習＞各自で資料を調べ、発達障害に対する課題をまとめる。	4
13回	現代の学校教育を取り巻く社会状況の変化2:コンピテンシー・ベースのカリキュラムへ				知識基盤社会、コンピテンシー、OECD	＜予習＞各自で資料を調べ、知識基盤社会に関する課題をまとめる。	4
14回	教育実践上の諸課題とその対応策の検討				学校の役割、子どもの最善の利益	＜予習＞各自で資料を調べ、現在の教育実践上の課題をまとめる。	4
15回	授業のまとめと振り返り				リフレクション、最終レポート	＜復習＞最終レポートをまとめる。	4
計							60
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	第4回から第13回までの授業は、ディスカッション形式で行うため、発表内容に関して随時コメントする。			
	試験	0%					
	レポート	30%					
	学習態度	30%	備考	「学習態度」は、google classroom上に投稿された質問や授業中のディスカッションへの貢献度によって評価する。「その他」は、第4回から第13回までに作成したレジュメ等によって評価する。			
	その他	40%					
	計	100%					
テキスト	ジョン・デューイ、市村尚久訳『経験と教育』、講談社学術文庫、2004年、820円(税込)						
テキスト以外の参考書	新井保幸・上野耕三郎編著『教育の思想と歴史』、協同出版、2012年 『小学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領』						
履修上の注意事項や 学習上の助言など	PCは毎回フル充電の上、持参すること。						

研究科・学 年		看護学研究科		1年			
講義番号	112	教科名	国際保健看護学				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	☆中村 勝、☆藤野 康之
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		国際保健医療は、グローバルな視点から現状と今後の保健医療問題を多面的に考察し、問題の解決に向けて実行可能な解決策を考える学問分野である。発展途上国で看護活動を行うために必要な知識を知り、看護分野の国際協力・貢献のあり方を探求する。また、国際看護の概念、実践、対象の学びを通して、看護において地球規模の視野と多様な文化を尊重する大切さを理解する。					
学生の学習 (行動)目標		・国際保健看護学の概要を説明できる。 ・グローバルな看護・医療・保健分野の動向が説明できる。 ・健康日本21と発展途上国のPHCとの相違が説明できる。 ・国際保健看護の活動を説明できる。 ・国際看護を学ぶ意義を説明できる。 ・文化、習慣、価値観の違いを考慮した看護の重要性を説明できる。 ・世界の保健課題と改善のための取り組みを説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	ガイダンス、グローバルヘルスとは何か、国際保健看護学とは何か、共通するテーマ(1回から8回 中村勝)				グローバルヘルス、国際保健看護学、持続可能な開発目標、測定指標	関連文献から概要を予習し把握しておく	4
2回	子どもの健康				死亡リスク要因、予防接種	関連する世界の保健課題を予習しておく	4
3回	思春期の健康				思春期の健康問題	関連する世界の保健課題を予習しておく	4
4回	感染症				HIV/AIDS、結核、マラリア、下痢症ほか	関連する世界の保健課題を予習しておく	4
5回	非感染性疾患				非感染性疾患の重要性	関連する世界の保健課題を予習しておく	4
6回	栄養とグローバルヘルス				栄養、栄養問題、栄養事情	関連する世界の保健課題を予習しておく	4
7回	女性と健康				女性、健康問題、女性器切除	関連する世界の保健課題を予習しておく	4
8回	(前半の)まとめ				レポート発表	これまでの学習内容を復習しておく	4
9回	国際看護の概念と対象(9回から15回 藤野康之)				国際看護、国際保健、人間の安全保障、持続可能な開発目標、国際化	＜予習＞「なぜ『国際看護』『国際保健』を学ぶ？」 自分なりの考えをまとめましょう。	4
10回	看護と文化				文化的権利、異文化理解、多様性	＜予習＞「看護と文化は関係している？」 自分なりの考えをまとめましょう。	4
11回	世界の保健課題				保健格差、性と生殖に関する健康と権利、保健システム強化、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ	＜予習＞世界における保健課題を調べてみましょう。	4
12回	世界の保健課題1 アフリカでの事例(政府間レベル)				政府開発援助、プライマリー・ヘルス・ケア	＜予習＞アフリカ諸国における保健課題を調べてみましょう。	4
13回	世界の保健課題2 アジアでの事例(草の根レベル)				非政府組織、プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)	＜予習＞アジア諸国における保健課題を調べてみましょう。	4
14回	事業計画書(グループワーク)の発表				プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)	＜予習＞第13回で提示された保健課題への支援事業をPDMを用いて立案しましょう。	4
15回	事業計画書へのフィードバック、国際看護の実践、世界共通の開発目標				国際看護協力、在日・訪日外国人、外国人看護師、MDGsとSDGs	＜予習＞国際看護の実践の「場」と、それぞれの場の「対象」について考えてみましょう。	4
計							60
成績評価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	・レポート(前半8回)と事業計画書(グループワーク)(後半7回)の発表を行い、内容と発表についてフィードバックを行う。		
		試験	0%				
		レポート	60%				
		学習態度	40%	備考	・レポート:レポート(前半8回)と事業計画書(後半7回)の内容と発表、質疑応答の状況(30%+30%) ・学習態度:授業への取組姿勢(20%+20%)		
		その他	0%				
		計	100%				
テキスト							
テキスト以外の参考書		国際保健学講座、梅内拓生、じほう、2001年、8,600円(税別) 国際看護、森淑江・山田智恵理・正木治恵編集、南江堂、2019年、2,600円(税別) 国際化と看護、大橋一友・岩澤和子編集、メディカ出版、2018年、2,400円(税別) 日本国際保健医療学会編、杏林書林、国際保健医療学第3版、3,200円(税別)					
履修上の注意事項や学習上の助言など		国際保健看護を学びながら、自分自身の「看護観」を深めましょう。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	113	教科名	家族看護学				
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	柄澤 清美
講義の概要 (教育目標を含む)		健康問題・課題を抱える一単位の家族を看護の対象として捉え、家族本来のセルフケア機能を高め、主体的に問題解決できるよう、支持的・予防的・治療的に支援する家族看護学の理念や理論、方法を学ぶ。					
学生の学習 (行動)目標		1. 家族看護学の定義を述べることができる 2. 家族の概念、形態や機能を説明することができる 3. 家族看護過程の概略を説明することができる 4. 家族看護における看護者の役割・機能について説明することができる 5. 状況に応じた家族の援助について述べることができる					
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	家族看護学とは-1				定義、目的、焦点	<予習>テキスト第1章を読んでまとめておく。	4
2回	家族看護学とは-2				家族の概念、特徴、近代家族、わが国の家族	<予習>テキスト第2章を読んでまとめておく。	4
3回	家族を理解するための諸理論、家族の機能-1				家族発達理論	<予習>提示された関連資料に目を通しておく。	4
4回	家族を理解するための諸理論、家族の機能-2				家族システム理論、家族ストレス対処理論	<予習>提示された関連資料に目を通しておく。	4
5回	家族看護過程-1				家族アセスメント・介入モデル	<予習>提示された関連資料に目を通しておく。	4
6回	家族看護過程-2				渡辺式家族アセスメント	<予習>テキスト第3章を読んでまとめておく。	4
7回	家族看護過程-3				家族の適応状況、家族の対応状況、家族の対応能力、家族の発達課題	<予習>提示された関連資料に目を通しておく。	4
8回	渡辺式 人間関係見える化シートを使った事例分析				当事者、ナラティブ	<予習>提示された関連資料に目を通しておく。	4
9回	事例検討-1				家族アセスメント、家族支援方法	<復習>事例に用いられている理論の学習。	4
10回	事例検討-2				家族アセスメント、家族支援方法	<復習>事例に用いられている理論の学習。	4
11回	事例検討-3				家族アセスメント、家族支援方法	<復習>事例に用いられている理論の学習。	4
12回	事例検討-4				家族アセスメント、家族支援方法	<復習>事例に用いられている理論の学習。	4
13回	家族看護学に関連する文献検討-1				クリティーク、理論、実践	<予習>家族看護学がキーワードとなる研究論文を検索し、文献検討の資料を準備する。	4
14回	家族看護学に関連する文献検討-2				クリティーク、理論、実践	<予習>家族看護学がキーワードとなる研究論文を検索し、文献検討の資料を準備する。	4
15回	事例および文献検討に関する発表と討議				家族の健康課題、看護者の立ち位置	<予習>発表準備	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	事例検討について、進度に合わせて指導する。 プレゼンテーションについては講評する。		
		試験	0%				
		レポート	40%				
		学習態度	60%	備考	レポートとは、事例検討ごとに課すミニレポートである。 学習態度は、授業の参加度と発言内容とする。		
		その他	0%				
		計	100%				
テキスト		なし					
テキスト以外の参考書		1. 若林英樹ら編:ラダーと事例から学ぶ家族志向のケア、中外医学社、2024 2. 野嶋佐由美:家族エンパワーメントをもたらす看護実践、へるす出版、2005 3. 困った場面課題解決シート、柳原清子、渡辺裕子、医学書院、2012(絶版のようなので図書館利用で) 4. 問いからはじめる家族社会学 ― 多様化する家族の包摂に向けて、有斐閣ストウディア、岩間暁子、大和礼子、田間泰子、2015					
履修上の注意事項や 学習上の助言など		・事例検討においては、参加者の経験も題材とする予定です。 ・新潟家族看護研究会(11月、1月の第4日曜20:00～)への参加を勧めます(必須ではない)。					

研究科・学年		看護学研究科 1年							
講義番号	201	教科名	母子看護学特論Ⅰ						
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	渡邊 典子、☆本間 昭子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		母子看護の理念ならびに母子看護および学校保健における対象特性の基盤となる概念や諸理論を学習し、多様化・複雑化する社会の変化に対応した母子と家族への看護実践への活用を探索する。							
学生の学習 (行動)目標		1. 母子看護の理念と母子保健医療の課題を検討し、説明できる。 2. 母子看護および学校保健における対象特性と家族システムについて理解を深め、説明できる。 3. 母子とその家族の健康課題に関わる諸理論について理解し、看護実践への活用を説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	小児保健の意義、小児看護の理念 (本間 昭子)					小児期の意義 成長発達の原理 小児看護の理念	〈復習〉既習した知識の整理		4
2回	小児の成長発達理論 (本間 昭子)					認知発達と健康-病気認識 発達課題	〈予習〉紹介する文献・資料のノート整理 〈復習〉既習した知識の整理		4
3回	小児の権利擁護と倫理的課題 (本間 昭子)					子どもの権利条約 意思決定能力 倫理的課題	〈予習〉紹介する文献・資料のノート整理 〈復習〉既習した知識の整理		4
4回	小児家族の発達段階とストレス論 (本間 昭子)					小児家族の健康 家族機能と構造	〈予習〉紹介する文献・資料のノート整理 〈復習〉既習した知識の整理		4
5回	健康問題のある小児と家族への看護支援 (本間 昭子)					小児の健康問題と家族 家族の危機と対処法	〈予習〉紹介する文献・資料のノート整理 〈復習〉既習した知識の整理		4
6回	小児看護の課題と期待される役割 (本間 昭子)					小児看護の課題 小児看護の役割	〈予習〉小児看護の課題をまとめてプレゼンの準備 〈復習〉プレゼン後に意見交換した内容のレポート作成		4
7回	母子保健を取り巻く状況と周産期医療体制 (渡邊 典子)					健やか親子21 母子への切れ目ない支援 周産期医療体制	〈復習〉授業で得た知識の確認と自己の研究課題の考察		4
8回	母子保健を取り巻く状況についてのプレゼン (渡邊 典子)					健やか親子21 母子への切れ目ない支援 周産期医療体制	〈予習〉プレゼンの準備		4
9回	子育ての変遷についてのプレゼン (渡邊 典子)					子育ての変遷 地域・社会における変遷	〈予習〉プレゼンの準備		4
10回	母子関係の理論 (渡邊 典子)					愛着行動(アタッチメント) 母子相互作用 母親役割獲得理論	〈復習〉授業で得た知識の確認		4
11回	母性論についてのプレゼン① (渡邊 典子)					母親への適応過程 役割獲得 母子相互作用	〈予習〉プレゼンの準備		4
12回	母性論についてのプレゼン② (渡邊 典子)					母親への適応過程 役割獲得 母子相互作用	〈予習〉プレゼンの準備		4
13回	プレコンセプションケアの概要 (渡邊 典子)					プレコンセプションケア 妊娠	〈復習〉授業で得た知識の確認		4
14回	成育過程にある対象へのプレコンセプションケア プレゼン① (渡邊 典子)					プレコンセプションケア 妊娠	〈予習〉プレゼンの準備 〈復習〉授業で得た知識の確認		4
15回	成育過程にある対象へのプレコンセプションケア プレゼン② (渡邊 典子)					プレコンセプションケア 妊娠	〈予習〉プレゼンの準備 〈復習〉授業で得た知識の確認		4
計									60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		1.「レポート」は、各担当教員(2名)が院生に課題を出し、評価の視点を明示し、それに基づいて院生個々にコメントによりフィードバックする。 2.「学習態度」は、授業での主体的な参加状況や発言内容等の観点から評価し、院生個々にコメントする。			
		試験	0%						
		レポート	70%						
		学習態度	30%	備 考		・教員毎に、課題レポート70%、学習態度として授業への参加度と発言30%とし、教員毎に100%で評価する。最終的には、2人の教員による評価点を1対2の割合で合算し、教科の成績評点とする。 ・講義日程は、院生の事情を考慮して柔軟に日程調整し、教育時間を確保できるように配慮し、院生のレディネスに合わせて発言しやすいように媒体や用語の工夫を行って支援する。			
		その他	0%						
		計	100%						
テキスト		特に、指定しない。							
テキスト以外の参考書		1. 愛着臨床と子どもの虐待、藤岡孝志、ミネルヴァ書房、2008.9. 2. ルヴァ・ルービン母性論、母性の主観的体験、ルヴァ・ルービン、医学書院、2001.4. 3. 産科と婦人科 プレコンセプションケアってなに？診断と治療社 2020.8 Vol87 No.8 4. 小児看護学1 小児と家族への系統的アプローチ第2版、岡田洋子、他、医歯薬出版株式会社、2010.10. 5. 愛着障害の克服：「愛着アプローチ」で、人は変わる、岡田尊司、光文社新書、2016 . 6. 「2024 最近の母子保健を取り巻く状況」子ども家庭庁.							
履修上の注意事項や学習上の助言など		① 課題レポートは興味関心のあるテーマと関連する理論の関係についてまとめ、最終回にプレゼンテーションを行い、ディスカッションを交えて理解を深める。 ② 一方的な学習ではなく、臨床の現場で生じている現象と理論の照合ができるように学習は双方向の関係で進められるので、積極的に参加してほしい。							

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	202	教科名	母子看護学特論Ⅱ				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	渡邊 典子、小林 正子、久保田 美雪
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		リプロダクティブヘルス／ライツの概念を基盤に、女性の健康問題と支援、次世代育成の準備期としての思春期・青年期、まさに次世代を育成する周産期の母子および家族の健康問題と支援について、倫理的、政策的、研究的視点を通して専門職としての役割と機能について探求する。さらに、産科医師不足等の近年の産科医療の動向をふまえ、助産師が本来の専門性を発揮し自立するための方策について共に探求する。					
学生の学習 (行動)目標		1. リプロダクティブヘルス／ライツと支援に関する学際的動向について説明できる。 2. 思春期とその家族の健康課題の特性とエビデンスに基づくケアとは何かを説明できる。 3. 周産期の母子・家族の健康課題の特性とエビデンスに基づくケアとは何かを説明できる。 4. 女性および次世代育成支援の課題について倫理的、政策的、研究的視点に基づき、看護職の専門性と責務を考察し説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	リプロダクティブヘルス／ライツの概念(歴史的背景)と学際的動向①(渡邊 典子)				リプロダクティブヘルス／ライツ 学際的動向	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
2回	リプロダクティブヘルス／ライツの概念(歴史的背景)と学際的動向②				リプロダクティブヘルス／ライツ 女性の健康支援	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
3回	包括的セクシュアリティ教育(CSE)の理解				包括的セクシュアリティ教育	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
4回	リプロダクティブヘルス／ライツのための研究・実践課題①				人間関係 価値観 ジェンダー 健康とウェルビーイング 暴力と安全	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
5回	リプロダクティブヘルス／ライツのための研究・実践課題②				人間関係 価値観 ジェンダー 健康とウェルビーイング 暴力と安全	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
6回	思春期の心身の問題① (久保田美雪)				思春期 身体的変化	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
7回	思春期の心身の問題②				思春期 心理的变化	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をし発表の準備をしておくこと。	4
8回	思春期の健康支援の課題				思春期 保健対策	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
9回	思春期の課題に関する文献検討				思春期 保健対策	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
10回	思春期の健康支援推進のための研究・実践課題 (まとめと発表)				思春期 実践課題	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
11回	成熟期の心身の変化と健康問題 (小林 正子)				周産期の母子 家族 健康支援課題	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をし発表の準備をしておくこと。	4
12回	成熟期の健康支援				産科医療の動向 チーム医療	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
13回	成熟期の健康支援の課題				産科医療の動向 助産師の自立 課題	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
14回	更年期の健康支援推進のための研究・実践課題				母子保健 次世代育成支援システム 政策課題	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をしておくこと。	4
15回	老年期の健康支援推進のための研究・実践課題 (まとめと発表)				母子保健 次世代育成支援システム 政策課題	<予習>提示した文献を読み、課題の整理をし発表の準備をしておくこと。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	課題についてコメントし、意見交換を行い学びを深める		
		試験	0%				
		レポート	60%				
		学習態度	20%	備考	・課題レポート60%(適宜、授業時に提示する) ・学習態度は授業の準備・参加状況20% ・その他としてプレゼンテーション20% ・最終的には教員毎に100%で評価する。3人の教員による評価点の平均点で教科の成績評点とする。		
		その他	20%				
		計	100%				
テキスト		課題に沿った文献紹介					
テキスト以外の参考書		上記と同様					
履修上の注意事項や学習上の助言など							

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	203	教科名	母子看護学特論Ⅲ				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	桐原 更織、○真壁 あさみ、☆本間 昭子、☆斎藤 まさ子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		母子看護学特論Ⅰの学修を踏まえて、子どもと家族の健康課題を解決するための諸理論と関連させてヘルスアセスメントし、看護の方向性を考察する。特に、慢性疾患や発達に障がいのある子どもと家族、引きこもりの子どもを抱える家族ならびに感染症に関わる健康課題を取り上げ、看護介入や支援システム等について探求する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 子どもの健康増進に必要なヘルスプロモーションの展開方法を検討し、説明できる。 2. 健康課題を抱える子どもと家族に必要な看護ケア上の問題を的確に判断し、説明できる。 3. 健康課題を抱える子どもと家族に必要な支援のあり方について検討し、説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	グローバルな視点から見た母子保健 (本間 昭子)				母子保健 SDGs 多職種連携	＜復習＞授業で得た知識を確認する。	4
2回	子どもの健康課題とヘルスプロモーション				子どもの健康課題 ヘルスプロモーション	＜予習＞指定する資料を読み、課題を整理して参加する。	4
3回	特殊な治療状況下にある子どもと家族の理解				集中治療 ターミナル医療 療養環境	＜予習＞指定する資料を読み、課題を整理して参加する。	4
4回	特殊な治療状況下にある子どもと家族の健康課題と看護支援				子どもの体験 家族の体験 アセスメント枠組 看護支援	＜予習＞指定する資料を読み、課題を整理して参加する。	4
5回	子どもの健康課題に対するヘルスプロモーションの検討				子どもの健康課題 ヘルスプロモーション	＜予習＞プレゼンテーション資料を準備して参加する。 ＜復習＞検討した健康課題を整理してまとめる。	4
6回	学童期の子どものこころの健康と家族ヘルスアセスメント (真壁 あさみ)				心の成長 発達課題 親の関わり 症状	＜予習＞エリクソンの発達課題について要点をまとめて参加する。	4
7回	不登校の子どものこころの健康課題と家族への支援				ストレス反応 家族役割の再構築 ソーシャルサポート	＜予習＞事例を体験した場合、家族関係図(ジェノグラム)を描いて参加する(事例を体験していない場合は、指定する事例で行う)	4
8回	学童期の子どもの心理療法				児童期 発達課題 遊戯療法 箱庭療法	＜予習＞子どもの心の成長についてまとめておく	4
9回	思春期の子どもの精神的な健康と家族ヘルスアセスメント (斎藤 まさ子)				思春期 発達課題 家族の健康上のアセスメント 学校との連携	＜予習＞不登校の事例をイメージできるように準備して臨む。	4
10回	ひきこもりの子どもの精神的な健康課題と家族への支援Ⅰ				ひきこもる心情 家族の発達課題 家族外の環境	＜予習＞思春期のメンタルヘルスについて体験事例を簡単にまとめる。	4
11回	ひきこもりの子どもの精神的な健康課題と家族への支援Ⅱ				ひきこもる子ども支援 家族支援	＜予習＞ひきこもり支援について考えていることをまとめる。	4
12回	慢性的な健康課題を抱える子どもの理解 (桐原 更織)				小児慢性疾患の特徴 生活 こども・家族の体験 看護の視点	＜復習＞担当課題について学習する。	4
13回	慢性的な健康課題を抱える子どもと家族のヘルスアセスメント				慢性疾患や障がいのあるこどもと家族 健康 QOL 看護支援	＜復習＞指定された課題に取り組む。	4
14回	慢性的な健康課題を抱える子どもと家族の看護支援				慢性的な疾患・障がいの受容過程 看護支援	＜予習＞指定された課題に取り組み、プレゼンテーション資料を準備して臨む。	4
15回	慢性的な健康課題を抱える子どもと家族の看護支援と課題				家族機能評価 看護支援 課題	＜予習＞指定された課題に取り組み、プレゼンテーション資料を準備して臨む。	4
計							60
成績評価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	予習の事前課題やレポート内容について、口頭や書面でコメントによりフィードバックする。教育活動の中でリフレクション等の活用によりフィードバックする。		
		試験	0%				
		レポート	70%				
		学習態度	0%	備考	1.「レポート」は、担当教員毎に課題ポートを提出させ、全体の70%の割合で評価する。 2.「その他」は、担当教員毎に、授業中の発言内容を30%の割合で評価する。 3. 最終的に、各教員が100%で評価し、担当教員の人数で割った平均点により成績を総合評価し、単位認定を行う。		
		その他	30%				
		計	100%				
テキスト		特に、指定はない。					
テキスト以外の参考書		1.小児救急医が診る思春期のこどもたち ゲートキーパーのその先へ。市川光太郎。中山書店。2010。(¥3,850) 2.臨床病態学 小児編 総編集。北村聖。ヌーヴェルヒロカワ。2013。(¥3,300) 3.小児医療心理学。マイケル・C・ロバーツ編 / 奥山真紀子。丸光恵完訳。エゼルピア・ジャパン。2007。(¥17,600) 4.NURSING TEXTBOOK SERIES 小児看護学I 子どもの健康と成長・発達 子どもの健康と成長・発達。荻津智子。守口絵里。医歯薬出版株式会社。2023。(¥ 3,300) 5.こどもセルフケア看護理論。片田範子。医学書院。2019。(¥3,850)					
履修上の注意事項や学習上の助言など		1.科目「母子看護学特論Ⅰ」と併せて履修することを推奨します。 2.小児および母性の保健医療における健康課題について関心をもって臨んで下さい。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年							
講義番号	204	教科名	母子看護学演習 I						
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	渡邊 典子、桐原 更織、小島 さやか		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		母子看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ概念や理論をもとに、母子および家族への支援、思春期・青年期のリプロダクティブヘルスに関する自己の関心領域のさまざまなタイプの国内外の文献を通読・精読し、その研究の背景、研究デザイン、結果、考察等をクリティークし、科学的な研究の条件と論文の執筆方法を学ぶ。さらに、自己の研究課題を整理するために文献のクリティークを通して母子および家族、子育て等への支援、思春期・青年期のリプロダクティブヘルスへの新しい支援プログラム、取り組みを学び、研究の意義や研究デザインを明らかにする。							
学生の学習 (行動)目標		1. 母子、家族、思春期・青年期の健康課題、健康支援に関する国内外のさまざまなタイプの文献を通読・精読し、研究の背景・デザイン・結果・考察等をクリティーク説明できる。 2. 科学的な研究の条件と論文の執筆方法を述べることができる。 3. 文献のクリティークを通して母子および家族、子育て等への支援、思春期・青年期の健康課題への新しい支援プログラム、取り組みを説明できる。 4. 自己の研究課題について、研究の意義や研究デザインを説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	母子および家族、思春期・青年期の健康課題の検討 (渡邊典子)					母子および家族、思春期、青年期、健康課題	予習:母子看護における問題を整理しておく。		4
2回	文献クリティークの方法(クリティークの意義と目的)					文献クリティーク	予習:提示した文献を読み、課題の整理をしていくこと。		4
3回	文献クリティークの方法(クリティークのポイント)					文献クリティーク	予習:提示した文献を読み、課題の整理をしていくこと。		4
4回	主要なテーマに関連した質的文献レビュー					文献レビュー	予習:主要なテーマに関連する文献を整理をしていくこと。		4
5回	主要なテーマに関連した量的文献レビュー					文献レビュー	予習:主要なテーマに関連する文献を整理をしていくこと。		4
6回	質的文献クリティーク(タイトル、序論、方法、倫理的配慮) (桐原更織)					文献クリティーク	予習:文献を選び出し、課題の整理をしていくこと。		4
7回	質的文献クリティーク(結果、考察、結論)					文献クリティーク	予習:文献を選び出し、課題の整理をしていくこと。		4
8回	質的文献クリティーク①					文献クリティーク(プレゼンテーション)	予習:文献を選び出し、課題の整理をし、プレゼンテーション・意見交換の準備をしていくこと。		4
9回	質的文献クリティーク②					文献クリティーク(プレゼンテーション)	予習:文献を選び出し、課題の整理をし、プレゼンテーション・意見交換の準備をしていくこと。		4
10回	質的文献クリティークまとめ					文献クリティーク(プレゼンテーション)	予習:文献を選び出し、課題の整理をし、プレゼンテーション・意見交換の準備をしていくこと。		4
11回	量的文献クリティーク(タイトル、序論、方法、倫理的配慮) (小島さやか)					文献クリティーク	予習:文献を選び出し、課題の整理をしていくこと。		4
12回	量的文献クリティーク(結果)					文献クリティーク	予習:今までの文献クリティークを通し、課題の整理をし討論の準備をしていくこと。		4
13回	量的文献クリティーク(考察)					プレゼンテーション 自己の研究課題	予習:今までの文献クリティークから課題の整理をし、発表・討論の準備をしていくこと。		4
14回	量的文献クリティーク(結論)					プレゼンテーション 自己の研究課題	予習:今までの文献クリティークから課題の整理をし、発表・討論の準備をしていくこと。		4
15回	量的文献クリティークまとめ					研究課題、デザインの明確化	復習:自己の課題を整理しておく		4
計									60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		課題に対しコメントを行い、意見交換の中で学びを深める			
		試験	0%						
		レポート	50%						
		学習態度	20%	備考		・適宜授業時に示す課題レポート50% ・学習態度は準備と授業の参加状況20% ・その他はプレゼンテーション30%			
		その他	30%						
		計	100%						
テキスト		課題に沿った文献紹介							
テキスト以外の参考書		上記に同じ							
履修上の注意事項や学習上の助言など		主体的に文献検討し課題に沿って資料の準備、およびディスカッションを進める							

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	205	教科名	母子看護学演習Ⅱ				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	塚原 加寿子、小林 正子、桐原 更織
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	母子看護学に関わる専門領域における研究的疑問や問題の所在を踏まえて文献学的検討を行い、自己の研究課題を明確化する。さらに、自己の探求したい研究課題や関連する課題に適したフィールドワークの意義とあり方について検討する。						
学生の学習 (行動)目標	1. 自己の研究課題に即したフィールドワークの選定とその進め方について理解し、研究デザインと関連づけて説明することができる。 2. 研究課題に関連するフィールドワークに参加し、研究手法に必要な知見をまとめて報告することができる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション				母子の研究課題 フィールドワーク 研究手法	予習:母子看護上の研究的疑問や問題意識を整理しておく。	4
2回	質的研究の文献レビュー				研究課題に応じた質的文献レビュー	復習:課題に応じた質的研究の文献レビューを行う	4
3回	量的研究の文献レビュー				研究課題に応じた量的文献レビュー	復習:課題に応じた料的研究の文献レビューを行う	4
4回	質的研究の文献レビューについて(発表)				研究課題に応じた文献レビュー	予習:文献レビューに基づきプレゼンテーションを作成する	4
5回	量的研究の文献レビューについて(発表)				研究課題に応じた文献レビュー	予習:文献レビューに基づきプレゼンテーションを作成する	4
6回	研究課題の概要1(研究の背景)について				研究背景	復習:文献レビューに基づき研究の背景についてまとめる	4
7回	研究の背景について(発表)①				研究計画書	予習:研究計画書について整理しておく	4
8回	研究の背景について(発表)②				研究計画書	予習:研究計画書について整理しておく	4
9回	研究課題の概要2(研究目的と研究デザイン)について				研究目的と研究デザイン	予習:研究目的と研究デザインを整理する	4
10回	研究目的と研究デザインについて(発表)				研究目的と研究デザイン	復習:授業をもとに研究目的と研究デザインを修正する	4
11回	研究倫理について				研究倫理	予習:研究倫理についてまとめておく	4
12回	研究課題に即した研究計画(案)の発表①				研究計画	予習:研究課題に則した研究計画を作成する	4
13回	研究課題に即した研究計画(案)の発表②				研究計画	予習:研究課題に則した研究計画を作成する	4
14回	フィールドワーク(学会、研修会、海外研修への参加) 2				フィールドワーク	復習:フィールドワークで得た学びをまとめる。	4
15回	フィールドワークのまとめとプレゼンテーション				プレゼンテーション	予習:フィールドワークで得た学びをまとめる。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	毎回、ディスカッションを通してコメントする。		
		試験	0%				
		レポート	50%				
		学習態度	30%	備考	レポート:フィールドワーク及び課題のまとめ 50% 学習態度:フィールドワークに向けた準備と参加状況 30% その他:プレゼンテーションする力と質疑応答への対応を合わせて20%とする。		
		その他	20%				
		計	100%				
テキスト		特に、指定しない					
テキスト以外の参考書		必要時文献・資料を紹介する。					
履修上の注意事項や 学習上の助言など		自己の探求したい研究課題や関連する課題に即した研究フィールドについての自分の考えを整理して参加する。フィールドワークの参加は、関係施設や関係者との調整により、祭日や長期休暇中に行なう場合がある。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年						
講義番号	206	教科名	母子看護学実習					
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	渡邊 典子、塚原 加寿子、小林 正子、桐原 更織、久保田 美雪、小島 さやか	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		講義・演習などで学んだ母子看護学に関する理論・知識・技術を統合し、実習する。そのことで、より質の高い母子看護関連領域のサービスを提供できる看護実践、スタッフや他職種への教育・相談、連携と調整、倫理的課題解決、研究の基盤となる能力を修得する。						
学生の学習 (行動)目標		1. 多様な健康課題をもつ母子および家族に対して高度な知識・技術に基づいて科学的な看護判断し、最適な看護実践ができる。 2. 母子および家族の権利を擁護し、倫理的感性を高め、適切な態度で対処することができる。 3. 母子保健医療福祉に携わる人々と連携・協働を図って、高度な看護専門職者としての役割を果たすことができる。 4. 母子看護の質的向上に貢献できる研究の方向性を説明できる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	1. 実習方法							
2回	・オリエンテーション							
3回	・実習計画の立案							
4回	・計画に基づいて実習を展開する							
5回	・実習レポート作成し、プレゼンテーションする							
6回	・文献検討の時間を週2回(2日)設ける。＊半日を4回でも可。							
7回	2. 実習期間							
8回	・1年次の後期に1週間、又は分割して1週間に相当する期間							
9回	3. 実習施設							
10回	・自己の深めたいテーマに関連した保健医療サービスを提供している1施設を選ぶ							
11回	4. 臨地実習指導者							
12回	・大学院修士課程修了者と同等の能力を有する人							
13回								
14回								
15回								
計								0
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	実習日ごとに整理した内容にコメントする。 実習レポートはプレゼンテーション時のディスカッションを通じて出された意見を整理してまとめる。			
		試験	0%					
		レポート	40%					
		学習態度	0%	備 考	レポート:実習レポート30% プレゼンテーション 10% その他:実習計画10% 看護実践力50%			
		その他	60%					
		計	100%					
テキスト		特になし						
テキスト以外の参考書		必要時文献・資料を紹介する						
履修上の注意事項や 学習上の助言など		自己の課題に合わせて実習計画を立てるため、課題意識を明確にして臨む。 対象者の権利擁護について、責務を果たすことが必須条件である。						

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	207	教科名	学校保健学特論				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	塚原 加寿子、○花澤 佳代
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		学校保健に係る現状と課題や学校保健の中核的役割を果たす養護教諭の職務について分析し、今後の対策を検討する過程で問題解決能力と研究的視点を養う。					
学生の学習 (行動)目標		1 学校保健における現状と課題を分析できる 2 養護教諭に必要な資質能力について考察できる 3 スクールソーシャルワークの視点から、子どもの心身の健康問題と環境を分析できる					
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に 要する時間
1回	近年の学校保健の動向				学校保健 養護教諭 新学習指導要領	復習 学習指導要領のポイントをまとめる	4
2回	学校保健の現状				子ども 健康課題	復習 学校保健の範疇についてまとめる	4
3回	学校保健の課題分析				学校保健の課題 自校の課題	予習 自校の健康課題について調べる	4
4回	児童生徒の健康問題の変遷				学校保健統計	予習 s40、s60、H10、H20、H29の学校保健統計を読んでおく	4
5回	児童生徒の健康問題の課題分析				健康問題 背景	予習 自校の子どもの健康問題について調べる	4
6回	スクールソーシャルワークの視点理解				スクールソーシャルワーク 教育と福祉 の違い	復習 スクールソーシャルワークの視点を整理する	4
7回	スクールソーシャルワーカーの現状と課題				スクールソーシャルワーカー 学校との 協同	復習 ソーシャルワークの現状と課題を整理する	4
8回	児童生徒の置かれている環境の理解(家族の状況と課題)				福祉的視点からの家族理解	復習 スクールソーシャルワーカーについて整理する	4
9回	児童生徒の置かれている環境の理解(地域の状況と課題)				福祉的視点からの地域理解	復習 家族問題の教育と福祉の捉え方について整理する	4
10回	教育と福祉の協同(事例から専門職理解と役割の整理)				専門職理解 現状の課題	復習 地域の教育と福祉の捉え方について整理する	4
11回	養護教諭の専門性の検討				養護教諭 専門性	予習 養護教諭の専門性が発揮されたと思う事例を調べておく	4
12回	養護教諭に関わる近年の施策				答申 施策 行政	予習 指定された答申を読んでおく	4
13回	養護教諭に必要な資質能力の抽出				資質 能力	予習 指定された資料を読んでおく	4
14回	養護教諭のキャリアと能力				キャリア 生き方	予習 指定された資料を読み、自分のキャリアプランを立ててみ る	4
15回	発表・講評、まとめ					予習 1-14回目の資料をまとめておく	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	提出された課題について、コメントをする。		
		試験	0%				
		レポート	30%				
		学習態度	70%	備考	学習態度は、授業毎の課題の取り組み状況から総合的に判断する。 レポートは14回目の授業の際に内容と提出方法を指示する。		
		その他	0%				
		計	100%				
テキスト		その都度資料を配布する					
テキスト以外の参考書		「養護教諭の資質能力の向上」平川俊功 学事出版 2016年 「養護教諭が担う『教育』とは何か」藤田和也 農文協 2008年					
履修上の注意事項や 学習上の助言など							

研究科・学 年		看護学研究科		1年				
講義番号	208	教科名	学校保健学実践演習					
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	塚原 加寿子、●堀田 雄大、☆中村 恵子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		養護教諭の職務について、学校保健の立場から課題意識を持って分析し、保健管理、保健教育、ヘルスプロモーションなどについて課題を設定し改善策を検討する。						
学生の学習 (行動)目標		1 養護実践の課題を抽出し、養護教諭の行う保健管理活動の改善策を述べることができる。 2 ヘルスプロモーションの視点から養護教諭の行う諸活動を説明できる。 3 保健指導や保健学習の授業検討を通して、保健教育の課題と改善策を述べることができる。						
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	養護実践の課題の抽出					養護実践 養護	復習 学んだことをもとに自分の養護実践を振り返りまとめる	2
2回	養護教諭の職務の考察					保健管理 保健教育 組織活動	復習 学んだことをもとに養護教諭の職務についてまとめる	2
3回	養護診断の過程					養護診断 プロセス	復習 養護診断のプロセスレコードを作成する	2
4回	救急処置活動の考察					救急処置 除外診断	復習 救急処置の実践について記録を作成し考察する	2
5回	健康相談活動の考察					健康相談活動 健康相談	予習 指示された形式で健康相談活動の記録をとっておく	2
6回	保健室の機能について考察					保健室 機能	予習 勤務校の保健室の見取り図を書いておく	2
7回	ヘルスプロモーション活動について考察					ヘルスプロモーション 理念	復習 自校のヘルスプロモーション活動についてまとめる	2
8回	養護教諭の行うコーディネートについて考察					コーディネート 関係機関 校内連携	予習 今まで行ったコーディネートについてまとめておく	2
9回	養護実践の課題解決の方策の検討					保健教育 研究課程	復習 学んだことをもとに自己の養護実践の課題をまとめる	5
10回	養護実践の課題解決過程					保健教育 教材	復習 自己の養護実践の課題解決の過程を整理する	5
11回	養護実践の発表①					保健教育 教材研究	復習 発表をもとに学習内容をまとめる	6
12回	養護実践の発表②					保健学習 保健指導	復習 発表をもとに学習内容をまとめる	8
13回	保健教育⑤ 指導案の作成・検討					指導案	予習 指導案を作成しておく	8
14回	授業検討					授業研究	予習 自分が行った授業を記録しておく	8
15回	まとめ					養護実践	予習 1-14回目の資料をまとめておく	4
計								60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	グループワークおよびディスカッションを通してコメントする。 提出された課題については次回の授業でコメントする。			
		試験	0%					
		レポート	50%					
		学習態度	50%	備考	学習態度は、授業毎の課題の取り組み状況から総合的に判断する。 レポートは14回目に指示する。			
		その他	0%					
		計	100%					
テキスト		資料をその都度配布する						
テキスト以外の参考書		「健康教育への招待」高橋浩之 大修館書店 2011年 「学校保健学への構図」数見隆生 大修館書店 1998年						
履修上の注意事項や 学習上の助言など								

研究科・学 年		看護学研究科 1年							
講義番号		301		教科名	ヒューマンケア看護学特論Ⅰ				
単位数		2		必・選	選択	開講時期	前期	担当者	坪川 トモ子、中平 浩人、上原 喜美子、佐々木 祐子、田中 瞳
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		人々の健康課題と人々を取り巻く環境に焦点を当て、地域に暮らす多様な健康レベルにある人々とその家族、及びコミュニティに関する理念や諸理論を学修し、対象の健康課題に応じた看護実践への活用を探究する。 ケアの対象である人間の尊厳とケア行動について、ライフサイクルを意識しながら、看護の分野を越えて丁寧に解説する。							
学生の学習 (行動)目標		1. 看護の視点から、ケアの対象である人間の尊厳とケアについて説明できる。 2. 人々の健康課題と人々を取り巻く環境の視点からケアを説明できる。 3. 看護におけるヒューマンケアリングのあり方について説明できる。 4. その人なりの健康生活を維持するために必要なセルフマネジメントについて説明できる。 5. 人々の健康に影響する要因とアプローチについて説明できる。 6. 看護実践における欲求や動機づけの意義について説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	ガイダンス 講義概要、到達目標 (坪川)				ヒューマンケア 看護学		＜予習＞ヒューマンケアについて、知り得る情報をまとめる。		4
2回	ヒューマンケア看護学の概念と社会情勢 (坪川)				ヒューマンケア、健康、尊厳、自分らしさ、施策、歴史、現状と課題		＜予習＞事前に提示した資料を読み、看護における課題をまとめる。		4
3回	ヒューマンケア看護学に関する理論～二大死因のEtiology(中平)				慢性疾患と寿命、悪性新生物、血管の老化、高齢者の生活習慣病		＜予習＞日本人の二大死因について調べる。		4
4回	ヒューマンケア看護学に関する理論～二大死因のmedical administration(中平)				医療提供体制、公的医療制度、国民医療費、医療費適正化		＜予習＞我が国の医療費の実態を調べる。		4
5回	ヒューマンケア看護学に関する理論～二大死因のprevention(中平)				がん検診(Screening)、健診から健康管理へ、人生100年時代		＜予習＞がん検診の問題点について考える。		4
6回	ヒューマンケア看護学に関する理論～老いの理解(田中)				心身の変化、生涯発達、レジリエンス		＜予習＞関連文献などを読み、まとめる。		4
7回	ヒューマンケア看護学に関する理論～高齢者の健康 (田中)				サクセスフル・エイジング、自立		＜予習＞関連文献などを読み、まとめる。		4
8回	ヒューマンケア看護学に関する理論～高齢者の動機付け(田中)				高齢者のニーズ、生活習慣		＜予習＞関連文献などを読み、まとめる。		4
9回	ヒューマンケア看護学に関する理論～人生の最終段階と意思決定支援 (佐々木)				ヒューマンケアリング、ACP、文化看護、高齢者ケア		＜予習＞授業内容に関するこれまでの取り組みをまとめる。		4
10回	ヒューマンケア看護学に関する理論～援助者のメンタルヘルス (佐々木)				バーンアウト、ハラスメント、ワークマネジメント、文化		＜予習＞事前に配布した資料を読み、論点をまとめる。		4
11回	ヒューマンケア看護学に関する理論～看護とAI活用 (特別講師)				医療AI、ベネフィットとリスク、倫理、社会実装		＜予習＞学習内容に関わる看護における課題をまとめる。		4
12回	ヒューマンケア看護学に関する理論～セルフケア (上原)				セルフケア		＜予習＞学習内容に関わる看護における課題をまとめる。		4
13回	ヒューマンケア看護学に関する理論～セルフマネジメント(上原)				セルフマネジメント、エンパワメント、自己効力感、協働的パートナーシップ		＜予習＞学習内容に関わる看護における課題をまとめる。		4
14回	ヒューマンケア看護学に関する理論～カウンセリングマインド(上原)				傾聴、自己一致、共感的理解		＜予習＞学習内容に関わる看護における課題をまとめる。		4
15回	ヒューマンケア看護学に関する理論～ヘルスプロモーション (坪川)				プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ポジティブhealth		＜予習＞事前に提示した課題をプレゼンできるようにまとめる。		4
計									60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポートの課題は授業で提示する。 レポートに対する評価はその視点を明示し、それに基づきコメントしフィードバックする。				
		試験	0%						
		レポート	40%						
		学習態度	30%	備考	学習態度はディスカッションへの参加態度である。 その他はプレゼンテーションである。				
		その他	30%						
		計	100%						
テキスト		不要							
テキスト以外の参考書		・ヒューマンと看護学、清水裕子編、ナカニシヤ出版、2013. 2,800円＋税 ・厚生指標[増刊] 国民衛生の動向2024/2025、厚生統計会 厚生統計会、2024.8月、定価 2,970円(税込) ・はじめて学ぶやさしい疫学(改訂第3版) 監修：日本疫学会 南江堂、2018年9月、定価2,200円(本体2,000円 ＋ 税) ・看護実践に活かす中範囲理論、野川道子編著、メヂカルフレンド社、2016. 4,620円 ・レイニンガー看護論、マデリン M. レイニンガー著、医学書院、2016. 5,390円 ・ビエール ウグ編、黒江ゆり子、市橋恵子、寶田穂詠、慢性疾患の病みの軌跡、医学書院、2005. 2,970円 ・激動社会の中の自己効力感、アルバート・バンデューラ編、本明寛、野口京子監訳、金子書房、2006. 6,600円 ・協働的パートナーシップによるケア、ローリィ・N・ゴットリーブ、ナンシー・フィーラー、シンディー・ダルソン著、吉本照子監修・訳、エルゼビアジャパン、2007. 3,740円 ・ソーシャル・キャピタルと健康、イチロー・カワチ他著、藤澤由和他監訳、日本評論社、2008. 4,700円＋税							
履修上の注意事項や 学習上の助言など		1. 主体的に参加してください。 2. 準備学習したことは、プレゼンテーションできるように討議ポイントを明確にしてまとめてきてください。							

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	302	教科名	ヒューマンケア看護学特論Ⅱ（慢性看護学）				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	上原 喜美子、佐々木 祐子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	「別途N-COMPASS上に示されている「DPとカリキュラムとの対照表」を参照のこと。						
講義の概要 (教育目標を含む)	慢性病をもつ人とその家族の特徴を多側面に理解するために、諸理論を学修する。また、患者自身が自己管理することにより、病と共に生き、個々の慢性病患者が望む健康生活を維持するための方略と家族への支援を探索する。						
学生の学習 (行動)目標	1. 慢性病をもつ人と、その家族がかかえる問題を理解し看護ケアの方略を述べることができる。 2. 慢性病に関連する生活習慣病の実践例と理論を結び付けて理解し、看護の役割を説明できる。 3. 慢性病をもちながら、その人なりの健康生活を維持するために必要な、アドボカシー、自己決定支援の重要性を説明することができる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	成人が慢性疾患をもつという体験(上原 喜美子)				成人、クロニクウィルネス	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第1章を読んで論点をまとめる。	4
2回	慢性病看護学領域に関する理論学習1(上原喜美子・佐々木 祐子)				病いと疾患、病いの意味	<予習>「病いの語り 慢性の病をめぐる臨床人類学」1章の論点をまとめる。	4
3回	慢性病看護学領域に関する理論学習2(上原喜美子・佐々木 祐子)				生きる事の痛み 医学モデルと病者の説明モデル	<予習>「病いの語り 慢性の病をめぐる臨床人類学」4章、7章の論点をまとめる。	4
4回	慢性病看護学領域に関する理論学習3(上原 喜美子)				スティグマ	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第3章を読んで論点をまとめる。	4
5回	慢性病看護学領域に関する理論学習4(上原 喜美子)				不確かさ	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第12章を読んでまとめる。	4
6回	慢性病看護学領域に関する理論学習5(上原 喜美子)				「不確かさ」を抱く患者への支援	<予習>「不確かさ」/関連文献を探す	4
7回	慢性病看護学領域に関する理論学習6(上原 喜美子)				「待つ」ということ	<予習>「『待つ』ということ」を読んでおく。	4
8回	慢性病看護学領域に関する理論学習7(上原 喜美子)				自己効力感、コンコーダンス	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第6章、第8章を読んで論点をまとめる。	4
9回	慢性疾患をもつ成人の家族がもつ問題とその解決策1(上原 喜美子)				チェンジエージェント	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第13章、第14章を読んで論点をまとめる。	4
10回	慢性疾患をもつ成人の家族がもつ問題とその解決策2(上原 喜美子)				アドボカシー 倫理的課題	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第15章、第17章を読んで論点をまとめる。	4
11回	慢性疾患をもつ成人への援助技術の探求(佐々木 祐子)				症状マネジメント、統合療法	<予習>事前に提示した資料を読み、論点をまとめる。	4
12回	慢性疾患をもつ成人と家族に適用される医療・福祉制度と体制の探求(上原喜美子)				ヘルスプロモーション、慢性病政策	<予習>「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」第20章、第21章を読んで論点をまとめる。	4
13回	慢性疾患をもつ成人と家族の質の高い生活への方策の探求1(上原喜美子)				生活習慣病予防における支援技術	<予習>グループでディスカッションする文献を読む。	4
14回	慢性疾患をもつ成人と家族の質の高い生活への方策の探求2(上原喜美子)				慢性疾患の急性増悪における支援技術	<予習>グループでディスカッションする文献を読む。	4
15回	まとめ(上原 喜美子、佐々木 祐子)				クロニクウィルネス	<予習>プレゼンテーションする資料を準備する。	4
計							60
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポートの課題は授業で提示する。レポートに対する評価はその視点を明示し、それに基づいてコメントしフィードバックする。			
	試験	0%					
	レポート	40%					
	学習態度	30%	備考	レポートの課題は第2回授業で提示する。 学習態度は準備(予習・課題への取り組み結果の提出)と参加状況(ディスカッションの内容および問いかけに対するリアクション)を含む。 その他はプレゼンテーションである。			
	その他	30%					
	計	100%					
テキスト	Ilene Morof Lubkin, Pamala D. Larsen(編著)黒江ゆり子監訳:「クロニクウィルネス—人と病いの新たななかかわり」[Chronic Illness :Impact And Interventions]、医学書院2007/7,480円						
テキスト以外の参考書	1.ピエール・ウグ編 黒江ゆり子ほか訳:「慢性疾患の病みの軌跡」医学書院 1995/2,700円 2.アーサー・クライマン著 江口重幸ほか訳:「病いの語り」誠信書房1996/4,200円 3.アンセルム・ストラウス著 南裕子監訳:「慢性疾患を生きた人とオリティの接点」医学書院1997/3,600円 4.野川道子編著:「看護実践に活かす中範囲理論」メヂカルフレンド社2014/3,700円 5.ケイト・ローリッグ他著/近藤房江訳:「病気とともに生きる 慢性疾患のセルフマネジメント」日本看護協会出版会2008/3,600円 6.鷺田清一著:「『待つ』ということ」角川学芸出版2006/1,540円 7.Ann B. Hamric, Chaelene M. Hanson, Mary Fran Tracy, Eileen T. O'Grady著:「高度実践看護アプローチ」へるす出版2017/10,780円 8.井部俊子、大生定義監修:「専門看護師の思考と実践」医学書院2015/3,850円 9.井部俊子、村上靖彦編集:「現象学でよくと専門看護師のコンピテンシー」医学書院2019/3,850円						
履修上の注意事項や学習上の助言など	1. 授業に主体的に参加するために必要な準備をしてください。 2. 関連文献のクリティク・ディスカッションをとおして看護を探索します。						

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	303	教科名	ヒューマンケア看護学特論Ⅲ（エンド・オブ・ライフ・ケア）				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	佐々木 祐子、上原 喜美子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 （教育目標を含む）		わが国の保健医療の動向をふまえ、エンド・オブ・ライフ・ケアにおける対象者を理解し、多職種チームアプローチを基にしたさまざまな時期に必要な援助技術を学際的に学習する。また、研究動向や諸理論の知識を深め、ケアリングを基盤としたエンド・オブ・ライフ・ケアの実践能力の向上に向けた課題を探究する。					
学生の学習 （行動）目標		1. エンド・オブ・ライフ・ケアの基本となる概念や諸理論について説明できる。 2. エンド・オブ・ライフ・ケアにある対象者を理解して、さまざまな時期に必要な援助技術を説明できる。 3. わが国のエンド・オブ・ライフ・ケアにおける課題の解決に向けた方略を説明できる。					
授業計画（シラバス）							
回	内 容				キーワード	準備学習（予習・復習）の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	本邦におけるエンド・オブ・ライフ・ケアの展望(佐々木祐子)				エンド・オブ・ライフ・ケア、ガイドライン、死生学、意思決定支援	＜予習＞これまでの看護実践を振り返り、終末期医療の課題をまとめる。	4
2回	慢性病看護学領域に関する理論学習1(上原喜美子・佐々木 祐子)				病いと疾患、病いの意味	＜予習＞「病いの語り 慢性の病をめぐる臨床人類学」1章の論点をまとめる。	4
3回	慢性病看護学領域に関する理論学習2(上原喜美子・佐々木 祐子)				生きる事の痛み 医学モデルと病者の説明モデル	＜予習＞「病いの語り 慢性の病をめぐる臨床人類学」4章、7章の論点をまとめる。	4
4回	緩和ケア領域での評価指標の活用(佐々木祐子)				QOL、痛み、医療者の態度	＜予習＞「緩和ケア・がん看護 臨床評価ツール」の中で、気になった1つの指標について読んでくること。	4
5回	認知症の緩和ケア(佐々木祐子)				認知症、緩和ケア、家族ケア、アセスメントツール、IT活用	＜予習＞事前に配布した資料を読み、論点をまとめる。	4
6回	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける援助的コミュニケーション(佐々木祐子)				対人援助、援助的コミュニケーション、実存的苦痛、苦しみの構造	＜予習＞事前に配布した資料を読み、論点をまとめる。	4
7回	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看取り(佐々木祐子)				看取り、家族ケア、レジリエンス、バーンアウト	＜予習＞事前に配布した資料を読み、論点をまとめる。	4
8回	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける意思決定支援(佐々木祐子)				ACP(人生会議)、臨床倫理、意思決定、ケアリング	＜予習＞事前に配布した資料を読み、論点をまとめる。	4
9回	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける喪失と悲嘆(佐々木祐子)				喪失、グリーフ、遺族支援、死生観、共感疲労	＜予習＞事前に配布した資料を読み、論点をまとめる。	4
10回	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア(外部講師)				高齢者、尊厳、倫理的課題、エンド・オブ・ライフ・ケア	＜復習＞講義の内容をふまえ、高齢者のケアについてまとめておく。	4
11回	がん患者へのcomfort援助技術の探求(佐々木 祐子)				症状マネジメント、快適さ、統合療法、エビデンス	＜予習＞統合療法に関してこれまでの実践と事前に提示した資料を読み、論点をまとめる。	4
12回	非がん患者のエンド・オブ・ライフ・ケア(上原喜美子)				慢性疾患の増悪、重症化、倫理的意決定	＜予習＞事前に提示した資料を読み、論点をまとめる。	4
13回	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける多職種連携(上原喜美子)				尊厳死、リビング・ウィル	＜予習＞事前に提示した資料を読み、論点をまとめる。	4
14回	人生の最終段階にある人と家族への質の高い生活への方策の探求と研究課題の明確化(佐々木祐子)				QOL、研究課題	＜予習＞研究課題を明確化するための資料を準備する。	4
15回	1回から14回の内容のまとめ：研究課題のプレゼンテーション(佐々木祐子・上原喜美子)				エンド・オブ・ライフ・ケア、研究課題	＜予習＞プレゼンテーション資料を準備する。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポートに対する評価はその視点を明示し、それに基づいてコメントしフィードバックする。		
		試験	0%				
		レポート	40%				
		学習態度	30%	備考	レポートの課題は第2回授業で提示する。 学習態度30%は準備と参加状況を含む。 その他30%はプレゼンテーションである。		
		その他	30%				
		計	100%				
テキスト		不要					
テキスト以外の参考書		1. 看護実践に活かす中範囲理論第3版、野川道子編著、メヂカルフレンド社、2023、4,620円 2. 看護実践に活かすエンド・オブ・ライフケア第2版、長江弘子編著、日本看護協会出版会、2018、2,750円 3. 苦しみと緩和の臨床人間学、佐藤泰子、晃洋書房、2016、2,970円 4. ケア従事者のための死生学、清水哲郎編著、ヌーヴェルヒロカワ、2017、3,300円 5. ケアのなかの癒し第7版、尾崎フサ子監訳、看護の科学社、2016、5,600円 6. 緩和ケア・がん看護 臨床評価ツール大全、宮下光令編集、青海社、2020、6,820円 7. ACP入門 人生会議の始め方ガイド、西川満則、日経メディカル、2020、2,970円 8. 現代日本の「看取り文化」を構想する、浮ヶ谷幸代編著、東京大学出版会、2023、6,160円					
履修上の注意事項や学習上の助言など		1. 授業に主体的に参加するために必要な準備をしてきてください。 2. 関連文献のクリティーク・ディスカッションをとおして看護を探究します。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	304	教科名	ヒューマンケア看護学特論Ⅳ(生涯保健看護学)				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	坪川 トモ子、中平 浩人、田中 瞳
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	人々とその家族およびコミュニティの健康課題、および特に働く世代の人々を取り巻く保健医療福祉施策などの社会環境に係る課題を探究する。また、それらの課題に対応するための看護実践の基本的理念と方法を探究する。						
学生の学習 (行動)目標	1. ヒューマンライフに関する自己の価値観や見方を説明できる。 2. 看護の対象を理解することとその対応に関する主な理論を説明できる。 3. 働く世代の健康管理に関する諸課題と将来展望を考え、説明できる。 4. 高齢者の健康、生きがい、性に関する諸理論や最近の研究から、自らの考えを説明できる。 5. つながり・関係性を尊重する看護実践のあり方を考え、説明できる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション(坪川)				ヒューマンライフ、ケアの質	<予習>自身の研究課題設定の背景を整理しておく。	4
2回	働く世代と健康に関する諸理論① 総論 産業保健とは(中平)				産業保健の理念・制度 5管理、地域・職域連携	<予習>キーワードを調べてくる。	4
3回	働く世代と健康に関する諸理論② 各論(1) 産業保健の現状・課題(中平)				労働災害、業務上疾病 過重労働	<予習>キーワードを調べてくる。	4
4回	働く世代と健康に関する諸理論③ 各論(2) 中小規模事業場の産業保健(中平)				産業保健総合支援センター、地域産業 保健センター、多職種連携、地域・職域 連携	<予習>キーワードを調べてくる。	4
5回	働く世代と健康に関する諸理論④ 各論(3)人生100年時代の産業保健(中平)				健康経営、プレゼンティーズム、職場 環境改善	<予習>学習内容に関わる看護における課題をまとめておく。	4
6回	高齢者の健康と生活(田中)				高齢者の特徴、高齢者を取り巻く環境	<予習>関連文献などを読み、まとめてくる。	4
7回	高齢者の生きがい(田中)				社会参加、社会的孤立、尊厳	<予習>関連文献などを読み、まとめてくる。	4
8回	高齢者の人権(田中)				虐待、ネグレクト、権利擁護	<予習>関連文献などを読み、まとめてくる。	4
9回	高齢者の性(田中)				セクシュアリティ、セックス	<予習>関連文献などを読み、まとめてくる。	4
10回	超高齢社会における課題(田中)				人生100年時代、高齢者を支える仕組 みと問題	<予習>関連文献などを読み、まとめてくる。	4
11回	看護とヒューマンケア(坪川)				看護 ヒューマンケア	<予習>提示された文献などを読み、まとめてくる。	4
12回	コミュニティ参加型の活動(坪川)				コミュニティ 参加 連携・協働	<予習>提示された文献などを読み、まとめてくる。	4
13回	コミュニティとのパートナーシップ(坪川)				コミュニティ 連携・協働 パートナ ーシップ	<予習>提示された文献などを読み、まとめてくる。	4
14回	CBPR研究と実際活動(坪川)				Community-Based Participatory Research システム化	<予習>提示された文献などを読み、まとめてくる。	4
15回	振り返り:14回までの諸理論と自己の研究課題との関連(全員)				ヒューマンケア 研究課題	<予習>14回の学びと研究への活用をまとめてくる。	4
計							60
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポートの課題は授業で提示する。レポートに対する評価はその視点を明示し、それに基づいてコメントしフィードバックする。			
	試験	0%					
	レポート	40%					
	学習態度	30%	備考	レポート:5回から15回の各回に調べてくる/まとめてくる資料である。資料などは授業で示す。 学習態度:予習の準備とディスカッション参加状況による。 その他:5回から15回の各回に作成してきたレポートのプレゼンテーションである。			
	その他	30%					
	計	100%					
テキスト	課題に沿った文献を紹介する						
テキスト以外の参考書	上記同様						
履修上の注意事項や 学習上の助言など	1. 科目「ヒューマンケア看護学特論Ⅰ」と併せて履修することを推奨します。 2. 予定している自己の研究課題を説明できるようにして臨んでください。						

研究科・学 年		看護学研究科 1年							
講義番号	305	教科名	ヒューマンケア看護学演習Ⅰ						
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	坪川 トモ子、中平 浩人、上原 喜美子、佐々木 祐子、清水 理恵、田中 瞳		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		ヒューマンケア看護に関する先行研究をクリティークし、自身が取り組むべき研究課題を明確にする。							
学生の学習 (行動)目標		1. ヒューマンケアに関連する基本的概念を説明することができる。 2. 慢性疾患をもちながら生活する人々への看護について説明することができる。 3. ヒューマンケアの今日的課題を明確に説明することができる。 4. ヒューマンケアに係る課題について自身の考えを述べることができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	ヒューマンケア看護学演習の講義概要と到達目標文献レビューと文献クリティークの方法					ヒューマンケア アンドラゴジー	＜予習＞各自の研究テーマに関するKey Wordsを整理し、研究動向を整理する		1
2回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞1文献を持参し、クリティークした結果をプレゼンできるように準備する。		4
3回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
4回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
5回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
6回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
7回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
8回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
9回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
10回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		4
11回	文献クリティーク					文献クリティーク	＜予習＞クリティークする文献を選択し、プレゼンできるようにまとめる		3
12回	プレゼンテーション(自己の研究課題を明確にする)					研究デザイン 研究課題	＜予習＞今までの文献クリティークで学んだことを整理する		4
13回	プレゼンテーション(自己の研究課題を明確にする)					研究デザイン 研究課題	＜予習＞文献クリティークでの学びから自己の研究課題をまとめる		4
14回	プレゼンテーション(自己の研究課題を明確にする)					研究デザイン 研究課題	＜予習＞文献クリティークでの学びから自己の研究課題をまとめる		6
15回	自己の研究課題および研究デザインの明確化＜まとめ＞					自己の研究計画の概要	＜予習＞自己の研究計画の概要を発表する準備をする		6
計									60
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	毎回の文献クリティーク、プレゼンテーションにおいてコメントやアドバイスをする。					
	試験	0%							
	レポート	40%							
	学習態度	30%	備考	・レポートは毎回の予習の成果であり、課題はその都度、前の授業で示す。 ・学習態度はディスカッションの状況、その他はプレゼンテーションである。					
	その他	30%							
	計	100%							
テキスト	不要								
テキスト以外の参考書	研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク、山川みやえ他編、日本看護協会出版会、2014、¥3,024 看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん、大木秀一、医歯薬出版、2013、¥2,806								
履修上の注意事項や 学習上の助言など	主体的に文献検討をし、課題に沿って資料の準備をして授業に臨んでください。 授業はディスカッションしながら進めます。								

研究科・学 年		看護学研究科 1年							
講義番号	306	教科名	ヒューマンケア看護学演習Ⅱ						
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	坪川 トモ子、中平 浩人、上原 喜美子、佐々木 祐子、清水 理恵、田中 瞳		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		ヒューマンケア看護に関わる領域における問題から自身の研究課題を絞り込む。研究課題に関する知見を文献検討、文献クリティーク、フィールドワークから得て、広い視野により自身が探求したい研究課題を探索する。							
学生の学習 (行動)目標		1. 文献検討、文献クリティーク、フィールドワークを通して自己の研究課題を明確に述べることができる。 2. 自己の研究課題に関する国内外の動向にも着目し、研究課題への理解を深め、研究計画の方向性を述べることができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	ガイダンス 研究課題の方向性の決定					ヒューマンケア 研究課題	＜予習＞研究課題に関連する文献を検索する		2
2回	研究課題に関連する文献検討					研究課題 文献検討	＜予習＞研究課題のキーワードをもとに文献を再整理する		4
3回	研究課題に関連する文献検討					研究課題 文献検討	＜予習＞研究課題のキーワードをもとに文献を再整理する		4
4回	文献クリティーク					クリティーク	＜復習＞クリティーク結果を振り返り、研究背景を検討する		4
5回	文献クリティーク					クリティーク	＜復習＞クリティーク結果を振り返り、研究背景を検討する		4
6回	研究課題に関する社会情勢について検討する(外部講師:斎藤忠男)					研究課題	＜予習＞これまでの講義から研究課題を明確化し、必要な文献を検討する		4
7回	文献検討					文献検討	＜復習＞研究の主要テーマとキーワードの関連を検討する		4
8回	文献検討とフィールドワーク計画の明確化					文献検討	＜復習＞研究の主要テーマとキーワードの関連を検討し、フィールドワークの計画を作成する		4
9回	フィールドワーク(学会、研修会等への参加)					フィールドワーク	＜予習＞研究課題・主要テーマ、研究背景を整理する		4
10回	フィールドワーク(学会、研修会等への参加)					フィールドワーク	＜復習＞フィールドワークで得た学びをまとめる		4
11回	フィールドワークのまとめとプレゼンテーション					フィールドワーク 課題整理	＜予習＞プレゼンテーションの準備をする ＜復習＞発展させたい研究課題を整理する		4
12回	研究課題の明確化と研究デザインの検討 -1-					研究課題 研究手法 研究計画	＜予習＞研究課題とフィールドワークの整理 ＜復習＞発展させたい研究課題の明確化		4
13回	研究課題の明確化と研究デザインの検討 -2-					研究課題 研究手法 研究計画	＜予習＞研究課題とフィールドワークの整理 ＜復習＞発展させたい研究課題の明確化		4
14回	研究課題に即した研究計画(案)の作成 -1-					研究課題 研究手法 研究計画	＜予習＞研究方法を整理する		4
15回	研究課題に即した研究計画(案)の作成 -2-					研究課題 研究手法 研究計画	＜復習＞自己の探求したい研究課題と研究計画をまとめる		6
計									60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		毎回、ディスカッションを通してコメントする。			
		試験	0%						
		レポート	40%						
		学習態度	30%	備考		2回、4回、7回、11回、12回、14回はプレゼンテーション用資料を作成して臨む。その課題は授業で示す。 学習態度は準備と参加状況を含む。 評価:「レポート40%」は11回と15回のプレゼン資料をレポートとして評価する。プレゼン方法は前もって示す。 「学習態度30%」は、授業への参加状況、「その他30%」はプレゼンのある授業回以外の予習内容で評価する。			
		その他	30%						
		計	100%						
テキスト		不要							
テキスト以外の参考書		研究課題に即した文献を紹介する。							
履修上の注意事項や学習上の助言など		研究課題に沿った主体的な学習を期待します。							

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	307	教科名	ヒューマンケア看護学実習				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	坪川 トモ子、中平 浩人、上原 喜美子、佐々木 祐子、清水 理恵、田中 瞳
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		ヒューマンケア看護学特論Ⅰ、およびⅡまたはⅢまたはⅣ、ヒューマンケア看護学演習Ⅰ・Ⅱにより修得した理論を基盤に、臨地におけるヒューマンケア看護の実際から学びを統合し、自己の研究課題を探究する。課題に焦点をあて、臨地におけるヒューマンケアに係る看護実践、関係者・機関との連携・協働、倫理的課題への対応、看護人材育成体制など、看護専門職としての能力向上のための方策などを探究する。					
学生の学習 (行動)目標		1. 自己の研究課題に関する臨地における看護の機能・役割を説明できる。 2. 自己の研究課題に焦点をあてて、臨地における看護に関して包括的にアセスメントできる。 3. 臨地での習得したことを踏まえ、自己の研究課題を明確に説明できる。					
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	1. 実習方法						
2回	・オリエンテーション						
3回	・実習計画(実習課題、実習施設、方法等)の立案						
4回	・臨地の実習受入担当者・指導者との打合せ						
5回	・計画に基づいて実習を展開する						
6回	・文献検討の時間を設ける						
7回	・実習レポートを作成し、プレゼンテーションする						
8回	2. 実習期間						
9回	・1年次後期に2週間						
10回	3. 実習施設						
11回	・県内の施設(自施設以外)						
12回	4. 臨地実習指導者						
13回	・大学院修士課程修了者、または同等の能力を有する者						
14回							
15回							
計							0
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック		実習日ごとに整理した内容に、カンファレンス時などにコメントする。 プレゼンテーションでは、学びの達成状況について意見交換し、助言する。 実習レポートは、コメントを返却する。		
	試験	0%					
	レポート	40%					
	学習態度	30%	備考		実習レポートはプレゼンテーション時のディスカッションを通じて出された意見も踏まえてまとめる。 学習態度は、実習期間中のカンファレンス時の発言、臨地の指導者からのコメントなどにより評価する。 その他は、実習成果のプレゼンテーションで評価する。 実習レポートで理解度を評価する。		
	その他	30%					
	計	100%					
テキスト	不要						
テキスト以外の参考書	課題に沿った文献紹介						
履修上の注意事項や 学習上の助言など	実習課題に沿って主体的に学習する						

研究科・学 年		看護学研究科 1年							
講義番号	401	教科名	看護管理学特論Ⅰ						
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	中根 薫、池 睦美、和田 由紀子、○浅田 剛正、☆佐藤 富貴子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		質の高い看護・医療を効果的・効率的に提供するために必要な看護サービスマネジメントの基本となる理論について学修する。また、チーム医療推進のためのリーダーシップのあり方、人的資源管理における活用やキャリア開発プログラム、職場環境改善に関する諸問題を探求し、看護管理上の今後の課題について検討する。							
学生の学習 (行動)目標		1. 看護サービス管理のプロセスと看護の質評価について説明できる。 2. 看護組織の構造と機能、組織文化について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について説明できる。 4. 人的資源管理、キャリア開発プログラムについて説明できる。 5. リーダーシップの理論を用いて、そのあり方を検討し説明できる。 6. 看護職のメンタルヘルとストレスマネジメントについて説明できる。 7. 看護管理上の今後の課題について検討し説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	看護サービスマネジメント論 (佐藤富貴子)					サービスとは何か 経営資源 コンシューマリズム	＜予習＞配布資料を読み、臨床現場の実態と比較してくる。		4
2回	看護サービスマネジメント論					管理プロセス PDCA リスクマネジメント	＜予習＞配布資料を読み、臨床現場の実態と比較してくる。		4
3回	看護サービスの質保証と評価					看護の質評価の視点、アウトカム指標	＜予習＞アウトカムマネジメントについて調べてくる。		4
4回	組織の概念、組織の構造・機能、組織文化					組織構造・機能、組織変革、組織文化	＜予習＞ 所属組織の構造について調べてくる。		4
5回	地域包括ケアシステムにおける看護 (池 睦美)					包括的なケア・サービス 保健・医療・福祉	＜予習＞配布資料を読み、指示された事柄について調べてくる。		4
6回	地域包括ケアシステムにおける看護					人的資源の活用 ケアマネジメント	＜予習＞配布資料を読み、地域包括ケアシステムでの看護の役割について自分の意見をまとめる。		4
7回	人的資源活用論 (中根 薫)					人的資源管理の全体像 人材育成	＜予習＞配布資料を読み、「組織と個人」との関連についてまとめること。		4
8回	専門職業とキャリア開発					専門職、キャリア、キャリア開発	＜予習＞配布資料を読み、臨床現場の実態と比較して自分の考えをまとめる。		4
9回	看護職のキャリア開発プログラム					看護職のキャリア開発、クリニカルリーダー	＜予習＞所属組織のキャリア開発プログラムについて調べてくる。		4
10回	リーダーシップ論					リーダーシップ理論、パワー	＜予習＞配布資料を読み、優れたリーダーについて自分の考えをまとめる。		4
11回	看護職のストレスとストレス反応 (浅田 剛正)					看護職のストレス反応、バーンアウト、コーピング	＜予習＞看護職のストレス因子について、臨床現場の特性から考察しておくこと。		4
12回	ストレスケア(ストレスマネジメント)					対人援助関係、病院システム、守秘義務、職業特性、ワークライフバランス	＜予習＞看護臨床の現場でのストレスマネジメントについて、管理的立場からの留意事項を考察しておくこと。		4
13回	ストレスケア (和田由紀子)					看護職の傷つき バーンアウト	＜予習＞11回12回の講義内容を復習してくる。		4
14回	コミュニケーション論					コーチング、アサーティブ	＜予習＞配布資料を読み、自分のコミュニケーション傾向について考えをまとめる。		4
15回	看護実践における情報管理 (外部講師:池 穂波)					情報リテラシー、情報管理、倫理的課題	＜予習＞配布資料を読み、指示された課題についてまとめる。		4
計									60
成績評価		小テスト	20%	学習成果のフィードバック		小テスト(口頭による確認など)により、理解の確認とそれに合わせコメントしていく。課題レポートはコメントを返却する。			
		試験	0%						
		レポート	60%						
		学習態度	20%	備考		①教員毎に小テスト20%、学習態度として授業への参加度と発言20%とし、5人の評価の平均点 ②課題レポート(授業の中で提示する)60% を教科の評点とする。			
		その他	0%						
		計	100%						
テキスト		なし							
テキスト以外の参考書		1. 井部俊子監修:看護管理学習テキスト第3版第3巻人材管理論 2025年版 日本看護協会出版会 2025. 2. Lance H.K.Secretan(金利光訳、岩國哲人監修):動物たちのビジネス・ゼミナール 徳間書店 1993. 3. Wojner,Anne W. (早野真佐子訳):アウトカム・マネジメント 日本看護協会出版会 2003. 4. Ora Lea Strickland (中岡ひさ子訳):看護アウトカムの測定―患者満足度とケアの質指標 エルゼビア・ジャパン 2006. 5. Avedis Donabedian (東尚弘訳):医療の質の定義と評価方法 健康医療評価研究機構 2010. 6. 吉本武史編:看護現場のストレスケア 医学書院 2007. 7. 井部俊子、中西睦子監修:看護管理学習テキスト第8巻看護管理学研究 日本看護協会出版会 2025. 8. 金井Pak雅子編集:看護管理学習テキスト第5巻 経営資源管理学2025年版 日本看護協会出版会 2025. 9. Edger H. Schein、尾川文一、石川大雅(松本美央、小沼勢矢訳):シャイン博士が語る組織開発と人的資源管理の進め方 プロセス・コンサルテーション技法の用い 方 東京白桃書房神田 2017. その他、必要文献は随時指示する。							
履修上の注意事項や学習上の助言など		これまでの臨床経験を活かし、問題意識をもって参加する。主体的に文献検討し、積極的な発言・質問を期待している。							

研究科・学 年		看護学研究科		1年											
講義番号		402		教科名		看護管理学特論Ⅱ									
単位数		2		必・選		選択		開講時期		後期		担当者		中根 薫、和田 由紀子、☆佐藤 富貴子、☆伊藤 孝憲	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照													
講義の概要 (教育目標を含む)		組織の理念、組織目標を達成するための人材マネジメント、特にワークモチベーションに焦点を当て人的資源管理の戦略的手法について探求する。医療の背景、諸制度について学修し、財務管理、経営分析の方法について基礎的知識を身につける。看護管理者の経営参画の意義について理解を深める。													
学生の学習 (行動)目標		1. 人的資源管理の意義、ワークモチベーションについて説明できる。 2. 医療経営の基本となる医療制度、診療報酬、重症度、医療・看護必要度、財務管理について説明できる。 3. 看護管理者の経営参画の意義について説明できる。													
授業計画(シラバス)															
回	内 容				キーワード				準備学習(予習・復習)の内容と分量				準備学習に要する時間		
1回	ガイダンス (中根 薫)				看護と経営				＜予習＞看護における経営認識について自分の考えを整理しておく。				4		
2回	経営と人的資源管理				人的資源の体系 人材マネジメント				＜予習＞提示した文献を読んでもらうこと。臨床での人事システムがどのようなになっているか整理しておくこと。				4		
3回	人材活用と労務管理				労働法令 労務管理				＜予習＞臨床での労務管理の実態について整理しておくこと。				4		
4回	組織目標と組織運営 (佐藤 富貴子)				目標管理 バランススコアカード				＜予習＞提示した文献を読んでもらうこと。臨床での人事考課がどのようなになっているか整理しておくこと。				4		
5回	ワークモチベーション(1)				モチベーション理論				＜予習＞仕事意欲について自分の考えを整理しておく。				4		
6回	医療政策と病院経営 (伊藤 孝憲)				新たな地域医療構想 2040年に向けたサービス提供体制等のあり方 医療介護のDX				＜予習＞その都度文献(ディスカッションペーパー等)を提示し、コースワークに沿ってまとめる。				4		
7回	医療費、診療報酬				全世代型社会保障構築会議 診療報酬制度				＜予習＞その都度文献(ディスカッションペーパー等)を提示し、コースワークに沿ってまとめる。				4		
8回	財務管理				PL・BS・CF 原価計算 経営指標 経営参画				＜予習＞その都度文献(ディスカッションペーパー等)を提示し、コースワークに沿ってまとめる。				4		
9回	財務諸表の見方、コストと原価管理				戦略的経営 財務会計 管理会計 経営基盤の安定				＜予習＞その都度文献(ディスカッションペーパー等)を提示し、コースワークに沿ってまとめる。				4		
10回	経営分析				予算管理 生産性 KPI ケースメソッド				＜予習＞その都度文献(ディスカッションペーパー等)を提示し、コースワークに沿ってまとめる。				4		
11回	ワークモチベーション(2) (佐藤 富貴子)				組織コミットメント				＜予習＞組織コミットメントについて自分の考えを整理しておく。				4		
12回	ワークモチベーション(3)				職務満足 患者満足				＜予習＞職務満足、患者満足に関する資料を整理しておく。				4		
13回	看護管理者の病院経営参画の意義について事例検討(1) (中根薫・佐藤富貴子・和田由紀子)				経営参加の意義 事例検討				＜予習＞看護部として経営参加事例を紹介・準備する。				4		
14回	看護管理者の病院経営参画の意義について事例検討(2)				経営参加の意義 事例検討				＜予習＞看護部として経営参加事例を紹介・準備する。				4		
15回	看護管理者の病院経営参画の意義についてまとめ(3)				看護管理者 経営参加 意義				＜予習＞病院経営参画の意義と今後の課題についてまとめておく。				4		
計														60	
成績評価		小テスト		0%		学習成果のフィードバック		課題レポートは、コメントを返却する。							
		試験		0%											
		レポート		40%											
		学習態度		30%		備考		課題レポート40%、学習態度として授業への参加状況(発言)30%、その他30%はプレゼンテーションとし、教員毎に100%で評価する。4人の評価の平均により、教科の評点とする。レポートは第1回授業内で、学習のまとめとして課題を提示する。							
		その他		30%											
		計		100%											
テキスト		特に指定なし													
テキスト以外の参考書		1. マネジメント基本と原則、P.F.ドラッカー、上田惇生編訳、ダイヤモンド社、2001。 2. 組織論、桑田耕太郎・田尾雅夫、有斐閣、2010。 3. 組織行動のマネジメント、ステファン・P・ロビンズ、ダイヤモンド社、2009。 4. 組織の経営学、リチャード・L. ダフト、ダイヤモンド社、2002。 5. 経営資源管理論第3版、井部俊子、金井Pak雅子監修、日本看護協会出版会、2025。 6. 看護管理者のための医療経営学第3版、尾形裕也、日本看護協会出版会、2021。 7. 世界一わかりやすい「医療政策」の教科書、津川友介、医学書院、2020。 8. 病院経営財務マネジメント 財務基盤強化のための実践テキスト、井上貴裕、ロジカ書房、2019。													
履修上の注意事項や学習上の助言など		主体的に文献検討し、積極的な発言・質問を期待している。													

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	403	教科名	看護管理学演習 I				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	前期	担当者	池 睦美、中根 薫、和田 由紀子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		看護管理学の基盤となる概念や理論を、臨床で直面する諸問題と関連づけ、その適用について討議する。主要なテーマを取り上げ、文献クリティークを行い、自己の課題を明確にする。					
学生の学習 (行動)目標		1. 看護管理学の基盤となる概念や理論について説明できる。 2. 臨床上の問題解決に向けた理論の適用について説明できる。 3. 自己の課題を明確に述べることができる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	臨床における看護管理上の課題について検討する				看護サービスマネジメント	＜予習＞臨床における看護管理上の課題を整理しておく。	4
2回	文献クリティークの方法				文献クリティークの方法	＜予習＞提示した文献を読み、課題の整理をしておく。	4
3回	主要なテーマを取り上げ、文献レビュー				文献レビュー	＜予習＞主要なテーマについて文献検索を行い、クリティークする文献を決めておく。	4
4回	主要なテーマを取り上げ、文献レビュー				文献レビュー	＜予習＞主要なテーマについて文献検索を行い、クリティークする文献を決めておく。	4
5回	文献クリティーク				文献クリティーク	＜予習＞提示した文献を読み、課題の整理をしておく。	4
6回	文献クリティーク				文献クリティーク	＜予習＞提示した文献を読み、課題の整理をしておく。	4
7回	主要なテーマを取り上げ、文献レビュー				文献レビュー	＜予習＞主要なテーマについて文献検索を行い、クリティークする文献を決めておく。	4
8回	主要なテーマを取り上げ、文献レビュー				文献レビュー	＜予習＞主要なテーマについて文献検索を行い、クリティークする文献を決めておく。	4
9回	文献クリティーク				文献クリティーク	＜予習＞提示した文献を読み、課題の整理をしておく。	4
10回	文献クリティーク				文献クリティーク	＜予習＞提示した文献を読み、臨床の実態と比較し整理しておく。	4
11回	文献クリティーク				文献クリティーク	＜予習＞今までの文献クリティークで学んだことを整理しておく。	4
12回	文献クリティーク				文献クリティーク	＜予習＞今までの文献クリティークで学んだことを整理しておく。	4
13回	プレゼンテーションとまとめ(自己の課題を明確にする)				プレゼンテーション 課題	＜予習＞今までの文献クリティークで学んだことを整理し、発表の準備をしておく。	4
14回	プレゼンテーションとまとめ(自己の課題を明確にする)				プレゼンテーション 課題	＜予習＞今までの文献クリティークで学んだことを整理し、発表の準備をしておく。	4
15回	まとめ				自己の課題	＜復習＞自己の課題を整理しておく。	4
計							60
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	毎回の文献クリティーク、プレゼンテーションにおいてコメント・アドバイスをを行う。		
		試験	0%				
		レポート	40%				
		学習態度	30%	備考	レポート40%は、13、14回目のプレゼンテーション後に提出されるレポートで評価する。 学習態度30%は、予習の準備・参加の状況(発言)で評価する。 その他30%は、プレゼンテーションで評価する。		
		その他	30%				
		計	100%				
テキスト		なし					
テキスト以外の参考書		1. 研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、牧本清子、山川みやえ編著、日本看護協会出版会、2020。 2. 看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん、大木 秀一、医歯薬出版、2013。					
履修上の注意事項や 学習上の助言など		主体的に文献検討し、課題に沿って資料の準備をする。ディスカッションしながら進める。					

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	404	教科名	看護管理学演習Ⅱ				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	和田 由紀子、中根 薫、池 睦美
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	看護管理上の問題から研究課題を絞り込む。研究課題に関する知見を文献検討、文献クリティーク、フィールドワークから得る。また、国内だけでなく海外にも目を向け、幅広い視野の中で自己の課題を探索する。						
学生の学習 (行動)目標	1. 文献検討、文献クリティーク、フィールドワークでの学びを体系的に整理し、発表することができる。 2. 国内外の医療・看護の情報にも着目し、自己の課題について理解を深めることができる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容			キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	ガイダンス 研究課題について方向性を決定する。			看護管理 研究課題	＜予習＞自分の研究課題や関連領域について整理しておく。		2
2回	文献検討			文献検討	＜予習＞研究課題のキーワードをもとに文献を準備する。		2
3回	文献検討			文献検討	＜予習＞研究課題のキーワードをもとに文献を準備する。		4
4回	文献クリティーク			クリティーク(critique)	＜復習＞文献クリティークを振り返り、キーワードの研究背景を検討する。		4
5回	文献クリティーク			クリティーク(critique)	＜復習＞文献クリティークを振り返り、キーワードの研究背景を検討する。		4
6回	研究課題について主要テーマを検討する			看護管理 研究課題	＜予習＞これまでの講義をもとに研究課題を明確化し、必要な看護管理の文献を検索する。		4
7回	文献検討			文献検討	＜復習＞これまでの講義を振り返り、研究の主要テーマとキーワードの関連を検討する。		4
8回	文献検討			文献検討	＜復習＞これまでの講義を振り返り、研究の主要テーマとキーワードの関連を検討する。		4
9回	文献クリティーク			クリティーク(critique)	＜復習＞文献クリティークを振り返り、キーワードの研究背景を検討する。		4
10回	文献クリティーク			クリティーク(critique)	＜復習＞文献クリティークを振り返り、キーワードの研究背景を検討する。		4
11回	フィールドワーク(国内学会)			フィールドワーク fieldwork	＜予習＞この時点での研究課題・主要テーマ、研究背景を整理しておく。		6
12回	フィールドワークのまとめ、文献検討			文献検討	＜予習＞フィールドワークの学びをまとめ、研究の主要テーマとの関連を検討しておく。		4
13回	文献検討			文献検討	＜予習＞研究の主要テーマ・キーワードをもとに文献を準備する。		4
14回	文献クリティーク			クリティーク(critique)	＜復習＞これまでの講義を振り返り、研究課題・主要テーマ、研究背景を整理する。		4
15回	プレゼンテーション(文献検討とフィールドワークをもとに自己の課題を検討する)			看護管理 研究課題	＜予習＞これまでの学びをまとめ、発表資料を作成しておく。		6
計							60
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	文献クリティークおよび12回、15回において、院生・教員間で行う意見交換を通じて随時実施する。			
	試験	0%					
	レポート	40%					
	学習態度	30%	備考	レポート40%は、15回目のプレゼンテーション後に提出する自身の研究課題を検討したレポートで評価する(詳細は初回講義で説明する)。 学習態度30%は、各講義の準備・参加状況で評価する。 その他30%は、15回目のプレゼンテーションや意見交換の内容で評価する。			
	その他	30%					
	計	100%					
テキスト	特に指定しない。						
テキスト以外の参考書	課題に合った文献紹介						
履修上の注意事項や学習上の助言など	研究課題について主体的に文献検討し、積極的に文献クリティークやプレゼンテーションに参加することを期待する。 フィールドワークは、国内の学会のいずれかに参加する。						

研究科・学 年		看護学研究科 1年					
講義番号	405	教科名	看護管理学実習				
単位数	2	必・選	選択	開講時期	後期	担当者	中根 薫、池 睦美、和田 由紀子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		看護管理学特論Ⅰ・Ⅱおよび看護管理学演習Ⅰ・Ⅱで修得した理論を基盤に、臨地における管理の実際から自己の課題を探究する。課題に焦点をあて、臨地での情報収集、また文献検討を行い、課題をより深める。					
学生の学習 (行動)目標		1. 臨地における管理の機能・役割について説明できる。 2. 自己の課題(管理上の問題)に焦点をあてアセスメントできる。 3. 看護管理学に関する自己の課題を明確に説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	1. 実習方法						
2回	・実習施設を選択する(自施設以外)。					課題にあった実習計画を前期8月ごろまでに立案する。	
3回	・自己の課題にあわせ実習計画を立てる。臨地の指導者と打ち合わせする。						
4回	・方法は参加観察法、インタビューなどを用いる。情報整理し分析する。						
5回	・文献検討の時間を設ける						
6回	・レポート作成する。プレゼンテーション。						
7回	2. 実習期間						
8回	・1年次 後期。2週間。						
9回	3. 実習場所						
10回	・県内の施設						
11回	4. 実習指導者						
12回	・認定看護管理者の資格のある看護管理者(それに準ずる者) ・大学院看護管理学分野の教員						
13回	・実習報告書を作成する。看護管理責任者に報告し、評価を受ける。						
14回							
15回							
計							0
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	レポートは、添削の上、コメントをつけて返却する。学習態度は、実習期間中のカンファレンス時の発言や臨地の指導者の助言をもとにフィードバックする。プレゼンテーションでは、学びの達成度について意見交換し、評価を通して助言する。			
	試験	0%					
	レポート	30%					
	学習態度	50%	備考	①課題レポートは30%とし、課題は実習終了時に提示する。 ②学習態度として授業・実習への参加状況50% ③その他20%はプレゼンテーションとし、3人の教員の評価の平均点とする。テーマは実習終了時に提示する。			
	その他	20%					
	計	100%					
テキスト	なし						
テキスト以外の参考書	課題に合った文献を紹介する						
履修上の注意事項や 学習上の助言など	主体的に文献検討し、課題に沿って資料の準備をする。ディスカッションしながら進める。						

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年												
講義番号		501		教科名		看護学特別研究										
単位数		8		必・選		必修		開講時期		通年		担当者		中根 薫		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連				本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照												
講義の概要 (教育目標を含む)				質の高い看護を組織的に提供するために「看護サービスマネジメント」について探求し、成果を論文としてまとめる。特に「個を活かすことにより組織は活性化する」という人的資源管理の考えに基づき、看護職のキャリア開発や人材育成の取り組み、リーダーシップに関する研究指導を行う。												
学生の学習 (行動)目標				1. 臨床における課題を明確にし、研究課題を抽出できる。 2. 研究課題に関する有効な文献検索ができる 3. 研究計画書が作成できる。 ・文献のクリティークを通して、研究目的を設定できる。 ・適切な研究デザインを選択できる。 ・データ収集法・分析方法を計画できる。 ・倫理的配慮を具体的に記述できる。 4. 研究計画に沿って、データ収集・分析ができる。 5. 研究結果を適切に記述できる。 6. 文献を活用し、結果の妥当性、信頼性を検証しながら考察ができる。 7. 論文を作成できる。 8. 効果的なプレゼンテーションができる。												
授業計画(シラバス)																
回	内 容											キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	文献検討による研究テーマ、研究課題の明確化											研究課題		＜予習＞「看護管理学演習Ⅰ」で明確にした自己の課題を検討してくること。「看護研究法」の講義を復習してくること。		20
2回	研究目的・研究デザインの選択											研究デザイン		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくること。研究課題の研究デザインを考えてくこと。		10
3回	研究方法を計画する											研究方法		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくること。研究目的にあった研究方法を考えてくこと。		10
4回	倫理的配慮の検討											研究の倫理的視点		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくること。		10
5回	研究計画書の作成											研究計画書		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくること。研究計画書案を作成してくること。		20
6回	倫理的な申請手続き											研究の倫理的視点		＜予習＞倫理申請書を作成してくること。		20
7回	研究対象者、研究協力施設との調整											研究協力依頼の方法		＜予習＞研究協力依頼の方法と交渉手続きについて考えてくこと。		10
8回	データ収集と整理、データの保管											データ収集の方法 分析方法		＜予習＞収集したデータの整理・保管方法について考えてくこと。		10
9回	データ収集と分析											データ収集の方法 分析方法		＜予習＞「看護研究法」「看護情報統計学」の講義を復習し、分析方法を考えてくこと。		20
10回	データ分析結果											結果の整理 結果の読み方 表作成		＜予習＞「看護研究法」「看護情報統計学」の講義を復習し、結果を整理してくこと。		20
11回	論文構成の検討											論文構成		＜予習＞論文のアウトラインを作成してくこと。		20
12回	論文作成											考察の視点		＜予習＞自己の研究に関連した文献を熟読して考察を考えてくこと。		20
13回	論文推敲											論文の推敲		＜予習＞研究目的と考察の視点が対応しているか検討してくこと。		20
14回	論文提出											作成要項、審査基準		＜予習＞指定された書式にそるえ、期限までに提出すること。		20
15回	発表と評価											口頭試問		＜予習＞発表資料の準備とプレゼンテーションを試行して臨むこと。審査結果を生かし、論文を見直すこと。		10
計															240	
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	研究論文指導のプロセス(文献検討・文献クリティーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)で、主体性や計画性など取組み姿勢をサポートしながら評価によってフィードバックする。											
		試験	0%													
		レポート	60%													
		学習態度	20%	備考	レポート60%は、研究論文の取り組みと達成度で評価する。 学習態度20%は、ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など総合的に評価する。 その他20%は、プレゼンテーションで評価する。 * 学位論文審査を受ける。											
		その他	20%													
		計	100%													
テキスト		指定なし。適宜紹介する。														
テキスト以外の参考書		課題にあった文献を紹介する。														
履修上の注意事項や学習上の助言など		研究科のスケジュールに沿い、主体的に計画的に研究活動を進めていく。														

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年											
講義番号		501		教科名		看護学特別研究									
単位数		8		必・選		必修		開講時期		通年		担当者		渡邊 典子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連				本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照											
講義の概要 (教育目標を含む)				性と生殖に関わるリプロダクティブヘルスの視点から、次世代育成の準備期である思春期保健全般と次世代育成期にある周産期の母子と家族の健康課題と支援、及びその支援の中核を担う助産師の専門性発揮と自立について、出産の歴史・社会的考察をもとに研究指導を行う。											
学生の学習 (行動)目標				1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を明確化し説明できる。 2. 研究課題の解明に適切な研究方法を選択し説明できる。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。 4. 適切な研究方法を用いてデータ収集し、客観的・科学的に分析できる。 5. 研究結果を分かりやすく記述し、客観的・科学的考察を加えて論文を作成できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高め作成できる。 7. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深め説明できる。											
授業計画(シラバス)															
回	内 容			キーワード			準備学習(予習・復習)の内容と分量				準備学習に要する時間				
1回	研究課題の明確化			文献検索、文献検討、キーワードの特定			＜予習＞研究課題を明らかにするために、既存文献より明らかなこと明らかでないことを調べてくる(文献レビュー)。				20				
2回	研究課題の明確化			研究デザイン、研究方法			＜予習＞適切な研究デザイン・研究方法・測定尺度により研究計画書を作成してくる。				20				
3回	研究計画書の作成(1)			構成要素、実施計画			＜予習＞研究課題にあった実施計画を検討する。				10				
4回	研究計画書の作成(2)			研究方法、妥当性と信頼性			＜予習＞研究課題にあった研究方法の検討する。				10				
5回	研究計画書の作成(3)			倫理原則、倫理的責任、倫理的配慮			＜予習＞倫理的配慮について調べて、必要なことを記述してくる。				20				
6回	データ収集			データの収集法、予備調査、本調査			＜予習＞データの収集のための調査の方法を検討し決定する。				20				
7回	データ収集			データを読む、統計処理、質的統合			＜予習＞データの収集のための調査を実施する。				20				
8回	データ分析・検討			データ分析法			＜予習＞研究目的に合った分析法を調べておく。				20				
9回	データ分析・検討			データ分析法			＜予習＞研究目的に合った分析法を活用する。				26				
10回	修士論文の作成			論文の構成要素、図・表、文献			＜予習＞論文のまとめ方の基本と方法を調べておく。研究目的・方法・結果・考察、科学的で論理的な記述、図・表の作成法、文献の活用				30				
11回	修士論文の作成			論文の構成要素			＜予習＞論文全体をまとめる。				12				
12回	修士論文の作成			論文の構成要素			＜予習＞論文全体をまとめる。				12				
13回	発表と成果			発表、抄録			＜予習＞発表の準備をする。				12				
14回	論文提出			論文提出			＜予習＞指定された書式で期限内に提出する。				4				
15回	調査協力者への結果報告			報告			＜予習＞結果報告を作成する。				4				
計												240			
成 績 評 価		小テスト		0%		学習成果のフィードバック		定期的にゼミ(報告会)を設け、報告に対するコメント、および論文の方向性について意見交換する							
		試験		0%											
		レポート		60%											
		学習態度		20%		備考		研究論文の取り組みと達成度で評価 60% 学習態度はディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など総合的な評価20% その他はプレゼンテーションで評価 20% * 学位論文審査(口頭試問における最終試験を含む)を受ける							
		その他		20%											
		計		100%											
テキスト		テキストなし。 参考書は適宜紹介する。													
テキスト以外の参考書		テキストなし。 参考書は適宜紹介する。													
履修上の注意事項や学習上の助言など		・研究科で決められたスケジュールに沿い、研究目的に適した研究計画書であることが基本である。 ・研究活動は、研究計画書に依って主体的に取り組み、徐々に研究成果となっていくため、院生の自主性が重要となる。													

研究科・学 年		看護学研究科 1・2年							
講義番号	501	教科名	看護学特別研究						
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	坪川 トモ子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		ヒューマンケアの観点から、人々の健康と生活支援に関わる看護専門職として研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいて研究計画を立案、適切な調査法によるデータ収集、質的又は統計学的手法による分析を行い、それらを踏まえて研究論文の作成に至るまでのプロセスを自立してできるように指導する。							
学生の学習 (行動)目標		1. 研究的疑問に関わる文献収集とそのレビューを行い、研究課題を明確化できる。 2. 研究課題の解明に適切な研究方法を選択することができる。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。 4. 適切な研究方法を用いてデータ収集し、客観的・科学的に分析できる。 5. 研究結果を分かりやすくかつ適切に記述し、客観的・科学的考察を加えて論文を作成できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高めることができる。 7. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深めることができる。							
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	文献検討による研究テーマ、研究課題の明確化					研究課題	＜予習＞既習の看護研究方法の復習。自己の研究課題を再確認する。		20
2回	研究課題の明確化 研究課題・研究背景、研究の目的・意義					研究課題	＜予習＞研究背景を再整理し、研究課題を再確認する。		10
3回	研究計画の作成 (1)研究デザイン、研究課題に即した研究方法の検討					研究デザイン 構成要素 実施計画	＜予習＞研究課題の研究デザインを考える。		10
4回	研究計画書の作成 (2)研究方法、データ収集の方法・期間・データ分析の方法					研究方法 妥当性・信頼性の確保	＜予習＞研究目的に合う研究方法に関連する文献を読み、整理する。		10
5回	研究計画書の作成 (3)安全性の確保、人権・プライバシー保護に関する配慮					調査の任意性 個人情報・プライバシーの保護 倫理的配慮	＜予習＞既習の看護研究方法を復習する。研究課題に対応する研究計画(案)を作成する。		20
6回	倫理審査委員会提出書類の作成・申請手続き(機関・施設の基準に準拠する)					倫理審査 審査手続き 不正行為	＜予習＞倫理申請書(案)を作成する。		20
7回	研究対象者、研究協力施設との調整					研究協力者の募集方法 協力依頼の方法	＜予習＞研究計画書の確認、データ収集のための協力依頼施設との交渉手続きを検討する。		10
8回	データ収集と整理 データの保管					データの収集と管理、予備調査、本調査	＜予習＞収集したデータの適正な保管管理と、経験知のデータ管理に関する改善点を検討する。		10
9回	データ収集と分析					データの収集と分析方法	＜予習＞看護研究方法と看護情報統計学を復習し、分析方法を考える。		20
10回	データ分析結果					結果の整理 主となる結果、図表作成	＜予習＞看護研究方法と看護情報統計学を復習し、結果を整理する。		20
11回	論文構成の検討					論文構成	＜予習＞論文のアウトラインを作成する。		20
12回	論文作成					考察の柱と論点整理	＜予習＞研究課題に関連する先行研究を熟読し、考察の論点を整理する。		20
13回	論文の推敲					論文の構成要素	＜予習＞研究目的、結果、考察の視点の統一性の検討と、文章の推敲をする。		20
14回	論文提出					作成要領 審査基準	＜予習＞指定された書式と方法による期限までに提出する。		20
15回	発表と評価					口頭試問	＜予習＞発表資料の準備とプレゼンテーションを試行する。 ＜復習＞審査結果を踏まえ、論文を見直す。		10
計									240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		毎回、前回までの学習成果の確認と、新たな報告に対するコメント、および論文の方向性など、次のステップに進められるようフィードバックする。			
		試験	0%						
		レポート	60%						
		学習態度	20%	備考		・レポート60%は、研究論文への取り組みと達成状況で評価する。 ・学習態度20%は、ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など総合的に評価する。 ・その他20%は、プレゼンテーションで評価する。 ・学位論文審査(口頭試問)を受ける。			
		その他	20%						
		計	100%						
テキスト		必要時配布する。							
テキスト以外の参考書		研究課題に合う文献を紹介する。							
履修上の注意事項や学習上の助言など		問題意識に基づいて、主体的に取り組むことが大切であり、研究科のスケジュールに沿い見通しをもって計画的に進めることが成果につながり重要となる。							

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年			
講義番号		501		教科名		看護学特別研究	
単位数		8		必・選		必修	
開講時期		通年		担当者		中平 浩人	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		ヒューマンケアの視点をあて、健康や生活支援などに関わる研究課題の設定、倫理的配慮に基づく研究計画の立案、適切な調査法によるデータ収集、質的または量的な手法による分析、研究論文の作成といった一連のプロセスを、主体的に推進できるように研究指導を行う。					
学生の学習 (行動)目標		1. 研究的疑問に関わる文献収集とそのレビューを行い、研究課題を明確化できる。 2. 研究課題の解明に適切な研究方法を選択することができる。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。 4. 適切な研究方法を用いてデータ収集し、客観的・科学的に分析できる。 5. 研究結果を分かりやすくかつ適切に記述し、客観的・科学的考察を加えて論文を作成できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高めることができる。 7. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深めることができる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容			キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量	
1回	関心領域の文献の批判的検討			研究態度 文献データベース 検索法		＜復習＞既習した看護研究法を整理する。＜予習＞活用した文献に関する自己の見解を明らかにし整理しておく	
2回	研究課題の検討:研究したい問いや現象が研究課題となりうるのかの検討			看護現象 研究疑問 研究課題		＜復習＞看護現象における課題に関する知識について整理する。＜予習＞課題に関わる事例を説明できるように記述する。	
3回	研究方法の検討 その1 1)探求したい研究デザイン、現象のデータ収集方法の検討			研究デザイン 研究方法		＜復習＞研究課題の明確化のプロセスを把握しておく。＜予習＞科学的・論理的に研究活動を推進できるように検討して臨む。	
4回	研究方法の検討 その2 2)探求したい現象の研究における倫理的配慮の検討			研究デザイン 研究方法 倫理的配慮		＜復習＞研究課題や研究方法に関わる倫理指針について把握しておく。＜予習＞自己の研究課題に関わる倫理的配慮について検討して臨む。	
5回	研究方法の検討 その3 3)探求したい現象の具体的なデータ収集方法の検討			研究方法 適時性 実行可能性		＜復習＞研究課題の明確化を図る。＜予習＞科学的・論理的に研究活動を推進できるように、文献検討を行う。	
6回	研究計画書の作成 その1 1)研究課題・研究背景、研究の目的・意義			研究計画書 構成要素 実施計画		＜復習＞研究計画の立案の基本を把握する。＜予習＞研究課題に対応した的確な研究計画(案)を作成して臨む。	
7回	研究計画書の作成 その2 2)研究方法／研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法			研究方法 妥当性・信頼性の確保		＜復習＞研究目的に対応した研究方法について学習する。＜予習＞適切な調査方法について検討して臨む。	
8回	研究計画書の作成 その3 3)安全性の確保(予想される有害現象と対策)人権・プライバシー保護に関する配慮			調査の任意性 個人情報・プライバシーの保護		＜復習＞研究に関わる人権やプライバシー保護等について学習する。＜予習＞倫理的課題に対する対処について検討しておく。	
9回	倫理審査委員会提出書類の作成・申請手続き(機関・施設の基準に準拠する)			倫理審査 審査手続き 不正行為		＜復習＞研究倫理や看護倫理等について学習する。＜予習＞倫理的課題に対して適切に対応について整理する。	
10回	研究対象者、研究協力施設との調整			研究協力者の募集方法 協力依頼の方法		＜復習＞研究計画書の確認、＜予習＞データ収集のための協力依頼施設との交渉手続きについて検討する。	
11回	データ収集・整理、データの適正な保管管理			データの取り扱い 管理方法		＜復習＞収集したデータの適正な保管管理に関する経験知を踏まえる。＜予習＞適正なデータ管理について改善点を検討する。	
12回	妥当なデータ分析 研究デザインに応じた研究結果の生成、指導者からのスーパービジョン			データ分析法 信頼性・妥当性の確保		＜復習＞妥当性・信頼性のある分析手続きを学習する。＜予習＞確かな研究成果を導き出すための分析法を検討する。	
13回	修士論文の作成			論文の構成要素 作成方法 評価基準		＜復習＞論文作成方法について学習する。＜予習＞研究結果を科学的・論理的に論述できるように推敲する。	
14回	発表と評価			研究報告 抄録 発表媒体 論文投稿		＜復習＞研究成果の適切な発表について学習する。＜予習＞適切な媒体を選択して発表内容・方法を検討する。	
15回	論文提出			論文提出		＜復習＞指定された書式の確認。＜予習＞論文内容の確認。	
計				240			
成績評価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		1.「研究課題・方法の検討の過程と成果」(20%)は、面談やゼミ等でのプレゼンテーションやディスカッション等で評価し、口頭や書面でコメントによりフィードバックする。 2.「研究計画の作成過程と達成度」(30%)は、研究課題に対応した的確な研究計画(案)を作成できるように、面談やゼミ等を通じてコメントし、検討を重ねて支援する。 3.「研究論文の作成過程と達成度」(50%)は、研究目的と研究方法とが対応し、論理構成が一貫し、妥当な方法で分析し、科学的な裏付けによる論述であるかを面談やゼミ等を通じてコメントし、推敲を重ね、論文として精度が上がるように支援する。	
		試験	0%				
		レポート	0%				
		学習態度	0%	備考		その他100%は、以下の配分で評価する。 ・研究課題・方法の検討の過程と成果 20% ・研究計画の作成過程と達成度 30% ・研究論文の作成過程と達成度 50% ※学位論文審査を受ける。	
		その他	100%				
		計	100%				
テキスト		特に、指定のテキストはない。					
テキスト以外の参考書		＜参考書＞ 看護研究入門―実施・評価・活用―:バーンズ&グローブ/黒田裕子,他監訳:エルゼビア・ジャパン, 2007 臨床研究マイスターへの道 医学統計学が身につくテキスト A. Petrie, C. Sabin著、杉森裕樹訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014(看護情報統計学のテキスト)					
履修上の注意事項や学習上の助言など		研究科で決められたスケジュールに沿うことが大事になる。 関心のある研究分野に新しい知見を追加することになる研究目的を設定し、それに対する結論を出すための正しい研究計画書を作成することが基本である。 そして、研究活動は、主体的に計画的に取り組みながら、徐々に研究成果を挙げていくものである。研究し甲斐のあるテーマを選び、自主的に取り組まれる事を期待する。					

研究科・学 年		看護学研究科 1・2年						
講義番号	501	教科名	看護学特別研究					
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	池 睦美	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		質の高い看護を組織的に提供するために「看護サービスマネジメント」について探求し、成果を論文としてまとめる。特に「個を活かすことにより組織は活性化する」という人的資源管理の考えに基づき、看護職のキャリア開発や人材育成の取り組み、リーダーシップに関する研究指導を行う。						
学生の学習 (行動)目標		1. 臨床における課題を明確にし、研究課題を抽出できる。 2. 研究課題に関する有効な文献検索ができる 3. 研究計画書が作成できる。 ・文献のクリティークを通して、研究目的を設定できる。 ・適切な研究デザインを選択できる。 ・データ収集法・分析方法を計画できる。 ・倫理的配慮を具体的に記述できる。 4. 研究計画に沿って、データ収集・分析ができる。 5. 研究結果を適切に記述できる。 6. 文献を活用し、結果の妥当性、信頼性を検証しながら考察ができる。 7. 論文を作成できる。 8. 効果的なプレゼンテーションができる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容			キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	文献検討による研究テーマ、研究課題の明確化			研究課題		＜予習＞「看護管理学演習Ⅰ」で明確にした自己の課題を検討してくる。「看護研究法」の講義を復習してくること。		20
2回	研究目的・研究デザインの選択			研究デザイン		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくる。 研究課題の研究デザインを考えてくること。		10
3回	研究方法を計画する			研究方法		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくること。研究目的にあった研究方法を考えてくること。		10
4回	倫理的配慮の検討			研究の倫理的視点		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくる。		10
5回	研究計画書の作成			研究計画書		＜予習＞「看護研究法」の講義を復習してくる。研究計画書案を作成してくる。		20
6回	倫理的な申請手続き			研究の倫理的視点		＜予習＞倫理申請書を作成してくる。		20
7回	研究対象者、研究協力施設との調整			研究協力依頼の方法		＜予習＞研究協力依頼の方法と交渉手続きについて考えてくる。		10
8回	データ収集と整理、データの保管			データ収集の方法 分析方法		＜予習＞収集したデータの整理・保管方法について考えてくる。		10
9回	データ収集と分析			データ収集の方法 分析方法		＜予習＞「看護研究法」「看護情報統計学」の講義を復習し、分析方法を考えてくる。		20
10回	データ分析結果			結果の整理 結果の読み方 表作成		＜予習＞「看護研究法」「看護情報統計学」の講義を復習し、結果を整理してくる。		20
11回	論文構成の検討			論文構成		＜予習＞論文のアウトラインを作成してくる。		20
12回	論文作成			考察の視点		＜予習＞自己の研究に関連した文献を熟読して考察を考えてくる。		20
13回	論文推敲			論文の推敲		＜予習＞研究目的と考察の視点が対応しているか検討してくる。		20
14回	論文提出			作成要項、審査基準		＜予習＞指定された書式にそろえ、期限までに提出する。		20
15回	発表と評価			研究発表、口頭試問		＜予習＞発表資料の準備とプレゼンテーションを試行して臨む。 審査結果を生かし、論文を見直す。		10
計								240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	研究論文指導のプロセス(文献検討・文献クリティーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)で、主体性や計画性など取り組み姿勢をサポートしながら評価によってフィードバックする。			
		試験	0%					
		レポート	60%					
		学習態度	20%	備考	レポート60%は、研究論文の取り組みと達成度で評価する。 学習態度20%は、ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など総合的に評価する。 その他20%は、プレゼンテーションで評価する。 ＊学位論文審査を受ける。			
		その他	20%					
		計	100%					
テキスト		指定なし。適宜紹介する。						
テキスト以外の参考書		課題にあった文献を紹介する。						
履修上の注意事項や学習上の助言など		研究科のスケジュールに沿い、主体的に計画的に研究活動を進めていく。						

研究科・学 年		看護学研究科 1・2年						
講義番号	501	教科名	看護学特別研究					
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	上原 喜美子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		慢性疾患と共に生活する人と家族あるいは集団に対して、質の高いケアを提供するための責任、倫理的推論を探究する。特に慢性疾患を持つ人のニーズに添って、生命や生活への影響の改善につながることに関する研究を指導する。						
学生の学習 (行動)目標		1. 臨床における課題を明確にし、研究のための課題を抽出できる。 2. 倫理的配慮の手続きを含めた研究計画書を作成できる。 3. 看護研究のプロセスに沿って、データ収集・分析・検討ができる。 4. 看護研究のプロセスを通して、臨床における研究のあり方を考察できる。 5. 論理的・科学的思考に基づき、論文を作成できる。 6. 効果的なプレゼンテーションができる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	文献による研究課題の検討				研究課題	＜予習＞研究テーマに関する文献レビューを行ってくこと。		10
2回	文献検討による研究課題・研究テーマの明確化				研究課題 研究テーマ 文献クリティーク	＜予習＞関連する文献のレビューを行い、研究背景を整理してくること。		10
3回	研究方法の計画①				研究デザイン 研究目的と方法	＜予習＞「看護研究法」の講義の復習を行ってくこと。		10
4回	研究方法の計画②				研究方法 信頼性と妥当性	＜予習＞「看護研究法」の講義の復習し、研究計画書を作成してくること。		20
5回	倫理的配慮の検討				研究倫理	＜予習＞自らの研究計画に必要な倫理的配慮について、系統的にまとめてくこと。		10
6回	研究計画書の作成				研究計画書	＜予習＞「看護研究法」の講義の復習し、研究計画書を作成してくること。		10
7回	倫理審査委員会への申請書類作成と申請手続き				研究倫理 倫理審査	＜予習＞倫理審査申請書類を作成してくること。		10
8回	データ収集				データの収集と整理	＜予習＞研究計画書に沿いデータ収集のための準備を行ってくこと。		20
9回	収集データの分析				データ分析	＜予習＞「看護情報統計学」「看護研究」の復習を行ってくこと。		20
10回	データ分析結果の整理と検討				結果の整理	＜予習＞規定の形式で論文を作成してくること。		20
11回	データ分析結果と研究テーマの考察				分析と考察	＜予習＞規定の形式で論文を作成してくること。		30
12回	修士論文の構成				論文構成	＜予習＞分析結果をもとに、研究テーマについて検討し文章化してくること。		10
13回	修士論文の作成と提出				論文作成 クリティーク	＜予習＞研究クリティークの手順に沿って、作業を行ってくこと。		40
14回	研究成果の発表				プレゼンテーション	＜復習＞これまでの研究成果をまとめてくこと。		10
15回	研究成果の報告				研究成果報告書の作成	＜予習＞研究協力施設または研究協力者への報告書を作成すること。		10
計								240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	研究論文作成過程において、適宜フィードバックを行っていく。			
		試験	0%					
		レポート	60%					
		学習態度	20%	備考	レポートは研究論文の取り組みと達成度である。 学習態度はディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度である。 その他は、プレゼンテーションである。 ＊学位論文審査を受ける。			
		その他	20%					
		計	100%					
テキスト		指定なし。適宜紹介する。						
テキスト以外の参考書		テキストなし。 参考書は随時紹介する。						
履修上の注意事項や 学習上の助言など		事前準備に余裕を持って、スケジュールに沿って課題に取り組んでください。						

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年				
講義番号	501	教科名	看護学特別研究					
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	塚原 加寿子	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		学校保健学の視点から子どもの健康や発達支援などに関わる研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいて研究計画を立案、適切な調査法によるデータ収集、質的又は統計学的手法による分析を行い、それらを踏まえて研究論文の作成に至るまでのプロセスを自立してできるように指導する。						
学生の学習 (行動)目標		1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を明確化できる。 2. 研究課題の解明に適切な研究方法を選択することができる。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。 4. 適切な研究方法を用いてデータ収集し、客観的・科学的に分析できる。 5. 研究結果を分かりやすく記述し、客観的・科学的考察を加えて論文を作成できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高めることができる。 7. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深めることができる。						
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	研究課題の検討:研究したい問いや現象が研究課題となりうるのかの検討					研究課題 文献クリティーク	予習:自己の探求したい研究課題に関連する文献を集め、要約して読む。検討結果を踏まえ、課題をさらに検討してくる。	10
2回	研究方法の検討 その1 1)探求したい研究デザイン、現象のデータ収集方法の検討					研究方法 研究デザイン 文献クリティーク	予習:関連する文献を読んでおく。	10
3回	研究方法の検討 その2 2)探求したい現象の研究における倫理的配慮の検討					研究方法 倫理的配慮	予習:関連する文献を読んでおく。	10
4回	研究方法の検討 その3 3)探求したい現象の具体的なデータ収集方法の検討					研究方法 データ収集	予習:具体的なデータ収集方法の案を考え、整理しておく。	10
5回	研究計画書の作成 その1 1)研究課題・研究背景、研究の目的・意義					研究計画書 研究の目的・意義	予習:研究計画書を作成しておく。	10
6回	研究計画書の作成 その2 2)研究方法／研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析の方法					研究計画書 研究方法 データ収集 データ分析	予習:研究計画書の修正をしておく。	10
7回	研究計画書の作成 その3 3)安全性の確保、人権やプライバシー保護に関する配慮					研究計画書 倫理的視点	予習:予想される有害現象と対策について整理しておく。	10
8回	倫理審査委員会提出書類の作成・申請手続き(機関・施設の基準に準拠する)					倫理審査	予習:倫理申請書を作成しておく。	10
9回	研究対象者、研究協力施設との調整					研究対象者 研究協力施設	予習:連絡調整日程や場所等は複数の手段で確認して調整しておく。	10
10回	研究計画の実施 データ収集と整理、データの保管					研究計画の実施 データ収集と整理	予習:「看護研究法」「看護情報統計学」の講義を復習し、分析方法を考えておく。	50
11回	データ分析					データ分析 討論	予習:データを整理しておく。	40
12回	論文構成の検討					論文構成	予習:論文のアウトラインを作成しておく。	10
13回	論文作成					論文の推敲	予習:研究目的と考察の視点が対応しているかを検討する。	40
14回	発表と評価					修士論文発表会 口頭試問	予習:発表資料の準備とプレゼンテーションを試行しておく。 復習:研究を発展させる示唆(評価)を生かし、論文を見直す。	5
15回	論文提出					論文提出	指定された書式にそろえ、期限までに提出する。	5
計								240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック		1.文献検討や論文のクリティーク;自主ゼミでのプレゼンテーションの中で評価し、適時コメントによりフィードバックする。 2.研究論文の取り組みや達成度;研究目的と研究方法と対照させて、論旨が一貫し、論理的・科学性に裏付けて論述しているか面談や自主ゼミになどを通じて、推敲を重ね、論文としての精度が上がるように支援する。 3.プレゼンテーションへの参加態度;他の院生の研究発表や学会発表等を通じて、自己の参加態度についてリフレクションによる望ましい態度形成を図れるよう指導する。		
		試験	0%					
		レポート	0%					
		学習態度	0%	備考		その他100%は、以下の配分で評価する。 文献検討、研究論文クリティークの成果 20% 研究論文の取り組みと達成度 60% ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度 20% また、学位論文審査(公開発表会における最終試験を含む)を受けることが条件である。		
		その他	100%					
		計	100%					
テキスト		テキストなし。						
テキスト以外の参考書		参考書は適宜紹介する。						
履修上の注意事項や 学習上の助言など								

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年			
講義番号	501	教科名	看護学特別研究				
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	佐々木 祐子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	質の高いエンド・オブ・ライフケアを提供するために、患者と家族への包括的なケアに関する研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいて研究計画を立案、適切な調査方法によってデータ収集・分析を通して、研究論文作成のプロセスが主体的に進められるように研究指導を行う。						
学生の学習 (行動)目標	1. 臨床における課題を明確にし、研究のための課題を抽出できる。 2. 研究課題に対して必要な文献検討ができる。 3. 倫理的配慮の必要性を十分に検討し、研究計画書を作成できる。 4. 研究計画に沿って、適切にデータ収集・分析ができる。 5. 研究結果を分かりやすく記述し、学術的知見から考察できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高めることができる。 7. 論文作成のプロセスを通して、看護学における研究のあり方を考察できる。						
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	文献検討による研究課題の明確化①				リサーチエッセンス、研究テーマの絞り込み、文献レビュー	＜予習＞研究テーマに関する文献レビューを行ってくる。	10
2回	文献検討による研究課題の明確化②				研究課題	＜予習＞文献レビューの結果を整理して、研究背景を整理してくる。	10
3回	研究方法の計画①				研究デザイン 研究目的	＜予習＞「看護研究法」の講義の復習を行ってくる。研究デザイン、研究目的を考えてくる。	10
4回	研究方法の計画②				研究方法 分析方法の検討	＜予習＞「看護研究法」の講義の復習を行ってくる。研究方法を具体的に考えてくる。	10
5回	研究計画書の作成①				研究計画書 プレゼンテーション	＜予習＞「看護研究法」の講義の復習し、研究計画書を作成してくる。 ＜復習＞プレゼンテーション後に研究計画書の修正を行う。	20
6回	倫理的配慮の検討				ICN倫理指針 研究倫理	＜予習＞倫理的配慮について検討してくる。	10
7回	倫理審査の申請と研究計画の再検討				倫理審査	＜予習＞倫理審査申請書類を作成してくる。	10
8回	データ収集				データ収集と整理	＜予習＞データ収集の準備と整理について考えてくる。	20
9回	データ分析				データ分析	＜予習＞「看護情報統計学」「看護研究」の復習を行ってくる。	20
10回	データ分析結果の整理と検討				結果の整理と解釈	＜予習＞分析後に明らかになった点を整理してくる。	20
11回	データ分析結果の考察				分析と考察	＜予習＞分析結果をもとに考察を検討してくる。	30
12回	修士論文の構成の検討				論文構成	＜予習＞論文のアウトラインを考えてくる。	10
13回	修士論文の作成と提出				論文作成、クリティーク	＜予習＞規定の形式で論文を作成してくる。	40
14回	研究成果の発表				プレゼンテーション	＜予習＞既定の方式に沿い、発表資料とプレゼンテーションの準備をする。	10
15回	研究成果の報告				研究成果報告書の作成	＜予習＞研究協力者への報告書を作成する。	10
計							240
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	研究論文作成過程において、適宜フィードバックを行っていく。			
	試験	0%					
	レポート	60%					
	学習態度	20%	備考	レポート60%は研究論文の取り組みと達成度である。 学習態度20%はディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度である。 その他20%は、プレゼンテーションである。 ＊学位論文審査(口頭試問における最終試験)を受ける。			
	その他	20%					
	計	100%					
テキスト	指定なし						
テキスト以外の参考書	テキストなし 参考書は随時紹介する						
履修上の注意事項や 学習上の助言など	事前準備に余裕を持って、スケジュールに沿って課題に取り組んでください。						

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年			
講義番号	501	教科名	看護学特別研究				
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	小林 正子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		性と生殖に関わるリプロダクティブヘルスの視点から、次世代育成の準備期である思春期保健全般と次世代育成期にある周産期の母子と家族の健康課題と支援、及びその支援の中核を担う助産師の専門性発揮と自立について、出産の歴史・社会的考察をもとに研究指導を行う。					
学生の学習 (行動)目標		1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を明確化し説明できる。 2. 研究課題の解明に適切な研究方法を選択し説明できる。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。 4. 適切な研究方法を用いてデータ収集し、客観的・科学的に分析できる。 5. 研究結果を分かりやすく記述し、客観的・科学的考察を加えて論文を作成できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高め作成できる。 7. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深め説明できる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	研究課題の明確化				文献検索、文献検討、キーワードの特定	＜予習＞研究課題を明らかにするために、既存文献より明らかなこと明らかでないことを調べてくる(文献レビュー)。	20
2回	研究課題の明確化				研究デザイン、研究方法	＜予習＞適切な研究デザイン・研究方法・測定尺度により研究計画書を作成してくる。	20
3回	研究計画書の作成(1)				構成要素、実施計画	＜予習＞研究課題にあった実施計画を検討する。	10
4回	研究計画書の作成(2)				研究方法、妥当性と信頼性	＜予習＞研究課題にあった研究方法の検討する。	10
5回	研究計画書の作成(3)				倫理原則、倫理的責任、倫理的配慮	＜予習＞倫理的配慮について調べて、必要なことを記述してくる。	20
6回	データ収集				データの収集法、予備調査、本調査	＜予習＞データの収集のための調査の方法を検討し決定する。	20
7回	データ収集				データを読む、統計処理、質的統合	＜予習＞データの収集のための調査を実施する。	20
8回	データ分析・検討				データ分析法	＜予習＞研究目的に合った分析法を調べておく。	20
9回	データ分析・検討				データ分析法	＜予習＞研究目的に合った分析法を活用する。	26
10回	修士論文の作成				論文の構成要素、図・表、文献	＜予習＞論文のまとめ方の基本と方法を調べておく。研究目的・方法・結果・考察、科学的で論理的な記述、図・表の作成法、文献の活用	30
11回	修士論文の作成				論文の構成要素	＜予習＞論文全体をまとめる。	12
12回	修士論文の作成				論文の構成要素	＜予習＞論文全体をまとめる。	12
13回	発表と成果				発表、抄録	＜予習＞発表の準備をする。	12
14回	論文提出				論文提出	＜予習＞指定された書式で期限内に提出する。	4
15回	調査協力者への結果報告				報告	＜予習＞結果報告を作成する。	4
計							240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	定期的にゼミ(報告会)を設け、報告に対するコメント、および論文の方向性について意見交換する		
		試験	0%				
		レポート	60%				
		学習態度	20%	備考	研究論文の取り組みと達成度で評価 60% 学習態度はディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など総合的な評価20% その他はプレゼンテーションで評価 20% ＊学位論文審査(口頭試問における最終試験を含む)を受ける		
		その他	20%				
		計	100%				
テキスト		テキストなし。					
テキスト以外の参考書		参考書は適宜紹介する。					
履修上の注意事項や学習上の助言など		・研究科で決められたスケジュールに沿い、研究目的に適した研究計画書であることが基本である。 ・研究活動は、研究計画書に依って主体的に取り組み、徐々に研究成果となっていくため、院生の自主性が重要となる。					

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年			
講義番号	501	教科名	看護学特別研究				
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	和田 由紀子
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連	本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)	質の高い看護を組織的に提供するために「看護サービスマネジメント」について探求し、成果を論文としてまとめる。特に「個を活かすことにより組織は活性化する」という人的資源管理の考えに基づき、看護職のキャリア開発や人材育成の取り組み、リーダーシップに関する研究指導を行う。						
学生の学習 (行動)目標	1. 臨床における課題を明確にし、研究課題を抽出できる。 2. 研究課題に関する有効な文献検索ができる 3. 研究計画書が作成できる。 ・文献検討を行い研究テーマを明確化し、研究目的を設定できる。 ・適切な研究デザイン・研究方法を計画できる。 ・適切なデータ収集法・分析方法を選択できる。 ・倫理的配慮を具体的に記述できる。 4. 研究計画と研究倫理に沿い、データ収集・分析ができる。 5. 研究結果を適切に記述できる。 6. 文献を活用し、結果の妥当性、信頼性を検証しながら考察ができる。 7. 論理的・科学的思考に基づき、論文を作成できる。 8. 効果的なプレゼンテーションができる。						
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	文献による研究課題の検討				研究課題	＜予習＞研究課題として関心のある領域の文献レビューを行う。	20
2回	文献検討による研究課題・研究テーマの明確化				研究課題 研究テーマ 文献クリティーク	＜予習＞関連する文献のレビューを行い、研究背景を整理する。	20
3回	研究方法の計画①				研究デザイン 研究目的と方法	＜予習＞研究目的に則した研究デザインを考える。看護研究法・看護情報統計学を復習する。	20
4回	研究方法の計画②				研究方法 信頼性と妥当性	＜予習＞研究デザイン・研究目的に則した研究方法を考える。	20
5回	倫理的配慮の検討				研究倫理	＜予習＞自らの研究計画に必要な倫理的配慮について、系統的にまとめる。	10
6回	研究計画書の作成				研究計画書	＜予習＞具体的な研究計画書(案)を作成し、その整合性・妥当性を検討する。	20
7回	倫理審査委員会への申請書類作成と申請手続き				研究倫理 倫理審査	＜予習＞倫理審査申請書類を作成する。	5
8回	データ収集				データの収集と整理	＜予習＞研究計画書に沿いデータ収集のための準備を行う。	20
9回	収集データの分析				データ分析	＜予習＞収集したデータを分析可能な形に整理し、研究計画に沿って分析を行う。	20
10回	データ分析結果の整理と検討				結果の整理と解釈	＜予習＞看護情報統計学を復習し、分析結果を整理して読み解く。	20
11回	データ分析結果と研究テーマの考察				分析と考察	＜予習＞分析結果をもとに、研究テーマについて検討し文章化する。	15
12回	修士論文の構成				論文構成	＜予習＞論文のアウトラインを作成する。	10
13回	修士論文の作成と提出				研究課題・研究テーマの検討	＜予習＞規定の方式に沿い、論文を作成する。	30
14回	研究成果の発表				プレゼンテーション	＜予習＞規定の方式に沿い、発表資料とプレゼンテーションの準備をする。	5
15回	研究成果の報告				研究成果報告書の作成	＜予習＞研究協力者への報告書を作成する。	5
計							240
成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	研究論文指導のプロセスで、適宜フィードバックを行う。			
	試験	0%					
	レポート	60%					
	学習態度	20%	備考	＊学位論文審査を受けることを条件とする。 レポート60%は、提出された研究論文の達成度で評価する。学習態度20%は、研究論文への取り組み、ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度等で総合的に評価する。その他20%は、研究テーマ・研究課題に対する文献検討や文献クリティークの成果で評価する。			
	その他	20%					
	計	100%					
テキスト	特に指定しない。						
テキスト以外の参考書	参考書は適宜紹介する。						
履修上の注意事項や学習上の助言など	研究科のスケジュールに沿い、主体的・計画的に研究活動を進めていく。						

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年			
講義番号	501	教科名	看護学特別研究				
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	桐原 更織
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照					
講義の概要 (教育目標を含む)		病気や障がいのあるこどもとその家族の健康や、家族を基盤とした社会の中での子どものLife(生命・生活・人生)における看護の機能と役割を探索するテーマについて、研究指導を行う。					
学生の学習 (行動)目標		1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を明確化し説明できる。 2. 研究課題の解明に適切な研究方法を選択し説明できる。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。 4. 適切な研究方法を用いてデータ収集し、客観的・科学的に分析できる。 5. 研究結果を分かりやすく記述し、客観的・科学的考察を加えて論文を作成できる。 6. 研究成果の妥当性・信頼性について評価を受け、論文の完成度を高めることができる。 7. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について認識を深めることができる。					
授業計画(シラバス)							
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	研究課題の明確化:研究したい問いや現象が研究課題となり得るかの検討				文献クリティーク、キーワードの特定、研究課題	＜予習＞研究課題を明らかにするために、先行文献より明らかなこと明らかでないことを調べる(文献クリティーク)。	20
2回	研究課題の明確化:研究課題、研究背景、研究の目的と意義				研究課題	＜予習＞研究背景を整理し、研究課題について再検討する。	10
3回	研究計画書の作成(1):研究デザイン、研究方法、データ収集の方法・期間				研究デザイン 研究方法 妥当性・信頼性の確保	＜予習＞研究課題にあった研究デザイン、研究方法を検討する。	10
4回	研究計画書の作成(2):研究方法、データ分析方法				研究方法 妥当性と信頼性	＜予習＞研究課題にあった分析方法を検討する。	10
5回	研究計画書の作成(3):倫理的配慮(安全性の確保、人権やプライバシー保護に関する配慮など)				倫理原則 倫理的責任 倫理的配慮	＜予習＞倫理的配慮について最新の研究に関する倫理指針を確認し、倫理審査申請書(案)を作成する。	20
6回	倫理審査委員会提出書類の作成・申請手続き(機関・施設の基準に準拠する)				倫理審査 審査手続き 不正行為	＜予習＞倫理審査申請書を作成する。	20
7回	研究対象者、研究協力施設との調整				研究対象者の募集方法 協力依頼の方法	＜予習＞研究計画書の確認をする。研究対象者や研究協力施設との交渉手続きを検討する。	10
8回	データ収集と整理 データの保管				データの収集と管理 予備調査 本調査	＜予習＞看護研究法、看護情報統計学の講義を復習し、分析方法を確認する。データの保管についても確認する。	10
9回	データ分析				データ分析方法	＜予習＞データを整理し、分析の視点を整理する。	20
10回	データ分析				データ分析方法 結果の示し方	＜予習＞データ分析について再検討する。	20
11回	論文の作成:アウトラインの作成				論文の構成要素 作成方法 評価基準	＜予習＞仮アウトラインを作成する。	20
12回	論文の作成:結果までの示し方、考察における論点の整理				論文の構成要素 作成方法 評価基準	＜予習＞研究目的に合った結果の記し方、考察における論点を整理する。	20
13回	論文の推敲				論文の構成要素 作成方法 評価基準 一貫性	＜予習＞研究目的・結果・考察の内容の一貫性を見直し、論文の推敲をする。	20
14回	発表と評価				研究発表 口頭試問	＜予習＞発表資料とプレゼンテーションの準備をする。 ＜復習＞論文を推敲する。	20
15回	論文提出				論文提出	＜予習＞指定された書式と方法で、期限までに提出する。	10
計							240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	定期的にゼミ(報告会)を設け、報告に対するコメント、および論文の方向性について意見交換する		
		試験	0%				
		レポート	60%				
		学習態度	20%	備考	・レポート60%:研究論文の取り組みと達成状況で評価する。 ・学習態度20%:ディスカッションやプレゼンテーションへの参加態度など総合的に評価する。 ・その他20%:プレゼンテーションで評価する。 ＊学位論文審査(口頭試問における最終試験)を受けることが条件である。		
		その他	20%				
		計	100%				
テキスト		テキストなし。 参考書は適宜紹介する。					
テキスト以外の参考書		テキストなし。 参考書は適宜紹介する。					
履修上の注意事項や 学習上の助言など		・研究科で決められたスケジュールに沿い、各自の研究スケジュールを確認しながら計画的に進めることが重要である。 ・研究活動においては、常に問題意識をもって主体的に取り組むことが研究を前に推し進める原動力となるため、自主性をもって取り組まれることを期待する。					

研究科・学 年		看護学研究科		1・2年				
講義番号	501	教科名	看護学特別研究					
単位数	8	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	田中 瞳	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		本シラバス冊子の巻頭に掲載の「ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表」参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		高齢者を取り巻く諸問題(健康、社会参加、生活環境、虐待等)の解決に資する研究課題を明確化し、研究計画を立案する。研究課題に沿って研究内容、方法論に関する検討、調査および分析の過程を通して、自立して研究論文を作成し公表できる能力を習得できるよう指導する。						
学生の学習 (行動)目標		1.現在の研究動向を見極め、研究課題を設定できる 2.研究課題に関する文献検討を通し、批判的思考ができる 3.論理的かつ一貫性のある研究計画を作成できる(研究目的、研究デザイン、調査方法、データ分析、倫理的配慮) 4.研究計画書に基づき調査を実施し、適切なデータ収集・分析ができる 5.分析結果を適切に提示できる 6.結果に基づく考察ができる 7.研究の限界と今後の課題を述べることができる						
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	研究課題の検討					研究課題、批判的思考	〈予習〉関心領域の文献検討を行い、研究上の問いを根拠のある背景的情報をもとに、研究課題を設定する。文献検索、文献クリティークを行い、得られた知見を整理しておく。	20
2回	研究課題の明確化					新規性、科学的興味深さ、必要性、倫理性	〈予習〉現在の研究動向を見極め、研究課題として明確にする。	20
3回	研究計画のアウトライン作成					研究目的・意義、研究デザイン、対象者、観察項目、調査方法、アウトカム	〈予習〉実施可能性を備えた研究方法を検討する。	20
4回	研究計画書作成(1)					研究背景、研究目的	〈予習〉先行知見と自身の見解を整理し、計画する研究の意義をまとめておく。	15
5回	研究計画書作成(2)					調査方法、倫理的配慮、研究スケジュール	〈予習〉研究目的に即した調査方法と内容を明確にする。研究実施に関連する倫理指針の内容を確認しておく。参加者の人権およびプライバシーに関する事項他についてまとめておく。	10
6回	研究計画書作成(3)					データ分析方法	〈予習〉研究目的に即した分析方法について学習し、自己の研究課題での適用を整理する。	20
7回	倫理審査申請					倫理審査申請	〈予習〉調査依頼方法をまとめておく。申請手順と申請に必要な書式を確認し、作成する。	15
8回	研究参加者、研究協力施設への依頼					調査依頼、参加者・協力施設の開拓	〈予習〉調査協力依頼の手順を確認し、依頼に必要な文書等の準備を行う。	10
9回	データ収集					データの取り扱い、データ管理方法	〈予習〉倫理申請書類に記載した内容に順って適切なデータ管理に必要な環境を整えておく。	20
10回	論文作成(1)					論文構成	〈予習〉指定されている論文作成基準を確認する。論理的な文書の書き方の基本をおさえ、引用文献の適切な使用について整理しておく。	10
11回	データ分析					データ分析	〈予習〉データ分析手順を復習しておく。	25
12回	結果検討、考察					結果整理・分析	〈予習〉結果をもとに考察を行う。分析結果を論理的に記述する方法、図表の作成方法について整理しておく。	20
13回	論文作成(2)					論文構成、研究成果の公表準備	〈予習〉研究目的に従って議論を展開する。結果に裏付けられた結論を示す。	30
14回	学位論文審査					口頭試問	〈予習〉研究発表方法を学習し、プレゼンテーションの準備をする。	5
15回	論文提出					論文提出	〈予習〉指定された書式を整え、期限までに提出する。	5
計								240
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	ディスカッションおよびプレゼンテーションに対するコメント。研究過程、到達度に応じた個別指導。			
		試験	0%					
		レポート	0%					
		学習態度	20%	備考	研究姿勢・態度、研究進捗度および修士論文等を鑑みて研究指導教員が総合的に評価する。 学習態度:ディスカッション、プレゼンテーションへの参加態度、主体性 その他:研究論文の達成度 ただし、学位論文審査及び最終試験の合格を前提とする。			
		その他	80%					
		計	100%					
テキスト		必要時、指定する。						
テキスト以外の参考書		適宜紹介する。						
履修上の注意事項や学習上の助言など		・研究の全過程に真摯に取り組み、主体的に取り組むこと。 ・各自の修学計画の中間時点までに倫理審査の承認を得ることが望ましい。						

大学院看護学研究科教員名簿

(1) 専任教員

職 名	氏 名
研究科長・教授	中根 薫
教授	渡邊 典子
教授	坪川 トモ子
教授	中平 浩人
教授	中村 恵子
教授	池 睦美
教授	柄澤 清美
教授	上原 喜美子
教授	菅原 真優美
教授	塚原 加寿子
教授	佐々木 祐子
准教授	小林 正子
准教授	和田 由紀子
准教授	清水 理恵
准教授	桐原 更織
准教授	久保田 美雪
准教授	田中 瞳
助教	藤野 清美

(2) 非常勤教員

氏 名
○ 浅田 剛正
伊藤 孝憲
斎藤 まさ子
佐藤 富貴子
○ 中野 啓明
中村 恵子
中村 勝
○ 花澤 佳代
藤野 康之
○ 堀田 雄大
○ 本間 恵美子
本間 昭子
○ 真壁 あさみ

○新潟青陵大学学部専任教員、他研究科専任教員

2. 看護学研究科

日 程	予 定	備 考
【2025年】		
4月 2日(水)	入学式／オリエンテーション 履修登録期間(3～9日)	
4月10日(木)	前期授業開始	
6月 3日(火)	学位論文題目届提出期日 17時まで	4月23日(火) 創立記念日 6月28日(土) 大学院説明会
7月 8日(火)	修士論文提出期日 17時まで	
7月29日(火)	修士論文審査会(口頭試問による最終試験)	
7月30日(水)	前期定期試験期間 ～8月 5日(火)	
8月19日(火)	修正論文提出期限	
8月12日(火)	夏期休業 ～9月28日(日)	
9月 5日(金)	修士論文公開・中間発表会	9月13日(土) 大学院入試(一次)
9月24日(水)	後期オリエンテーション(履修登録期間 9/24-25)	
9月下旬	修了式(予定)	
9月29日(月)	後期授業開始	
11月 1日(土)	新潟青陵学会	
11月25日(火)	学位論文題目届提出期日 17時まで	11月29日(土) 大学院入試(二次) ※実施しない場合あり
12月27日(土)	冬期休業 ～1月4日(日)	
【2026年】		
1月 6日(火)	修士論文提出期日 17時まで	1月17日(土) 大学入学共通テスト ～18日(日) ※構内立ち入り禁止
1月27日(火)	修士論文審査会(口頭試問による最終試験)	
1月30日(金)	後期定期試験期間 ～2月5日(木)	
2月10日(火)	修正論文提出期限	2月10日(火) 大学院入試(三次) ※実施しない場合あり
3月 3日(火)	修了者名発表	
3月 6日(金)	修士論文公開・中間発表会	
3月17日(火)	修了式(予定)	
3月20日(木)	春期休業 ～31日(月)	

